

松本市子どもの権利に関する アンケート調査結果報告書

＜平成 30 年度＞

2019 年 3 月

松本市

目次

1. 調査概要	1
2. 調査結果のまとめ	2
(1) 子ども用アンケートのまとめ	2
(2) 保護者用アンケートのまとめ	2
3. 子ども用アンケート調査結果	3
(1) 属性	3
(2) 「あなたの気持ち」について	4
(3) 「松本市子どもの権利に関する条例」について	12
(4) 悩んでいること、困っていることについて	17
(5) 困っていること、つらいことの相談について	21
(6) 「あなたの意見を言ったりする機会」について	29
(7) 生活について	35
(8) 将来の仕事について	41
4. 保護者用アンケート調査結果	55
(1) 松本市子どもの権利条例について	55
(2) 子どもの権利相談室「こころの鈴」について	58
(3) お子さんの自己評価について	59
(4) お子さんにとって必要なことや場所について	60
(5) お子さんが自分の意見を言ったりすることについて	62
(6) 子どもの権利を実現するために必要な取組み	64
5. 親子ペア分析	66
(1) 「自分のことが好きか」に関する親子の認識のずれ	66
(2) 「ホッとできる場所の認識」のずれ	67

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、今後の松本市の子どもの権利擁護の取組みに活かすため、松本市の小学校、中学校、高校に通う児童・生徒およびその保護者の子どもの権利に関する意識や松本市の子どもの権利を守る取組みの認知度等を把握することを目的に実施した。

(2) 調査対象および実施方法

子ども用アンケート：松本市内の全小学校、中学校、高校、特別支援学校において、小学5年生、中学2年生、高校1年生・2年生のうち各1クラスを対象として、各学校を通じて調査票の配布・回収を行った。

保護者用アンケート：子ども用アンケートに同封し、各学校を通じて配布・回収を行った。

(3) 調査期間

平成30年11月15日から平成30年12月20日まで

(4) 回収結果

①学校種類別アンケート回収数

		小学校	中学校	高校	特別支援学校	合計
学校数		30	23	13	4	75
配布調査票数		775	609	848	33	2,265
子ども	回収数	725	576	748	32	2,081
	回収率	93.5%	94.6%	88.2%	97.0%	91.9%
保護者	回収数	683	508	599	21	1,811
	回収率	88.1%	83.4%	70.6%	63.6%	80.0%

②親子ペアで分析可能な調査票数

本調査では、個人を特定しない範囲において可能な場合は、親子の調査票を一組にして回収を行っている。親子のペアを確認可能な調査票数は以下の通りである。

		小学校	中学校	高校	特別支援学校	合計
配布数		775	609	848	33	2,265
親子ペア調査票数		246	211	137	10	604
割合		31.7%	34.6%	16.2%	30.3%	26.7%

2. 調査結果のまとめ

(1) 子ども用アンケートのまとめ

①「松本市子どもの権利に関する条例」の認知度は向上している。

「松本市子どもの権利に関する条例」の認知度は、今までの調査で最も高くなっている。しかし、「内容まで知っている」の割合だけを見ると、9.0%に留まっており、引き続き周知が必要である。また、学年別に見ると、高校生で「知らない」の回答が多くなっている。高校生の条例を知った方法を見ると、学校を経由しての認知が小中学生よりも少なくなっている。

②子どもの権利相談室「こころの鈴」の認知度は6割程度である。

「こころの鈴」の認知度を見ると、「内容まで知っている」または「名前を知っている」と回答した割合は6割程度となっている。半数以上の児童生徒が何らかの形で聞き知っていることがわかる。一方で、「内容まで知っている」の割合は17%程度に留まっており、引き続き周知が必要である。学年別に見ると、高校生で「知らない」の回答が多くなっている。「知っている」と回答した人の6割は「チラシ、パンフレット、カード」で「こころの鈴」を認知している。

③子どもの権利相談室「こころの鈴」を利用したい人の割合は増加している。

「こころの鈴」の利用意向を見ると、「利用したいと思う」と回答している人の割合は過去年度と比較して増加している。利用意向を詳細に見ると、学年が低いほど利用意向が高い傾向にある。また、悩みを相談する相手が少ないほど利用意向が低くなっている。利用意向の低いこれらのグループは、他のグループと比べて「メール」「SNS」で相談したいという回答が多くなっている。

④松本市の子どもは6割程度が肯定に自分自身を評価している。

「自分のことが好きか」の回答を見ると過去調査結果と同様、肯定的な回答は6割程度だった。自己肯定感は学年が低いほど高くなる傾向にある。一方で、「今打ち込んでいることはない」「困っていることを誰にも相談しない」等の回答は自己肯定感が低いほど多くなる傾向があり、自己肯定感の低い子どもほど、人との関わりが薄く孤立しがちであると推測される。また、自己肯定感が高いほど、将来も松本市に住み続けたいという回答が多くなっている。

(2) 保護者用アンケートのまとめ

①条例と相談室を認知している保護者は約5割に達している。

「松本市子どもの権利条例」および子どもの相談室「こころの鈴」を「内容まで知っている」または「名前だけ知っている」という保護者は約5割に達している。特に過去の調査と比較すると、条例の認知度は10%以上向上している。一方で、「知らない」という回答も依然として4割程度あり、特に子どもの学年が高くあるにつれて、「知らない」という回答が高くなる傾向にある。

②保護者と子どもの間で、子どもの自己評価やホッとできる場所の認識についてずれがある。

保護者と子どもをペアで分析すると、子どもの自己肯定感について、保護者が過大に見積もってしまう傾向があり、このずれは自己肯定感の低い子どもとその保護者の間で大きくなっている。また、ホッとできる場所について、保護者が思うほど「家族といられる場所」や「部活動やクラブ活動の場」が子どもにとってホッとできる場所とはなっていないという認識のずれが見られた。

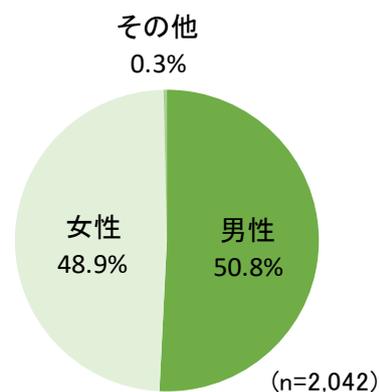
3. 子ども用アンケート調査結果

(1) 属性

- 回答者の性別は、50.8%が男性で、48.9%が女性である。
- 回答者は、小学生が35.1%、中学生が28.0%、36.8%が高校生となっている。
- 回答者の居住地は、81.3%が松本市内、18.7%が松本市外である。

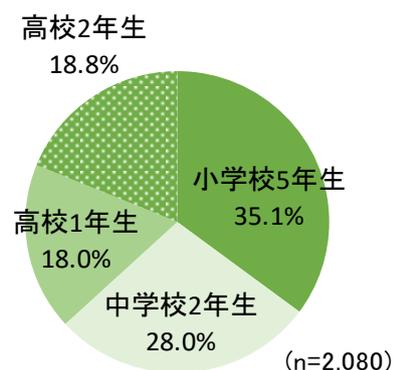
図表 1 性別

	度数(人)	割合(%)
男性	1,037	50.8
女性	998	48.9
その他	7	0.3
合計	2,042	100.0



図表 2 学年

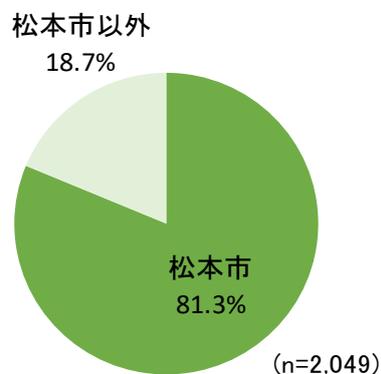
	度数(人)	割合(%)
小学校5年生	731	35.1
中学校2年生	583	28.0
高校1年生	374	18.0
高校2年生	392	18.8
合計	2,080	100.0



※各学年に特別支援学校の生徒を含む。

図表 3 居住地

	度数(人)	割合(%)
松本市	1,665	81
松本市以外	384	19
合計	2,049	100

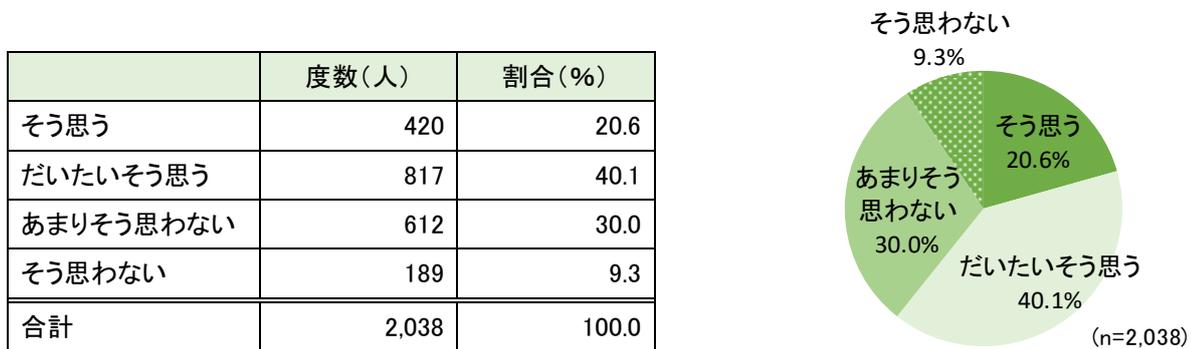


(2)「あなたの気持ち」について

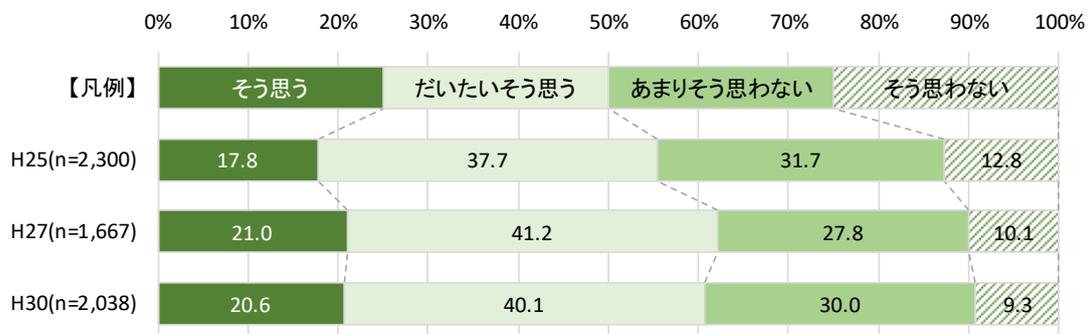
①あなたは、自分のことが好きですか

- 「自分のことが好きか」という質問に対して、「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答した人の割合は、60.7%となっている。
- 平成 25 年度の調査と比較すると、「そう思う」または「だいたいそう思う」の割合が 5.2 ポイント増加している。
- 学年別に回答を見ると、「そう思う」または「だいたいそう思う」の割合は小学生が最も多く 76.8%であり、学年が低いほど、肯定的な回答が多い傾向にある。

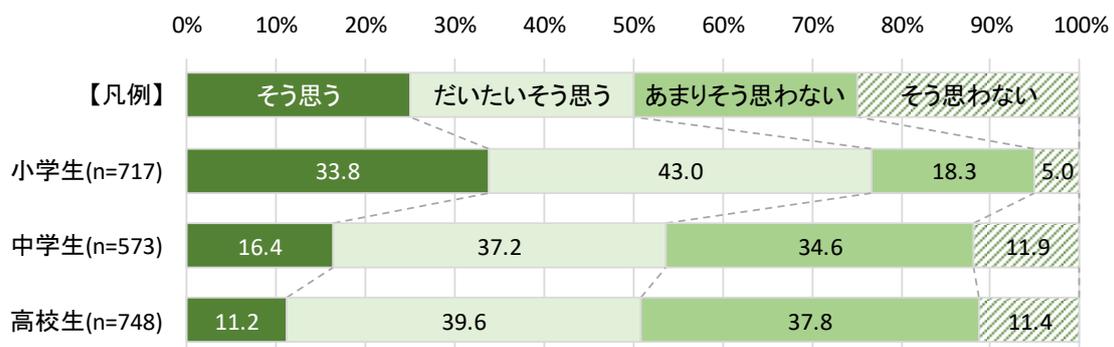
図表 4 自分のことが好きか



図表 5 自分のことが好きか（経年比較）



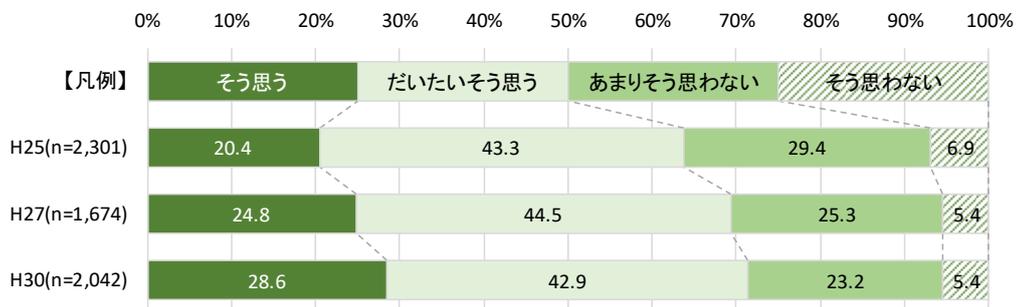
図表 6 自分のことが好きか（学年とのクロス集計）



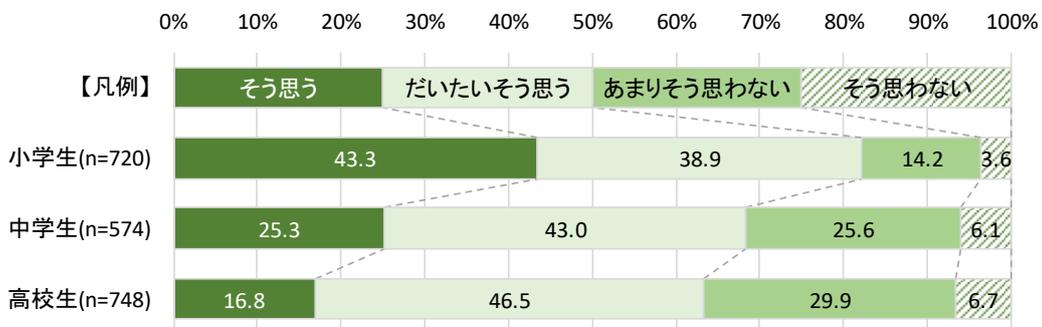
②あなたは、自分には良いところがあると思いますか

- 「自分にはいいところがあると思うか」という質問に対して、「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答した人の割合は71.5%となっており、年々増加している。
- 学年別に回答を見ると、「そう思う」または「だいたいそう思う」の割合は小学生が最も大きく82.2%であり、学年が低いほど、肯定的な回答が多い傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答内容別に見ると、「自分にはいいところがある」に「そう思う」と回答した人の割合は、「自分のことが好き」に「そう思う」と回答した人では80.7%なのに対して、「そう思わない」と回答した人では、1.1%に留まっている。

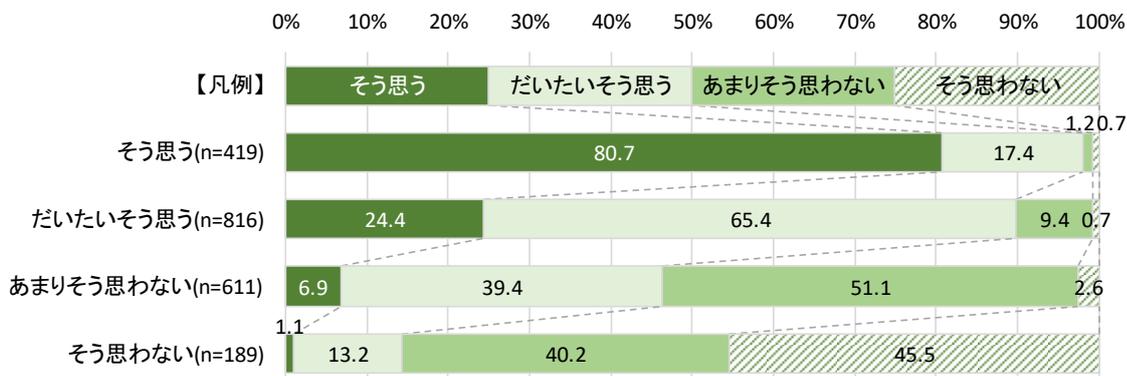
図表 7 自分には良いところがあると思うか（経年比較）



図表 8 自分には良いところがあると思うか（学年とのクロス集計）



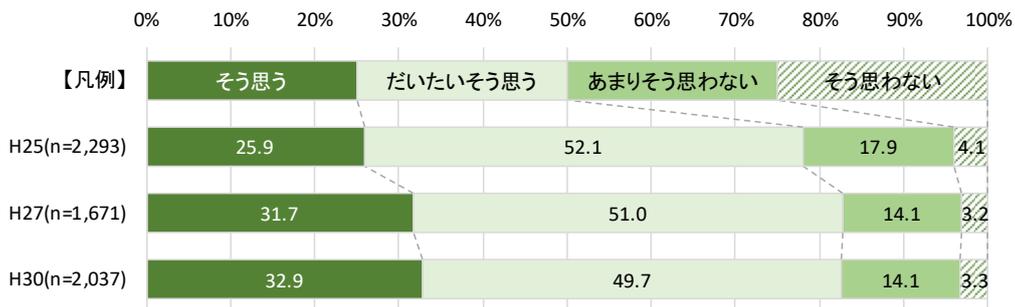
図表 9 自分には良いところがあると思うか（縦軸「自分のことが好きか」とのクロス集計）



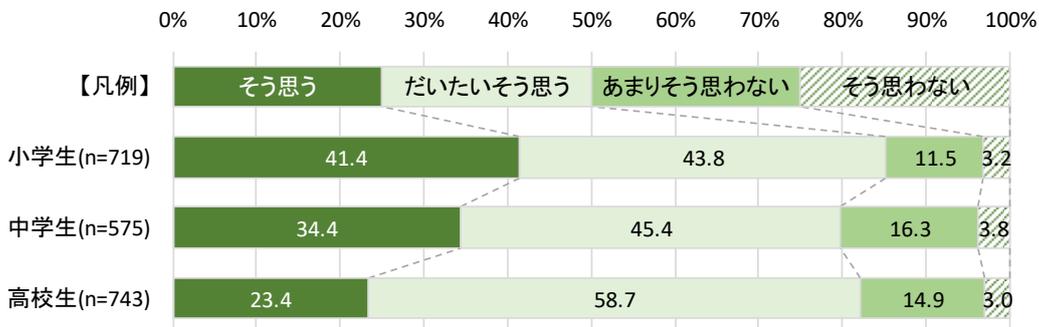
③あなたは、まわりの人から大切にされていると思いますか

- 「まわりの人から大切にされていると思うか」という質問に対して、「そう思う」と回答した人の割合は32.9%となっており、過去の調査結果と比較すると微増している。
- 学年別に回答を見ると、「そう思う」の割合は小学生が最も大きく41.4%であり、学年が低いほど大きい傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答内容別に見ると、「周りの人に大切にされていると思うか」に「そう思う」と回答した人の割合は、「自分のことが好き」に「そう思う」と回答した人では70.5%なのに対して、「そう思わない」と回答した人では、10.3%に留まっている。

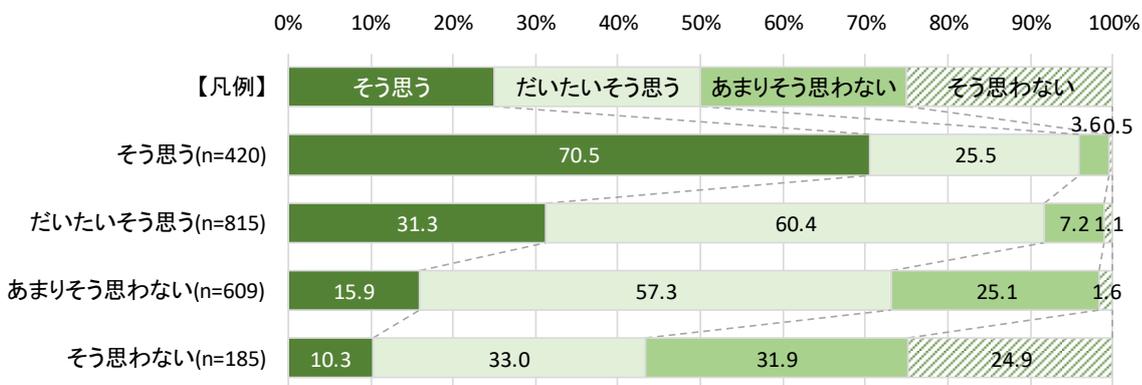
図表 10 まわりの人から大切にされていると思うか（経年比較）



図表 11 まわりの人から大切にされていると思うか（学年とのクロス集計）



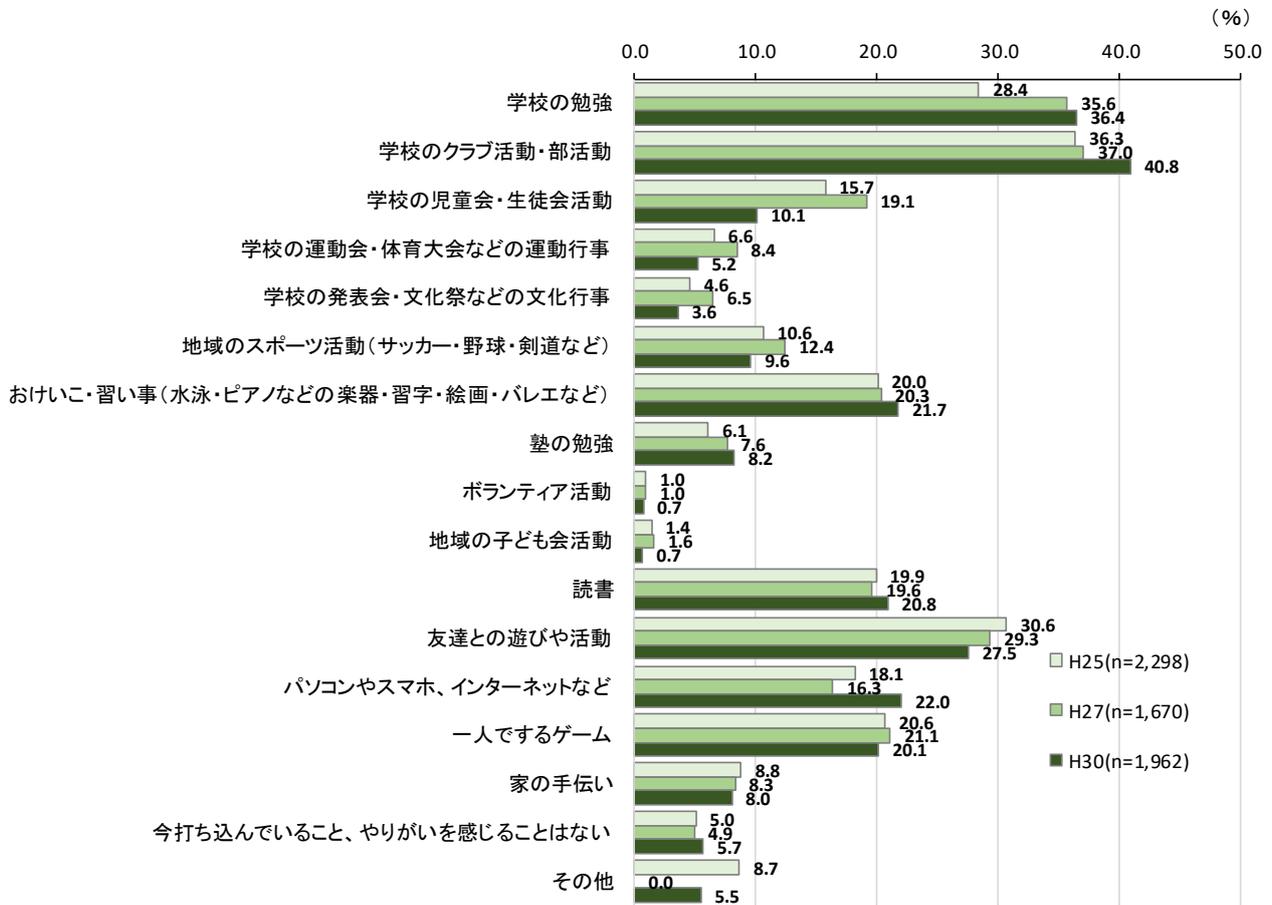
図表 12 周りの人に大切にされていると思うか（縦軸「自分のことが好きか」とのクロス集計）



④あなたが、「今打ちこんでいること」や「やりがいを感じていること」は何ですか(複数回答)

- 「今、打ちこんでいること」は、例年と同様、「学校のクラブ活動・部活動」が最も多く、40.8%が「今打ちこんでいること」に挙げている。ついで、「学校の勉強」が多い。
- また、過去年度の調査結果と比較すると、「学校の勉強」「学校のクラブ活動・部活動」「塾の勉強」「パソコンやスマホ、インターネットなど」が増加し、「学校の児童会・生徒会活動」「学校の運動会・体育大会などの運動行事」「学校の発表会・文化祭などの文化行事」「地域のスポーツ活動(サッカー・野球・剣道など)」「友達との遊びや活動」が減少している。

図表 13 今、打ちこんでいること(経年比較)



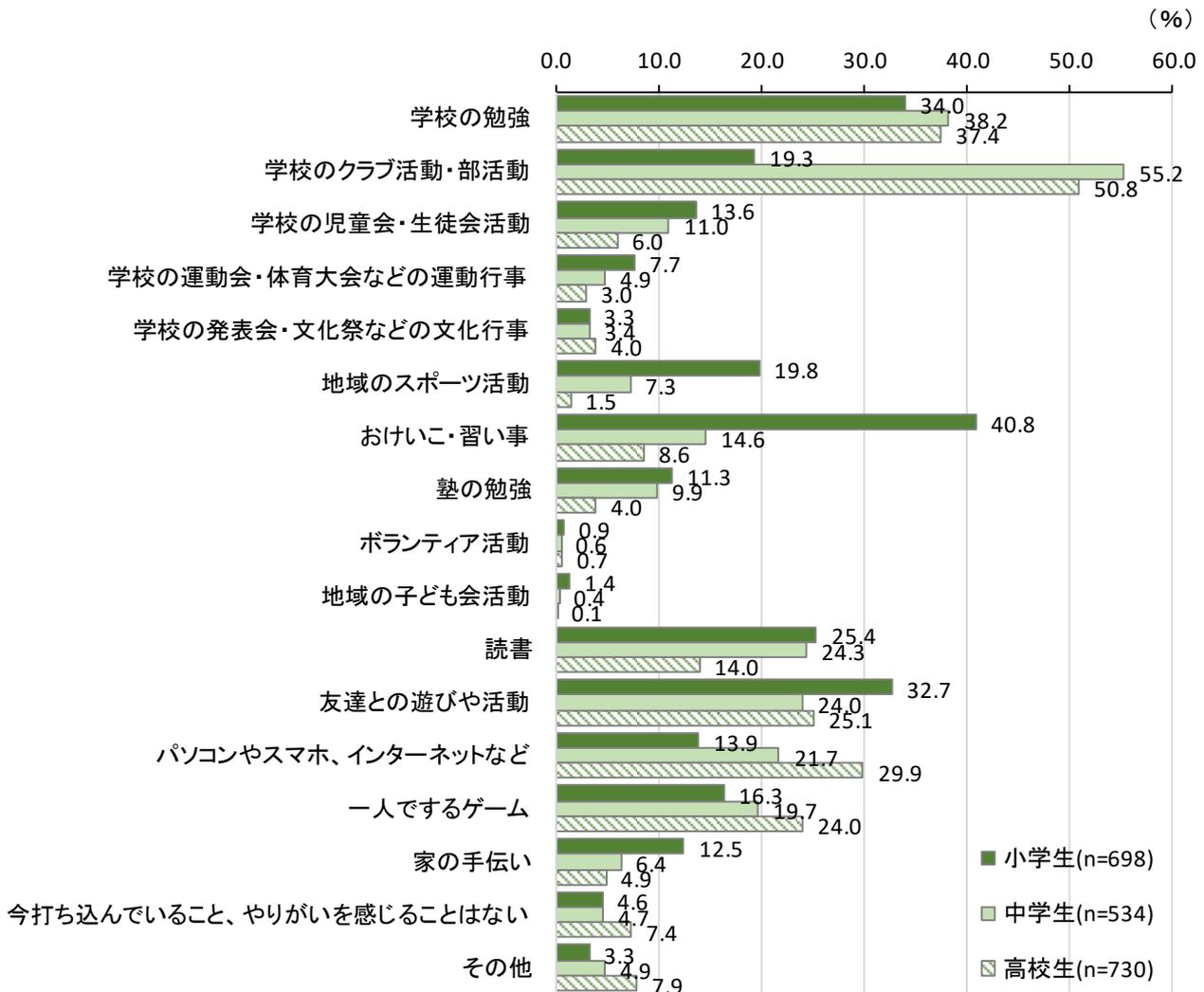
■その他の内容

男性		
小学生	中学生	高校生
家族や友達との遊び	カードゲーム、囲碁、将棋、かるた等	登山、自転車
工作、図	絵を描く事、音楽、ダンス	写真、音楽、料理
漢字やそろばん等の勉強	山雅観戦、トレーニング	ゲーム、アニメ、動画投稿
電車、駅を覚える	漢字の勉強、生物観察	資格の勉強
	山登り、旅行	アルバイト

女性		
小学生	中学生	高校生
絵を描くこと、手芸、折り紙	料理、合唱、絵を描く事、音楽	絵を描く事、創作活動
ダンス	アニメグッズ集め、アイドルの応援	アイドルの応援
勉強、百人一首	言語、検定の勉強	バンド活動、音楽鑑賞
ペットをかわいがる、動物に関することを調べる		韓国語の勉強
		アルバイト

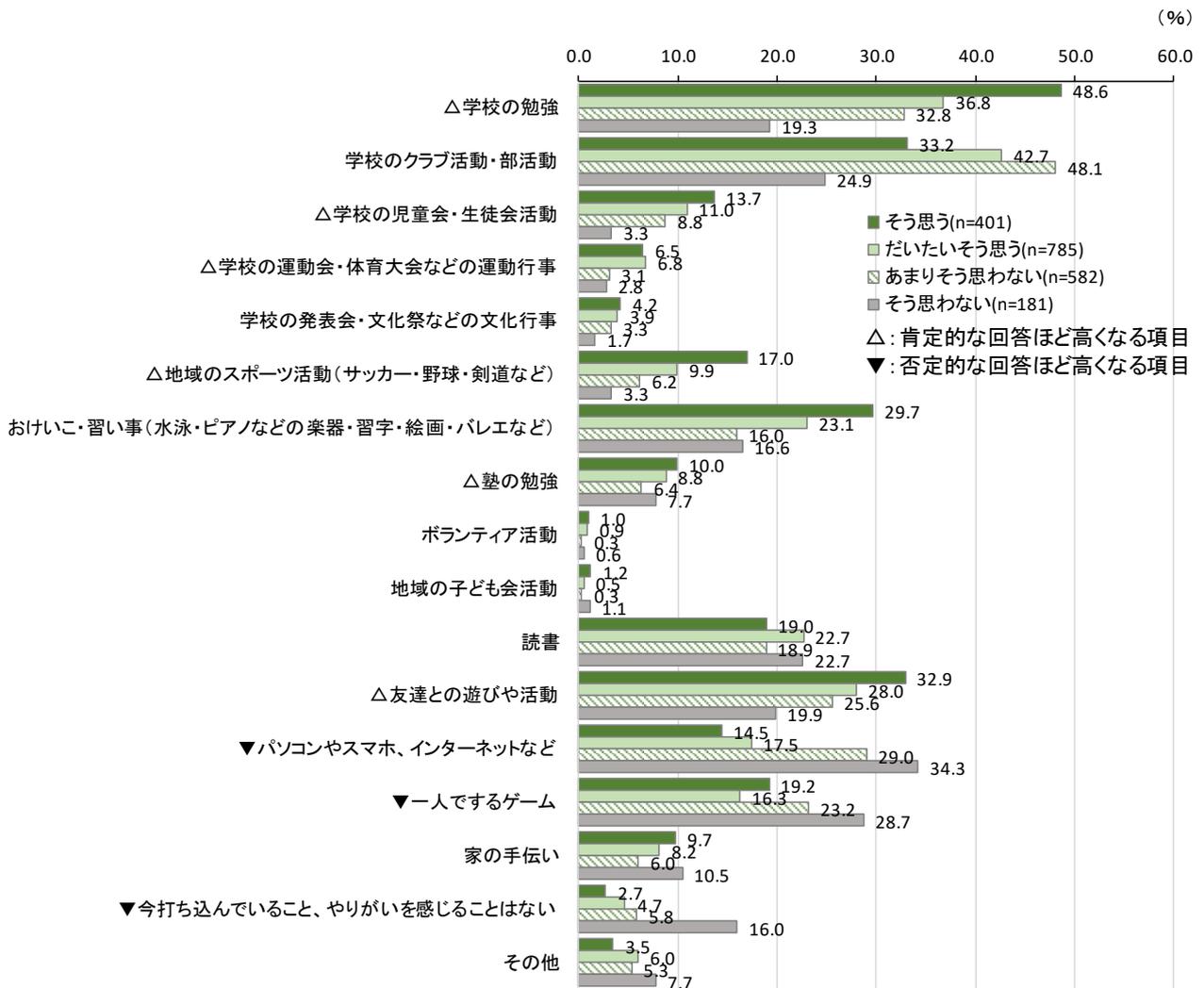
- 学年別に今、打ち込んでいることを見ると、小学生では「おけいこ・習い事」が最も多く、中学生・高校生では「学校のクラブ活動・部活動」が最も多い。どの学年においても「学校の勉強」が比較的上位に位置している。
- 「学校のクラブ活動・部活動」を除くと、「学校の児童会・生徒会活動」や「地域のスポーツ活動」、「友達との遊びや活動」など他の人と一緒に行う項目は小学生の方が回答数が多く、「パソコンやスマホ、インターネットなど」「一人でするゲーム」の回答数は学年が上がるに連れて増加している。
- また、「今打ち込んでいること、やりがいを感じていることはない」の回答は、学年が上がるにつれて微増する傾向にある。

図表 14 今、打ちこんでいること（学年とのクロス集計）



- 「自分のことが好きか」の回答別に今、打ち込んでいることを見ると、「そう思う」と回答した人は、「学校の勉強」が最も高く、「学校のクラブ活動・部活動」「友達との遊びや活動」「おけいごと・習い事」が高くなっている。これらの項目は、自己肯定感が高い（「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答している）ほど、高くなっている。
- 一方で、「そう思わない」と回答した人は「パソコンやスマホ、インターネットなど」「一人でするゲーム」「学校のクラブ活動・部活動」が高くなっている。これらの項目は、自己肯定感が低い（「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答している）ほど、高くなっている。
- また、「今打ち込んでいること、やりがいを感じていることはない」の回答は、自己肯定感が低いほど、多くなっている。

図表 15 今、打ちこんでいること（「自分のことが好きか」とのクロス集計）

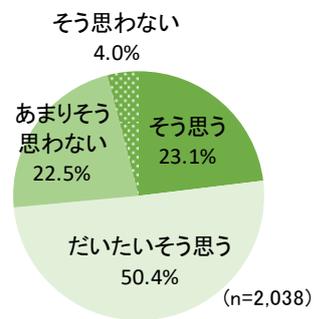


⑤あなたは、「うまくいくか分からないこと」にも取り組みますか

- 「『うまくいくか分からないこと』にも取り組めるか」との質問に対して、「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答した人の割合は、73.5%となっている。
- 学年別に見ると、「そう思う」の割合は小学生で最も高く 32.2%で、学年が低いほど高い傾向にある。
- 「『うまくいくか分からないこと』にも取り組めるか」に対して「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答している割合は、「自分のことが好きか」に「そう思う」と回答している人が最も低く 11.8%で、「自分のことが好きか」に否定的な回答ほど、「『うまくいくか分からないこと』にも取り組める」に対する否定的な回答が多くなっている。

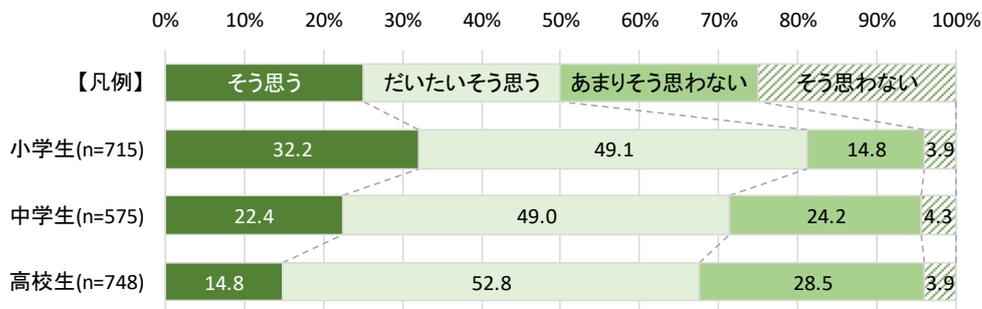
図表 16 「うまくいくか分からないこと」にも取り組めるか

	度数(人)	割合(%)
そう思う	470	23.1
だいたいそう思う	1,028	50.4
あまりそう思わない	458	22.5
そう思わない	82	4.0
合計	2,038	100.0

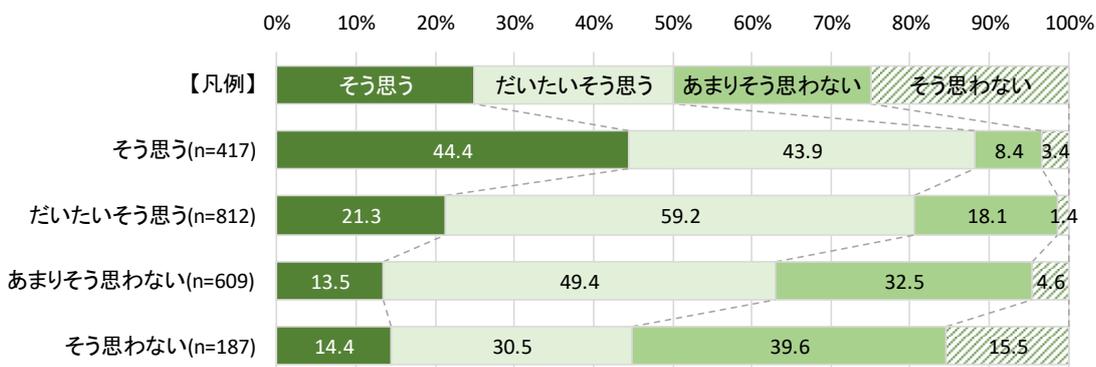


※今年度からの設問

図表 17 「うまくいくか分からないこと」にも取り組めるか（学年とのクロス集計）



図表 18 「うまくいくか分からないこと」にも取り組めるか（縦軸「自分のことが好きか」とのクロス集計）



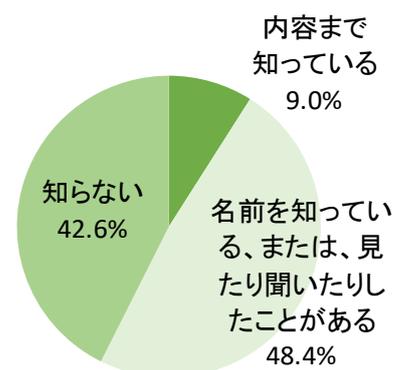
(3)「松本市子どもの権利に関する条例」について

①あなたは、松本市子どもの権利に関する条例を知っていますか

- 「松本市子どもの権利に関する条例」を「知っている」「名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある」と回答した人の割合は、57.4%となっており、過去の調査結果と比較して最も高くなっている。また、「知らない」とする回答は前回調査から 33.8 ポイント減少し、最も少なくなっている。
- 学年別に見ると、「内容まで知っている」の割合は小学生が最も高く、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。特に高校生は「知らない」の割合が高く、62.1%になっている。

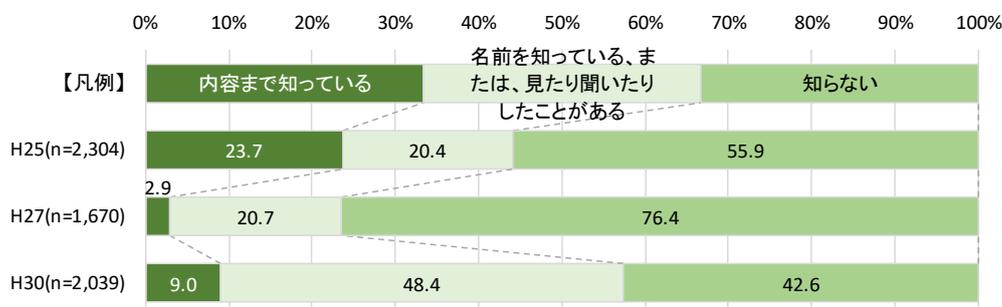
図表 19 松本市子どもの権利に関する条例を知っているか

	度数(人)	割合(%)
内容まで知っている	183	9.0
名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある	987	48.4
知らない	869	42.6
合計	2,039	100.0



(n=2,039)

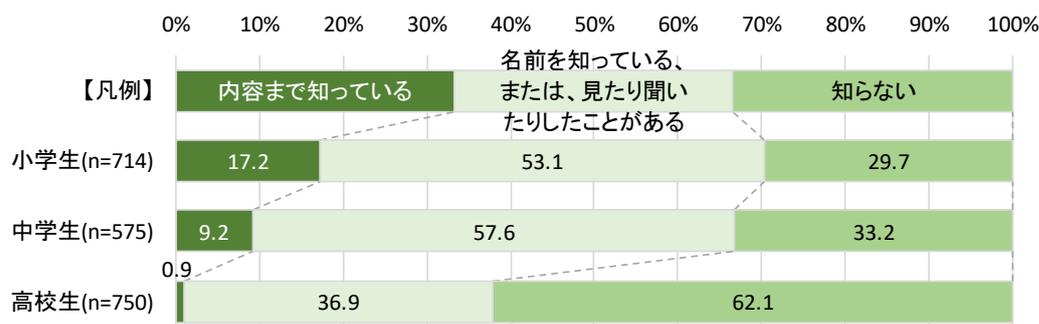
図表 20 松本市子どもの権利に関する条例を知っているか（経年比較）



※H25は「内容を知っている」「名前だけ知っている」「知らない」

※H27は「内容まで知っている」「名前だけ知っている」「知らない」

図表 21 松本市子どもの権利に関する条例を知っているか（学年とのクロス集計）



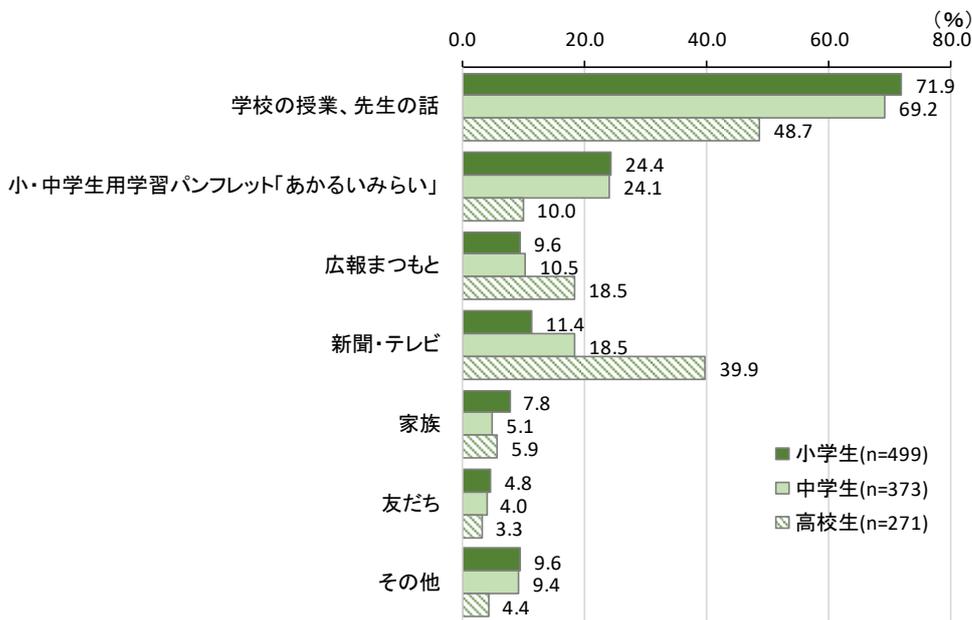
②「松本市子どもの権利に関する条例」をどのような方法で知りましたか

- 「松本市子どもの権利に関する条例」を知った方法では、「学校の授業、先生の話」が最も多くなっている。
- 学年別に知った方法を見ると、どの学年でも「学校の授業、先生の話」が最も多い。小中学生では「小・中学生用学習パンフレット『あかるいみらい』」がついで多く、高校生では「新聞・テレビ」がついで多くなっている。

図表 22 「松本市子どもの権利条例」をどのような方法で知りましたか(複数回答)



図表 23 「松本市子どもの権利条例」をどのような方法で知りましたか(学年とのクロス集計)



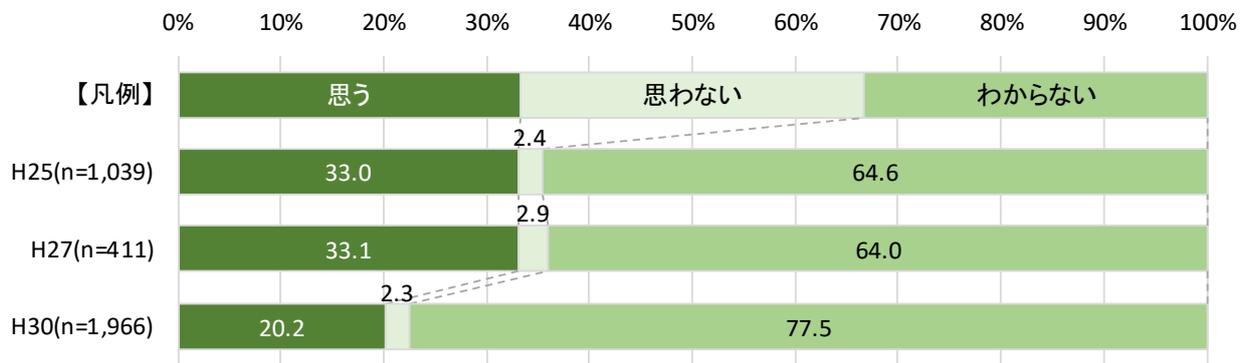
■その他の内容

小学生	中学生	高校生
「CAP」の人からきいて	松本子ども未来委員会	ポスター、チラシ
学校の放送、ポスター、お便り	学校の放送、お便り	インターネット
松本子ども未来委員会		

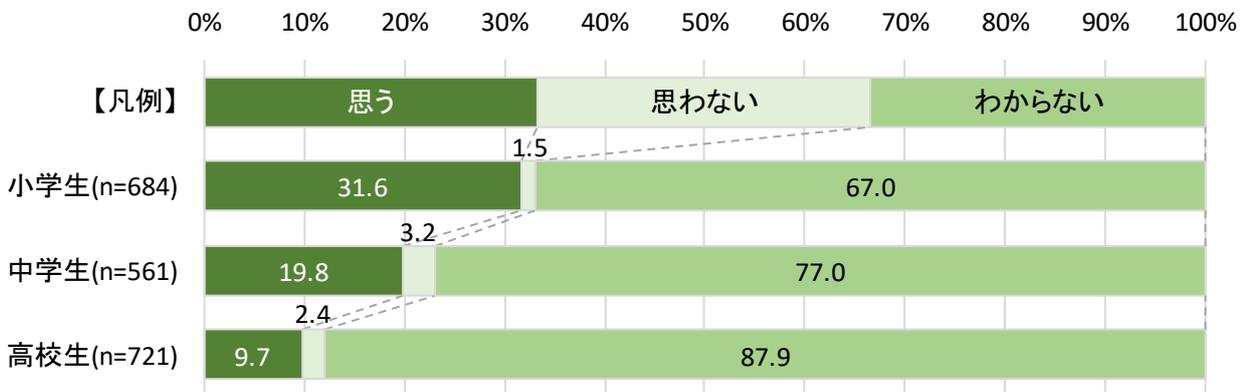
③「松本市子どもの権利に関する条例」ができて良かったと思いますか

- 「松本市子どもの権利に関する条例」ができて良かったと思うかという設問に対して、「わからない」と回答した人の割合が最も多く、77.5%となっている。
- 過去の調査結果と比較すると、「わからない」の割合は平成 25 年度調査から 12.9 ポイント増加している。
- 学年別に見ると、「わからない」の回答は小学生が最も少なく、学年が上がるにつれて増加する傾向にある。

図表 24 「松本市子どもの権利に関する条例」ができて良かったと思うか(経年比較)



図表 25 「松本市子どもの権利に関する条例」ができて良かったと思うか(学年とのクロス集計)



④「松本市子どもの権利に関する条例」ができたことへの評価の理由

- 「松本市子どもの権利に関する条例」ができたことへの評価を、学年別に整理した。
- 「条例ができてよかったと思う」理由として、「権利があることで自分のしたいことができる、言いたいことが言える」「子どもにも権利があることを知れる」「守られている気がして安心する」「相談する場所ができる」などが挙げられている。
- 「条例ができてよかった」と思わない理由として、「条例の成果が分からない」「条例ができただけでは何も変わらない」「条例を知らない人が多い」など挙げられている。

図表 26 小学生 「松本市子どもの権利に関する条例」ができたことへの評価の理由(抜粋)

小学生「条例ができて良かったと思う」
権利があると友達と楽しく遊んだり、ちゃんと授業を受けたり、自分のしたいことができるから
子どもたちが自分の思っていることがいえるようになるかもしれないから
嫌なことをされても自分は権利があるとちゃんと「やめて」といえるから
権利があるといじめで誰かが一人で悲しい思いをすることなどが減ってみんなが楽しく過ごせそうだから
学校の中ではいじめられている人も「あなたにも権利があるのだよ」と言えるから
大人と同じように遠慮なく堂々と生きるということ、細かく書いているから
子どもが学校の先生や家族の他に、地域の人にもまもられている感じがして安心するから
自分たちは大切にされてるんだなと思えるし、子どもの権利があることで自信をもって生活ができるから
子供の権利が分かり、私はこんな事やってもいいんだなどの発見ができたから
条例が出来て子供でも権利があるということを知ったら不思議な感覚で嬉しかったから(大人だけじゃないんだ～など)
条例が出来て知っている人が多くなれば、条例にしたがって意識する人が増えるから
こころの鈴で自分のなやんでいることをひみつにしながら、電話でなんでも相談できるところが良い
小学生「条例が出来て良かったと思わない」
あってもなくても自分には何もないから
条例ができただけでこの世界が変わったわけでもないから
条例ができたとしてもゲームをやらしてくれないし、ゲームを買ってくれない
条例ができて言いたいことを言わせてもらえなかったり、言ったことを必ず「いい」とは言われないから
条例が実現されていないと思うから

図表 27 中学生 「松本市子どもの権利に関する条例」ができたことへの評価の理由(抜粋)

中学生「条例ができて良かったと思う」
一人で困っているときに悩みを聞いてくれる場所ができたから
子ども一人一人を平等に考えた取り組みがありいじめが減ると考えているから
松本市がそれだけ子供に対して向き合い考えてくれていると思ったから
虐待死が増える中、この条例ができたのはそれを止める第一歩になると思うから
子供にも発言や意見が通ったこと
子どもが自分の思っている事や、考えを発信できるというところ
子どもにも権利があるということを知れる良い機会だと思ったからです
他の県や市にはもうすでに条例が出来ていたと思うので、県内や市内での新たなるルールが定められたことにより、生きづらかった人たちもこの条例を基にしたり、この条例にたすけてもらったりしながら上手に生活できるようになるのではないかと思った
今までこの世の中で、親に反対されたりしていた人でも、自分の行きたいところ、自然豊かなところで成長することができるし、子供だけでなく親もいいことがあるから

中学生「条例が出来て良かったと思わない」
実際にその権利が守られているとは限らないし、守られてない子がこころの鈴に相談し、そのことについて親とトラブルになりかねない守られていない子が「自分は・・・」という気持ちになり、追い込まれかねない
条例が出来て、正直変わったことがないから、必要性を感じられないので、なくてもあっても変わらないと思う
どうせ変わらない子どもは大人のわからない所で陰湿な動きをし、誰かを傷つける悩みを言えない性格なら、いくら条例ができて、誰かに言えず1人で抱え込む内容を全員が知らない条例なら、意味がないそもそも、権利を実現するための条例なら、いじめっ子がその権利を主張してしまったら実現されるのか？
条例ができただけで虐待、いじめが減るとも思えず、意味がないから

図表 28 高校生 「松本市子どもの権利に関する条例」ができたことへの評価の理由(抜粋)

高校生「条例ができて良かったと思う」
松本市で子どもを大切にしていこうという気持ちが伝わるから
大人たちに守られている気がして安心する
言う事を止められていたりして直接誰かに相談できない子供が相談できる場を設けてあげれるから
権利が明文化されているところ
私達が住みやすいような、また育ちやすいような環境を大人の人にも協力してもらいながら作れるのは、今できることの少ない私達にとってすごく心強いサポートになると思うからです
障害を持っているような子供でもひとりひとりを大切に考えてくれているそれはとってもいい事だと思います

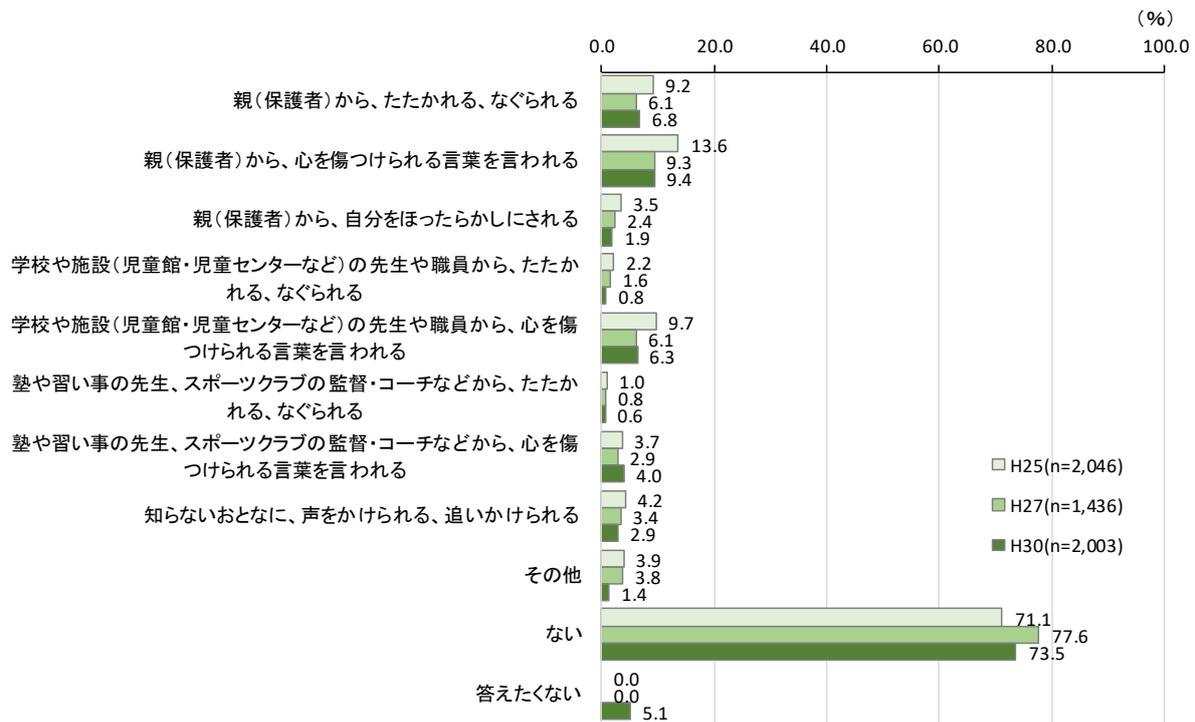
高校生「条例が出来て良かったと思わない」
この条例で何が変わったかわからない生活も変わったこともないのでこの条例がなんのためにあるかわからない
子どもの権利についてまだ知らない人がいる

(4) 悩んでいること、困っていることについて

① これまでおとなからされて「いやな思い」をしたこと(複数回答)

- 平成30年度調査では、例年通り「ない」という回答が最も多く73.5%となっている。
- 過年度調査と比較しても、大きな傾向の変化はなく、「いやな思い」をした体験としては、「親(保護者)から、心を傷つけられる言葉を言われる」が最も多く、ついで「親(保護者)から、たたかれる、なぐられる」が多くなっている。

図表 29 これまでおとなからされて「いやな思い」をしたこと(経年比較)



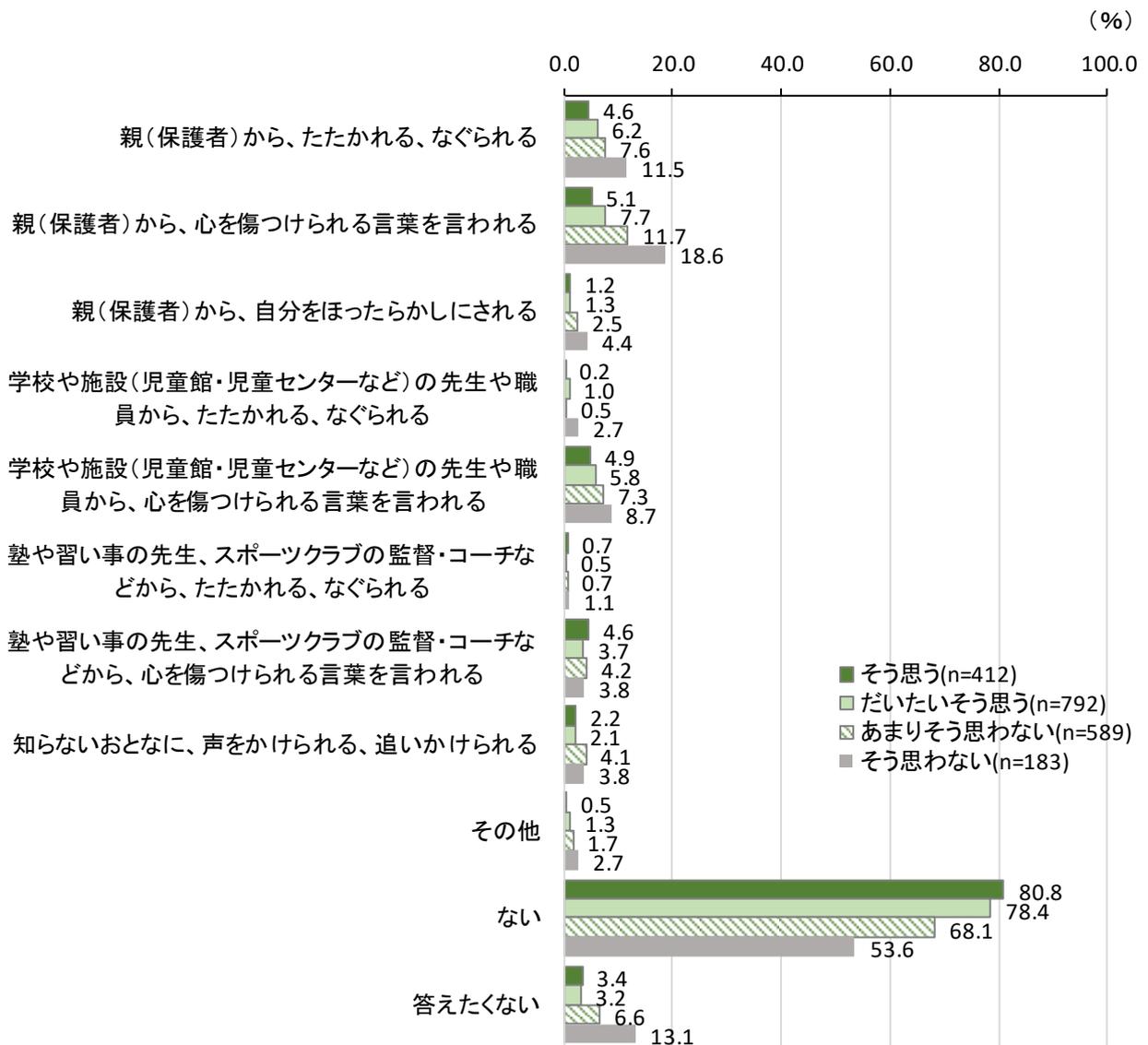
※H25、H27は「答えたくない」の選択肢なし

■ その他の内容

	男性		女性	
	中学生	高校生	小学生	中学生
先生がえこひいき		遅刻をしてはいけないと親に言われたが、なぜダメなのか理解できない	悪いことを私がやるとたたかれる	先生に勝手に決め付けられる顧問に差別される
親からたたかれたり、傷つくことを言われるのは、自分がいけないことをしてしまったから		教諭からばく大な量の課題を出された	先生の裏表がはげしい	何も知らないくせに理不尽に怒られる
教師に無理やり作業等をやらされる		こういう質問で嫌な思いになる	ほかのひとと勘違いされて心を傷つけられる言葉を言われた	知らない大人に胸ぐらをつかまれたことがある
塾に行けと言われる		家庭事情のキツさに悩まされている		親にいろいろ勘違いされて怒られる(自分のことを言わせてもらえない)時がある
		学校の先生に変な名前を付けられる		顧問に差別をされる

- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「親（保護者）から、たたかれる、なぐられる」「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」「親（保護者）から、自分をほったらかしにされる」「答えたくない」の項目は、「自分のことが好きか」に否定的な人ほど割合が高くなっている。
- 「ない」の回答は、「自分のことが好きか」に肯定的な人ほど割合が高くなっている。

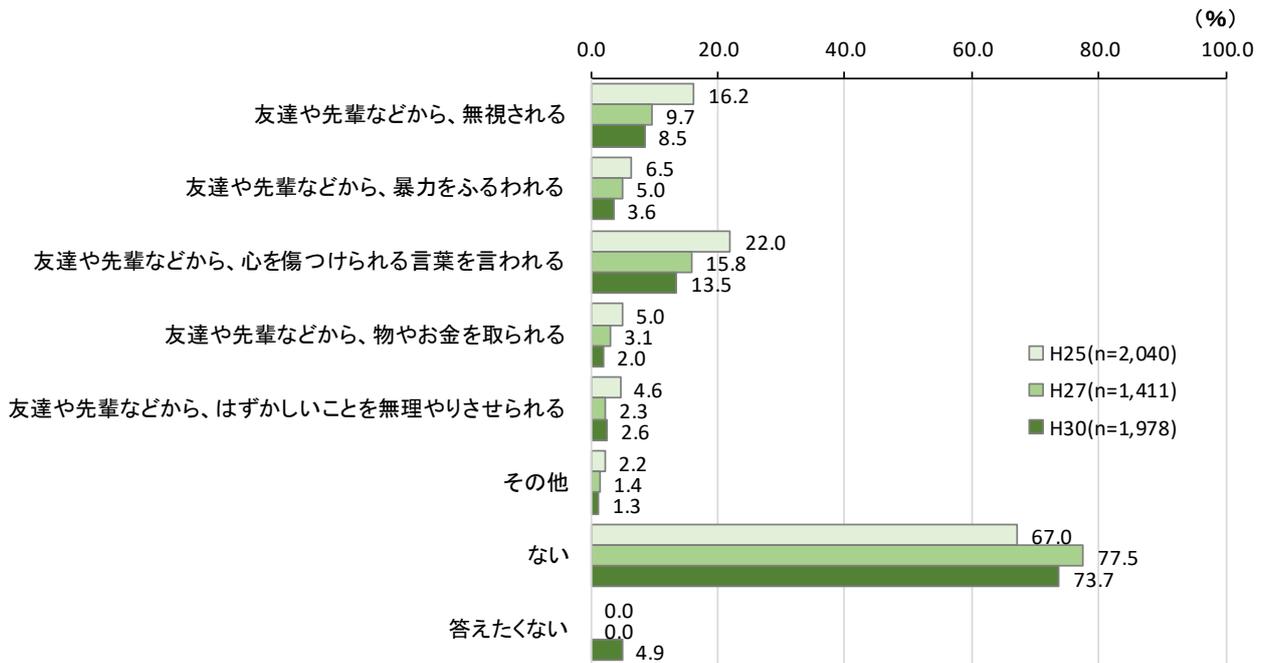
図表 30 これまでおとなからされて「いやな思い」をしたこと（「自分のことが好きか」とのクロス集計）



② これまで友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたこと(複数回答)

- 平成 30 年度調査では、例年通り「ない」と言う回答が最も多く 73.7%となっている。
- 過年度調査と比較しても、大きな傾向の変化はなく、「いやな思い」をした体験としては、「友だちや先輩などから、心を傷つけられる言葉を言われる」が最も多く、ついで「友だちや先輩などから、無視される」が多くなっている。

図表 31 これまで友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたこと(経年比較)



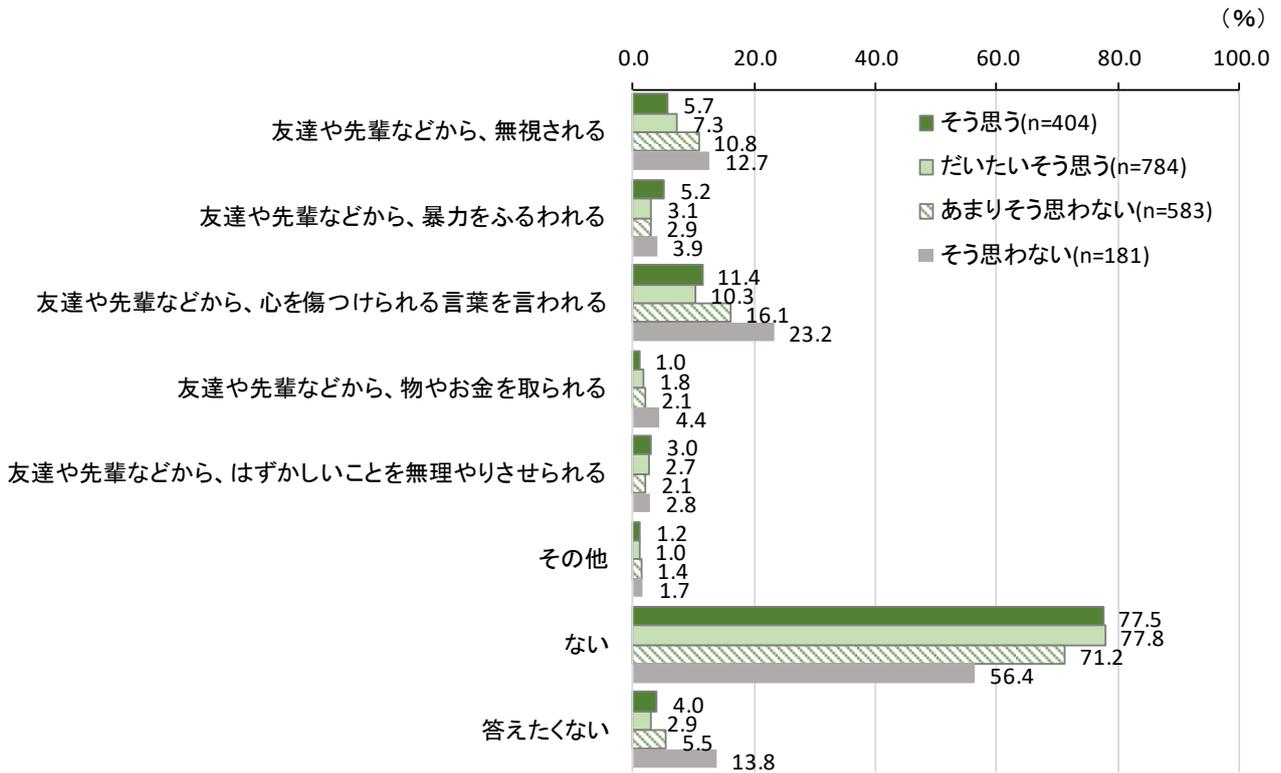
※H25、H27 は「答えたくない」の選択肢なし

■その他の内容

男性		女性		
小学生	高校生	小学生	中学生	高校生
いじわるをされた	部室を奪われる	フードをひっぱられる、肩をつねられる	自分達はルールを守れていないのに、人にばかり注意してくる。	嫌な態度をされた
仲間はずれにされた	友人に昔の話を広められる	友だちに自分のくつにこっそり砂を入れられた	自分だけ怒られる	自分の気に入っている後輩にだけ優しい人
		先輩などに、バカにされた。命令される。	急に理由もわからずにキレられた。	先輩じゃなく後輩から、無視や心を傷つけられる言葉を言われる
		にらまれる、かげ口を言われる		
		にげられる、話に入らせてくれない、人によって態度を変える		
		友達に自分の秘密をみんなにばらまかされている		

- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「友だちや先輩などから、無視される」「友だちや先輩などから、心を傷つけられる言葉を言われる」「答えたくない」の項目は、「自分のことが好きか」に否定的な人ほど割合が高くなっている。
- 「ない」の回答は、「自分のことが好きか」に肯定的な人ほど割合が高くなっている。

図表 32 これまで友だちや先輩からされて「いやな思い」をしたこと(「自分のことが好きか」とのクロス集計)

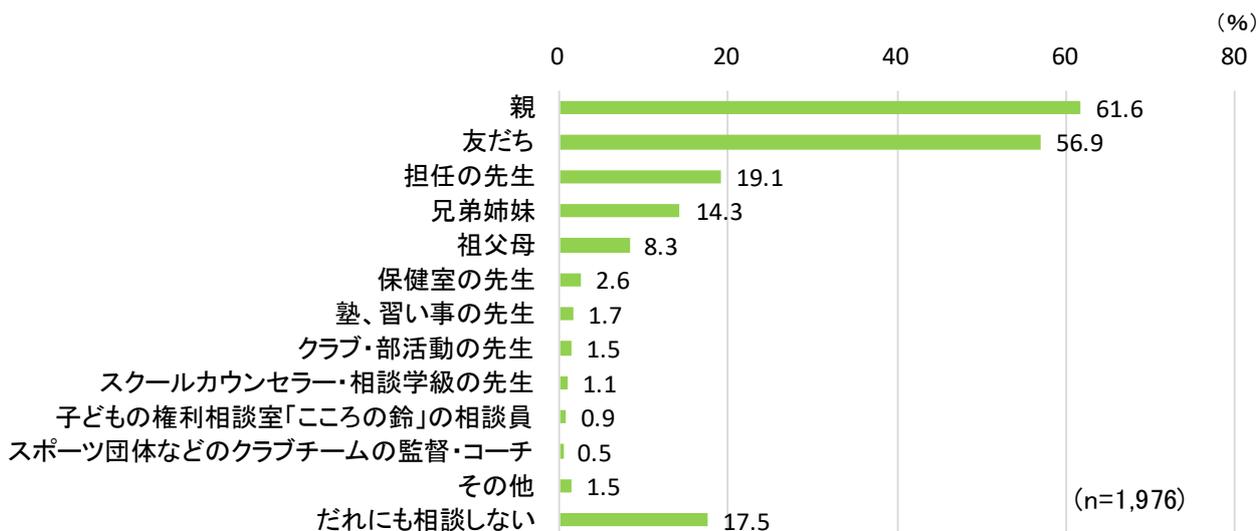


(5) 困っていること、つらいことの相談について

① 困っているとき、つらいとき誰に相談しますか(複数回答)

- 相談相手は、例年通り「親」が最も多い言う回答が最も多く 61.6%となっている。ついで、「友だち」が多い。
- 一方で、「誰にも相談しない」という割合は回答者のうち 17.5%となっている。

図表 33 困っているとき、つらいとき誰に相談するか

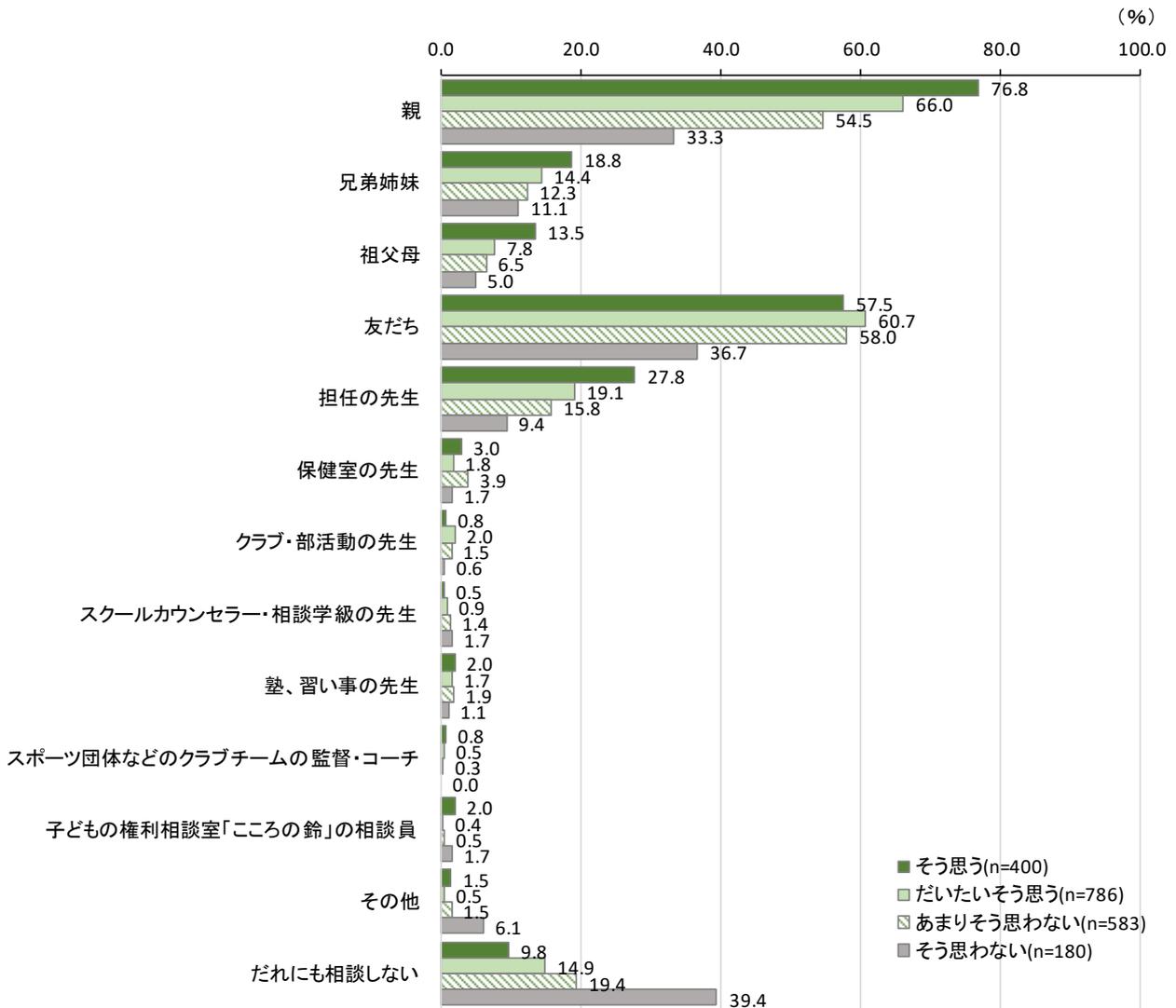


■その他の内容

男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
飼っている猫	自分の飼ってる子ネコ	インターネットを通じて相談	校長先生	ネットの友達	インターネット・SNSを通じて
	いとこなど			近くにいた人	先輩
	校長先生				教科担任の先生
	信頼している人				中学の先生

- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「親」「兄弟姉妹」「祖父母」「友だち」「担任の先生」は、「自分のことが好きか」に肯定的な人ほど割合が高くなっている。
- 「誰にも相談しない」の回答は、「自分のことが好きか」に否定的な人ほど割合が高くなっている。

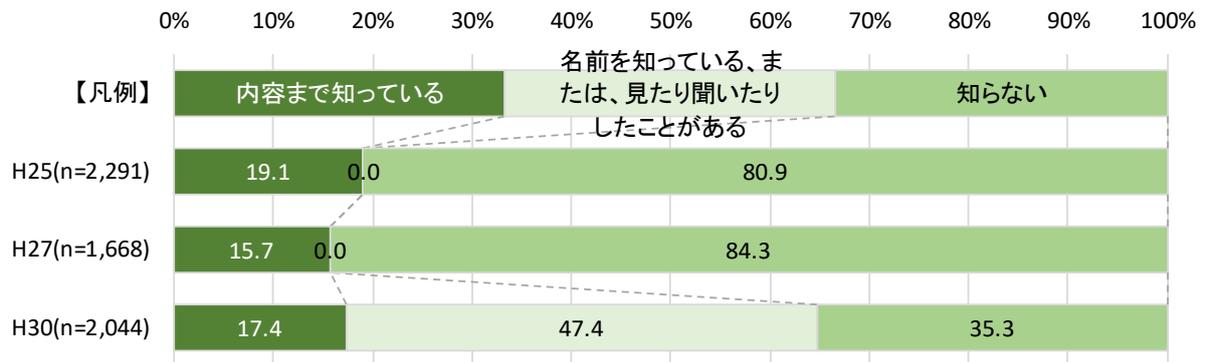
図表 34 困っているとき、つらいとき誰に相談するか（「自分のことが好きか」とのクロス集計）



② あなたは、「こころの鈴」を知っていますか

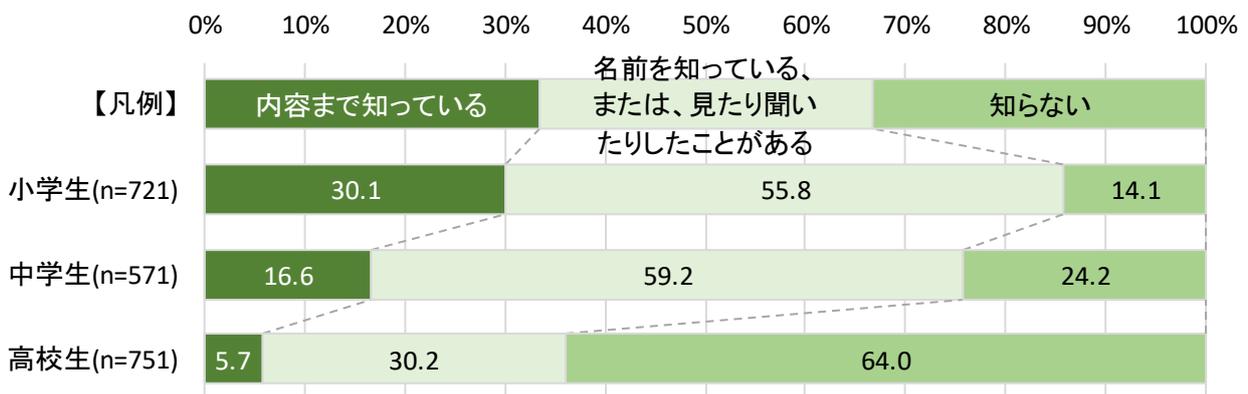
- 平成 30 年度の調査では、「知っている」または「名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある」と回答した人の割合は 64.8%を占めている。一方で、「内容まで知っている」の割合は過去年度と比較しても大きな変化は見られない。
- 学年別に平成 30 年度の回答を見ると、「内容まで知っている」の割合は小学生が最も高く 30.1%となっており、学年が低いほど、回答割合が大きい傾向にある。特に高校生は「知らない」の割合が最も高く、64.0%を占めている。

図表 35 「こころの鈴」を知っているか（経年比較）



※H25、H27 は「名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある」の選択肢なし

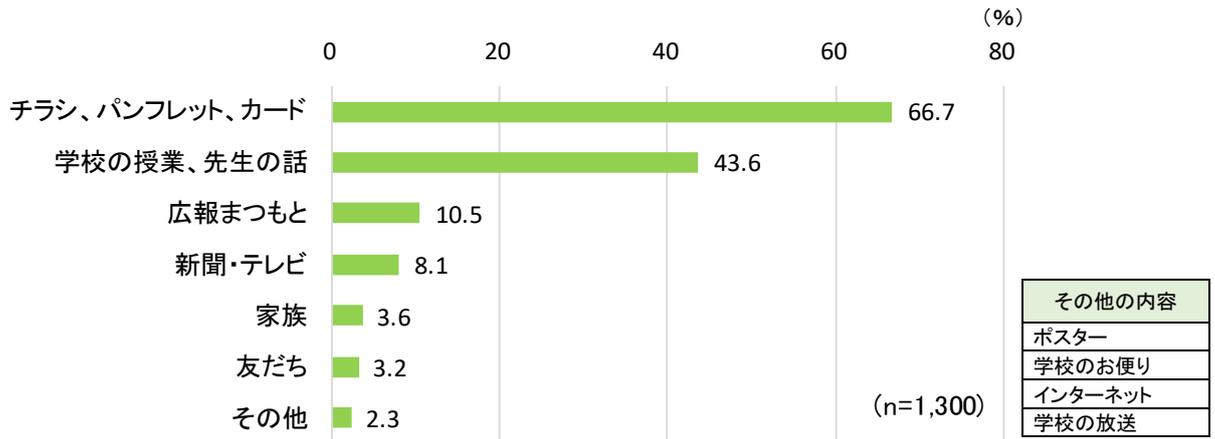
図表 36 「こころの鈴」を知っているか（学年とのクロス集計）



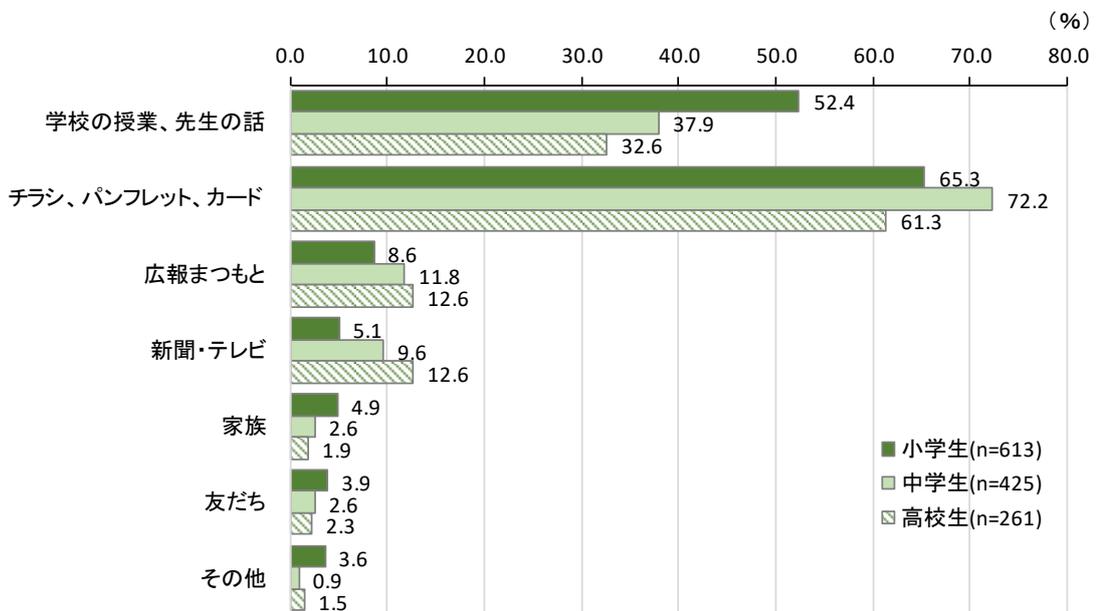
③ 「こころの鈴」をどのような方法で知りましたか

- 平成 30 年度の調査では、「こころの鈴」を知った方法として、「チラシ、パンフレット、カード」が最も多く、66.7%となっている。ついで、「学校の授業、先生の話」が多い。
- 学年別に見ると、どの学年でも「チラシ、パンフレット、カード」が最も多くなっている。「学校での授業、先生の話」は小学生で最も多く、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。

図表 37 「こころの鈴」をどのような方法で知ったか



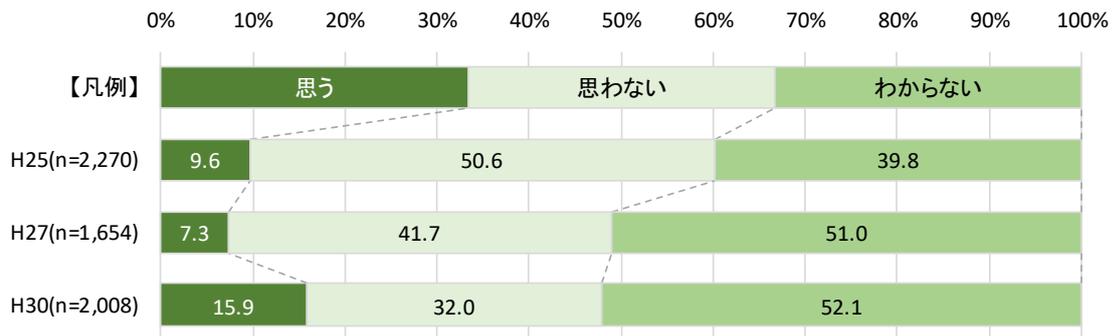
図表 38 「こころの鈴」をどのような方法で知ったか（学年とのクロス集計）



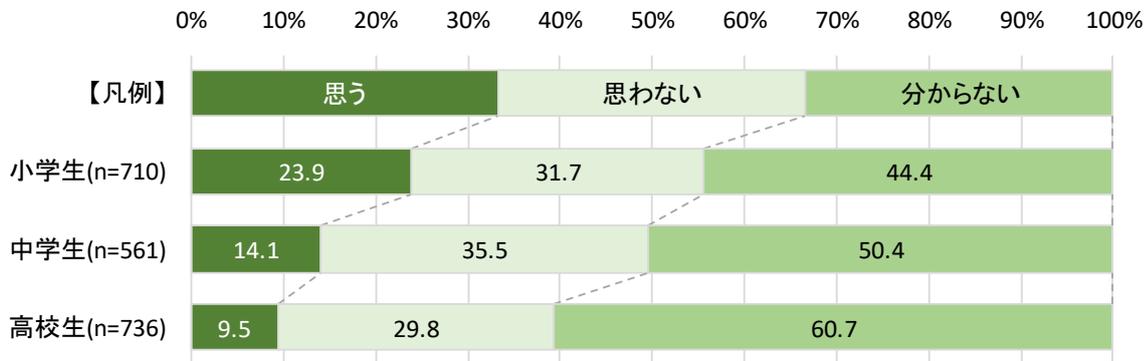
④ あなたは、困ったこと、つらいことを子どもの権利相談室「こころの鈴」に相談したいと思いますか。

- 平成 30 年度の調査では、「こころの鈴」に相談したいと「思う」と回答した人の割合は 15.9%で、過去年度の調査と比較すると最も高くなっている。一方で、「わからない」とする回答も過去年度と比較して高くなっている。
- 学年別に見ると、『こころの鈴』に相談したい」と「思う」という回答は「小学生」で最も高く、23.9%となっており、学年が低いほど、回答割合が高い傾向にある。
- 相談先の数別に見ると、相談先が少ない人の方が、こころの鈴の利用意向が低い傾向にある。

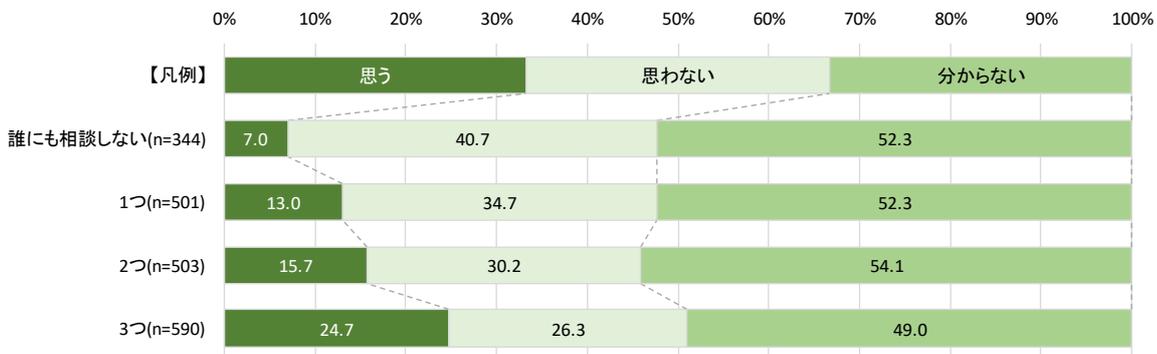
図表 39 「こころの鈴」に相談したいと思うか（経年比較）



図表 40 「こころの鈴」に相談したいと思うか（学年とのクロス集計）

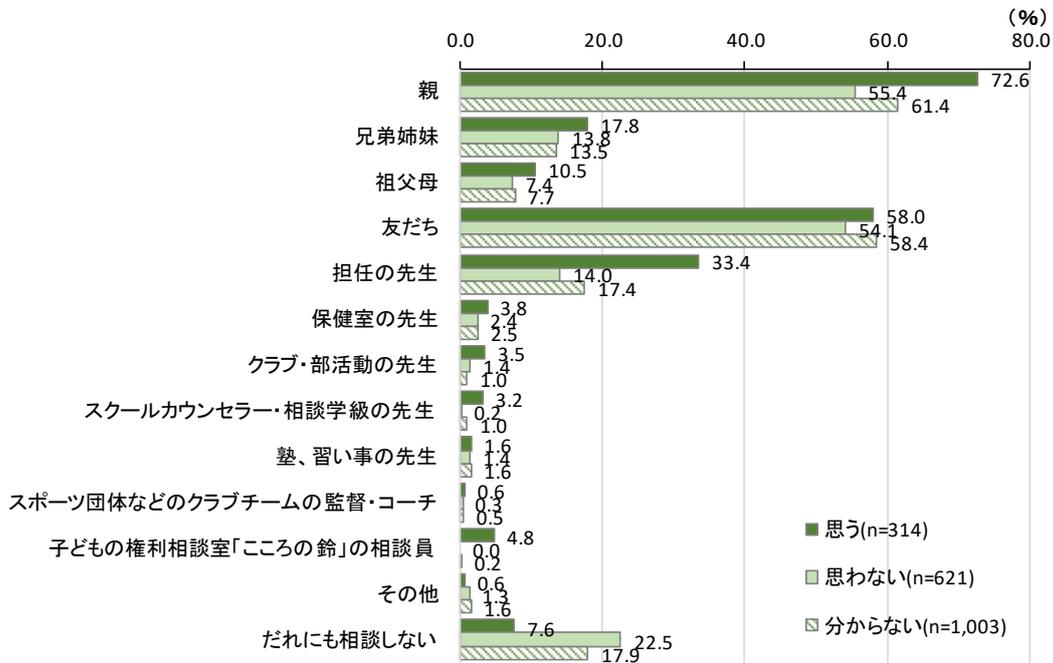


図表 41 「こころの鈴」に相談したいと思うか（相談先の数とのクロス集計）

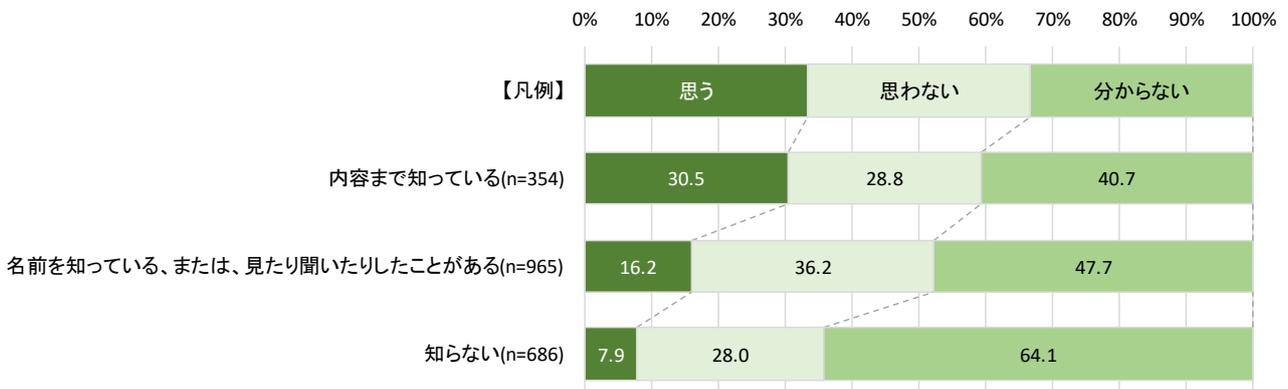


- 「悩みを誰に相談するか」の回答別に見ると、「こころの鈴」に相談したいと思うかの回答に因らず、「親」「友だち」の回答が多くなっている。
- 「こころの鈴」に相談したいと「思う」と回答した人の方が、「親」「担任の先生」に相談する人が多く、逆に「思わない」と回答した人の方が「誰にも相談しない」人が多い。
- 『こころの鈴』を知っているかの回答別に見ると、「こころの鈴」に相談したいと「思う」と回答した人の割合は、「こころの鈴」を「内容まで知っている」人で最も高く、30.5%となっている。認知の程度が低くなるほど、相談意向も低下する傾向にある。
- 特に「こころの鈴」を「知らない」と回答した人では、64.1%に当たる人が『こころの鈴』に相談したいと思うかに対して「わからない」と回答している。

図表 42 「こころの鈴」に相談したいと思うか（「悩みを誰に相談するか」とのクロス集計）



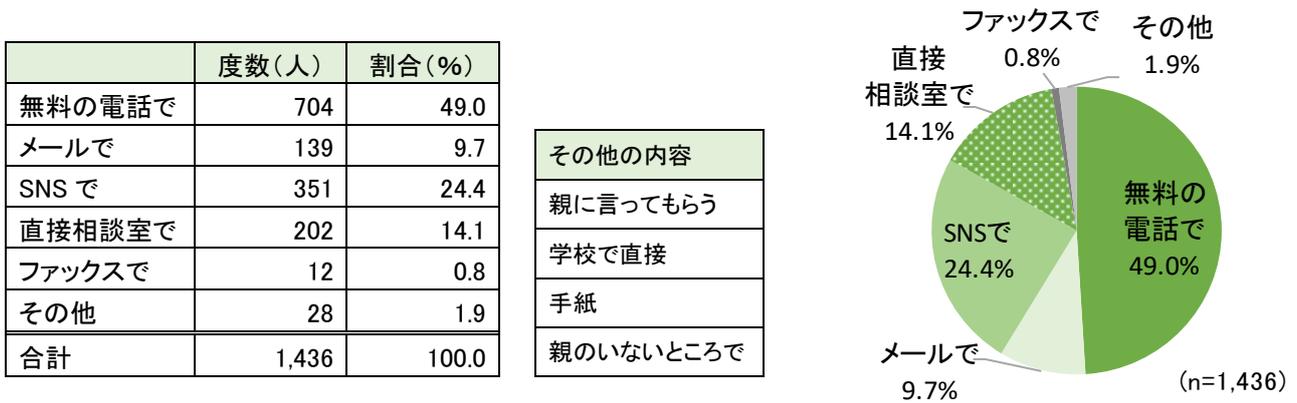
図表 43 「こころの鈴」に相談したいと思うか（『こころの鈴』を知っているか）とのクロス集計



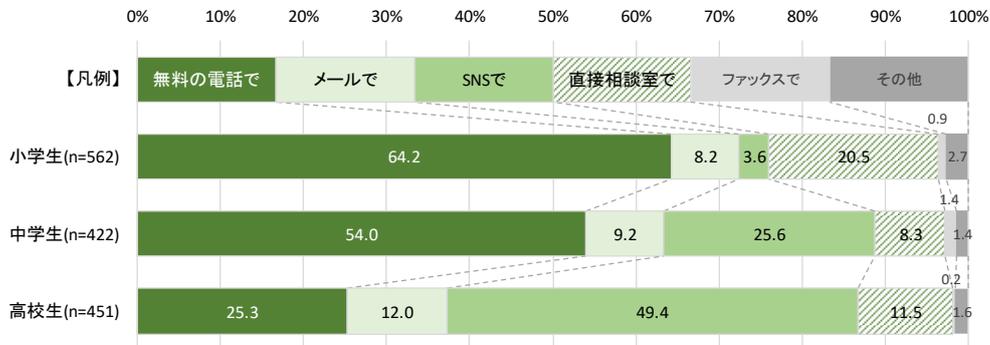
⑤ 「こころの鈴」にどんな方法で相談したいと思いますか

- 「こころの鈴」に相談するときにご利用したい方法は、「無料の電話」が49.0%を占めておりもっと多くなっている。ついで、「SNS」が多い。
- 学年別に見ると、小学生・中学生では「無料の電話」が最も多くなっている。高校生では「SNS」が最も多い。
- 相談先の数別に見ると、相談先の人数に関わらず「無料の電話」が最も多くなっている。また、相談先の数が少ないほど、「メール」または「SNS」の割合が大きくなっている。

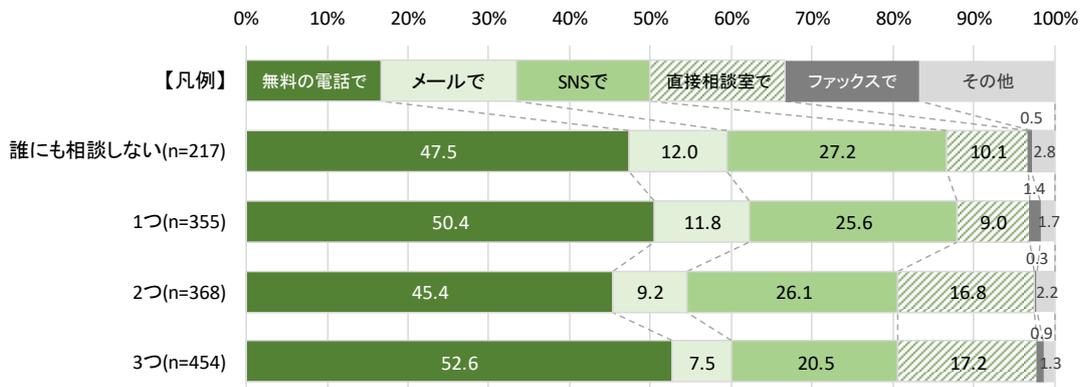
図表 44 「こころの鈴」にどんな方法で相談したいと思うか



図表 45 「こころの鈴」にどんな方法で相談したいと思うか(学年とのクロス集計)



図表 46 「こころの鈴」にどんな方法で相談したいと思うか(「相談先の数」とのクロス集計)

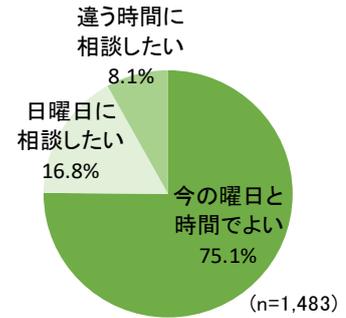


⑤ 「こころの鈴」に相談するときにご利用したい曜日、時間帯

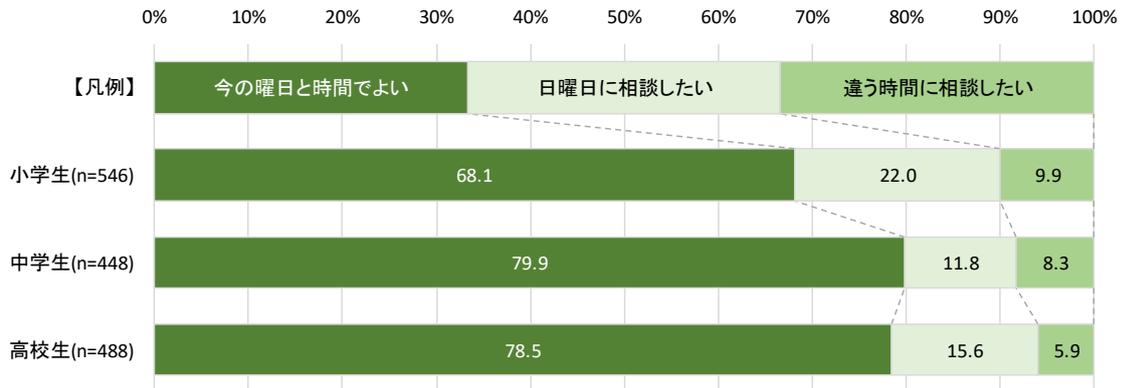
- 「こころの鈴」に相談するときにご利用したい曜日時間帯は「今の曜日と時間でよい」が最も多く、75.1%を占めている。「日曜日に相談したい」はついで16.8%を占めている。
- 学年別に見ると、小学生

図表 47 「こころの鈴」に相談するときにご利用したい曜日、時間帯

	度数(人)	割合(%)
今の曜日と時間でよい	1,114	75.1
日曜日に相談したい	249	16.8
違う時間に相談したい	120	8.1
合計	1,483	100.0



図表 48 「こころの鈴」に相談するときにご利用したい曜日、時間帯(学年とのクロス集計)



■ 「違う時間に相談したい」の内容

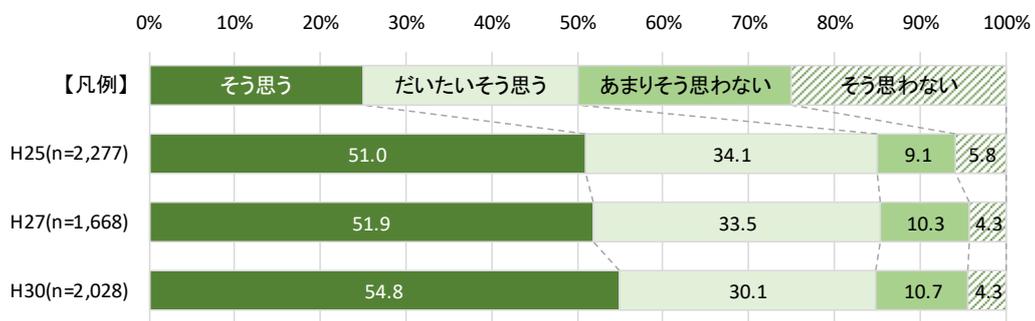
男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
休み時間	放課後	もっと遅い時間も対応すべき	20:30頃まで	毎日 8時～22時	21:00まで
土曜日、日曜日の午後	夜はもう少し遅い時間まで	深夜帯	水曜日の放課後	夜遅い時間	16:00～22:00
	月～木曜日の夜	平日の夜	金曜の放課後	土曜日の午前中、日曜日	学校と被らない時間、深夜
	日曜日の夜	家の人がいる時(学校が休み)	日曜日の午後	日曜日の夜	夜中
	部活動や学校が休みの日		休日の日	休みの日の夜	電話の場合、親が仕事でいない午前中がいい。
	24時間 365日				

(6)「あなたの意見を言ったりする機会」について

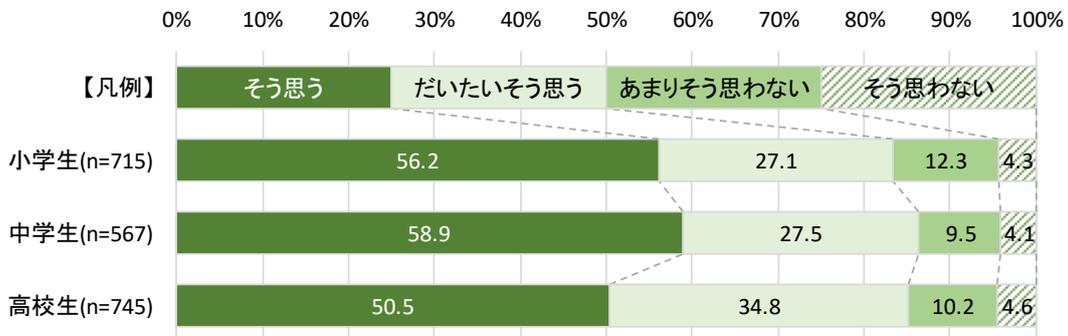
① 家庭で、あなたの考えや思っていることを聞いてもらっていると思いますか

- 平成 30 年度調査結果では、「そう思う」の割合が 54.8%となっており、過去調査結果と比較すると微増傾向にある。
- 学年別に見ると、高校生で「そう思う」の割合が比較的低いが、学年による大きな差異は認められない。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「家庭で考えを聞いてもらっていると思うか」に対して「そう思う」の回答が多くなっている。

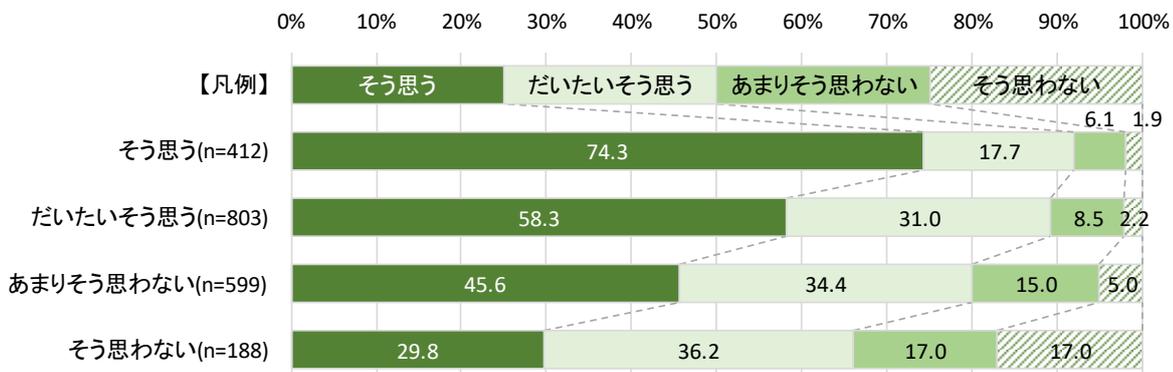
図表 49 家庭で考えを聞いてもらっていると思うか(経年比較)



図表 50 家庭で考えを聞いてもらっていると思うか(学年とのクロス集計)



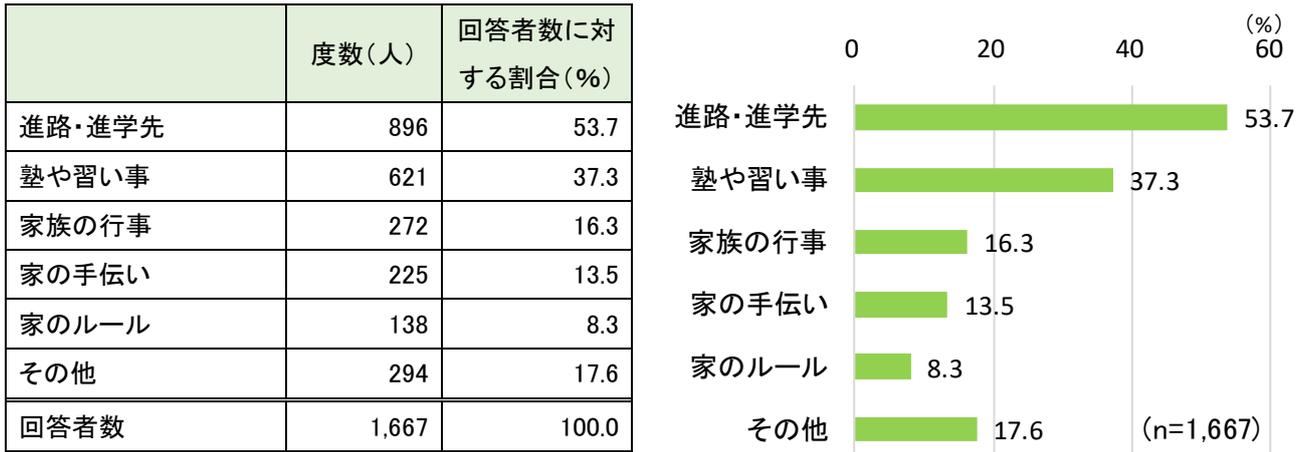
図表 51 家庭で考えを聞いてもらっていると思うか(縦軸「自分のことが好きか」とのクロス集計)



② 家庭で、聞いてもらった内容(複数回答)

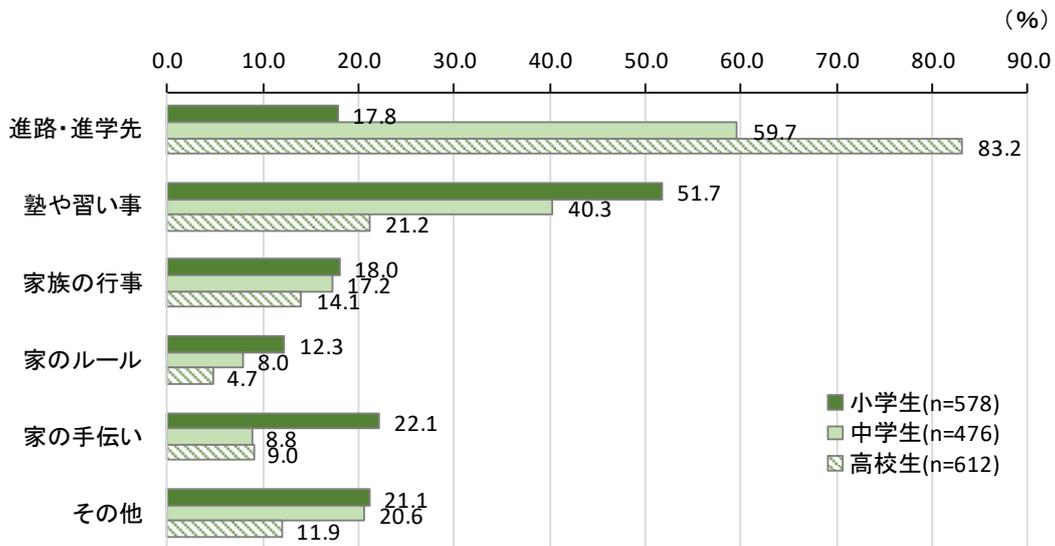
- 「家庭で聞いてもらった内容」では、「進路・進学先」が最も多く回答者の53.7%となっている。ついで、「塾や習い事」が多い。
- 学年別に見ると、小学生は「塾や習い事」、中学生・高校生は「進路・進学先」が最も多くなっている。「家のルール」「家の手伝い」については小学生が比較的多い。

図表 52 家庭で聞いてもらった内容



その他の内容		
学校であったこと	困っていること	恋愛について
友だちのこと	部活のこと	ゲームのこと
勉強、テストのこと	遊びに行く場所	楽しかったこと
部活、スポーツのこと	身体のことについて	離婚や引越しの話
		いじめのこと

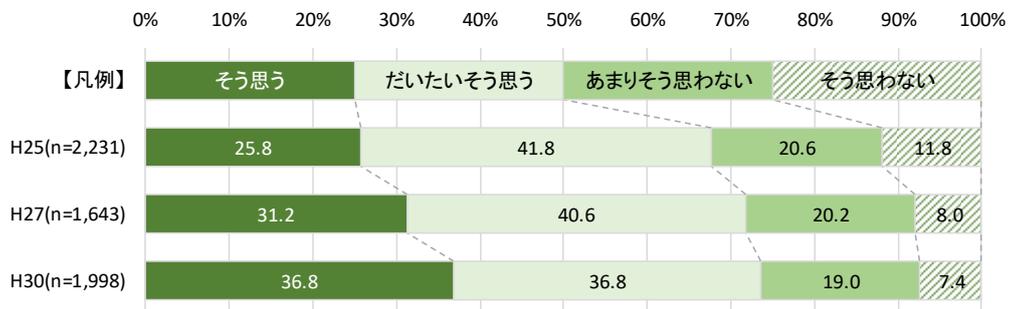
図表 53 家庭で聞いてもらった内容 (学年とのクロス集計)



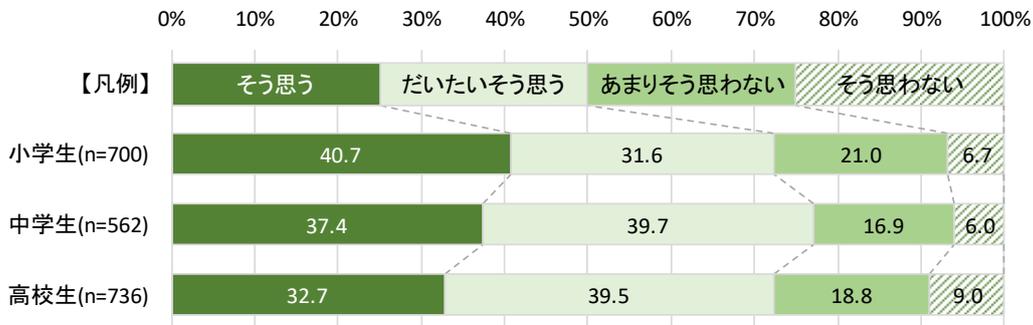
③ 学校で先生に、あなたの考えや思っていることを聞いてもらっていると思いますか

- 平成 30 年度調査結果では、「そう思う」の割合が 36.8%となっており、過去調査結果と比較すると増加傾向にある。
- 学年別に見ると、「そう思う」の割合は「小学生」で最も大きく 40.7%であり、学年があがるにつれて減少する傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「学校で先生に考えを聞いてもらっていると思うか」に対して「そう思う」の回答が多くなっている。

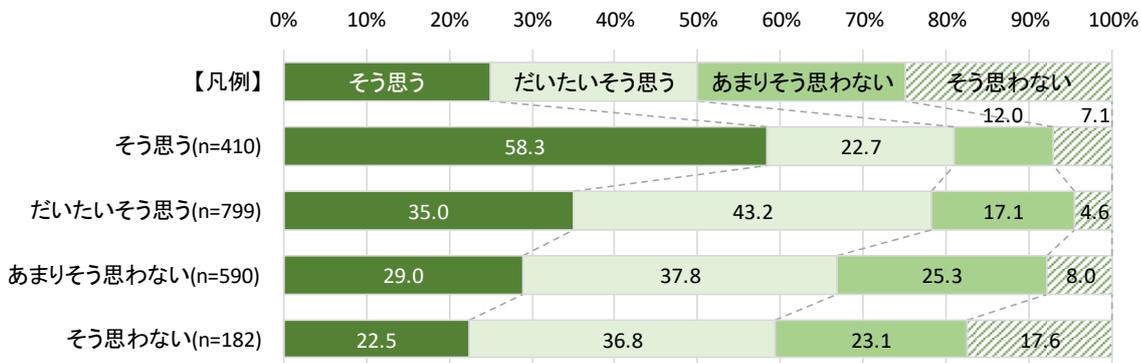
図表 54 学校で先生に考えを聞いてもらっていると思うか(経年比較)



図表 55 学校で先生に考えを聞いてもらっていると思うか(学年とのクロス集計)



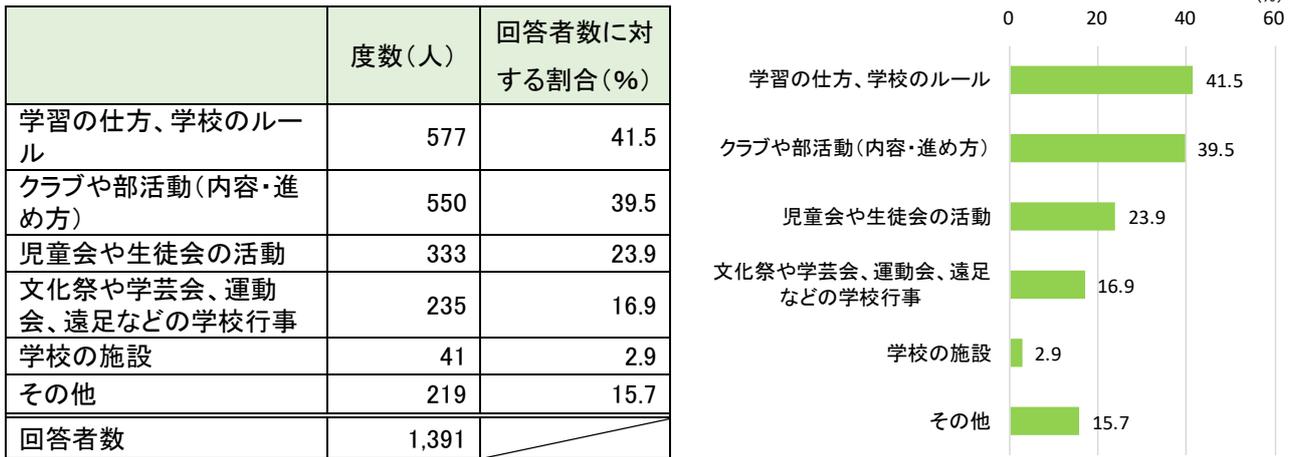
図表 56 学校で先生に考えを聞いてもらっていると思うか(「自分のことが好きか」とのクロス集計)



④ 学校で先生に聞いてもらった内容(複数回答)

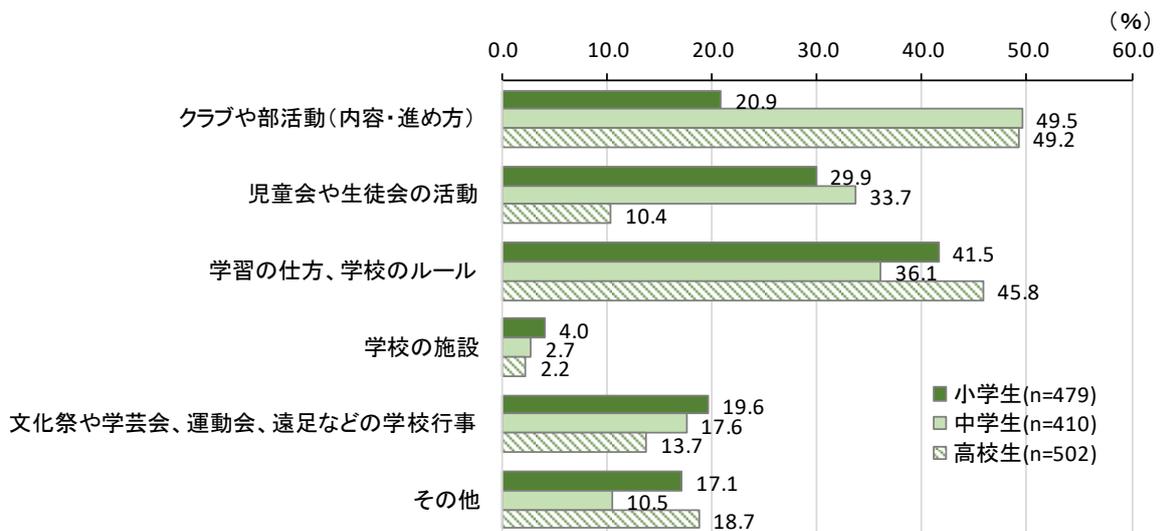
- 「家庭で聞いてもらった内容」では、「学習の仕方、学校のルール」が最も多く回答者の41.3%となっている。ついで、「クラブや部活動(内容・進め方)」が多い。
- 学年別に見ると、小学生は「学習の仕方、学校のルール」、中学生・高校生は「クラブや部活動(内容・進め方)」が最も多くなっている。

図表 57 学校で先生に聞いてもらった内容



その他の内容	
友だちのこと	習い事について
習い事のこと	進路、進学先
家庭のこと	部活のこと
困っていること	進学先について
いじめについて	不登校について

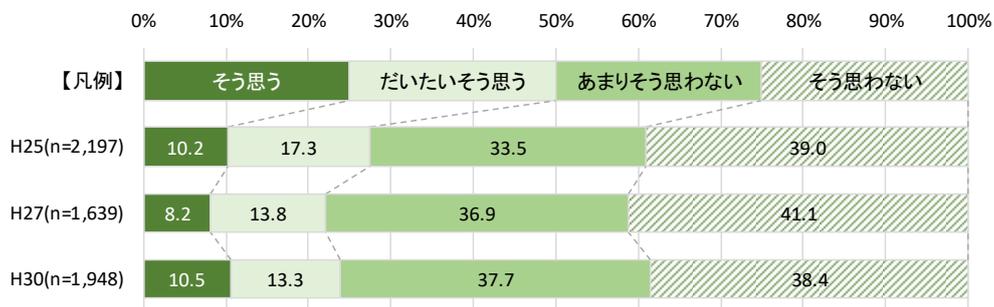
図表 58 学校で聞いてもらった内容(学年とのクロス集計)



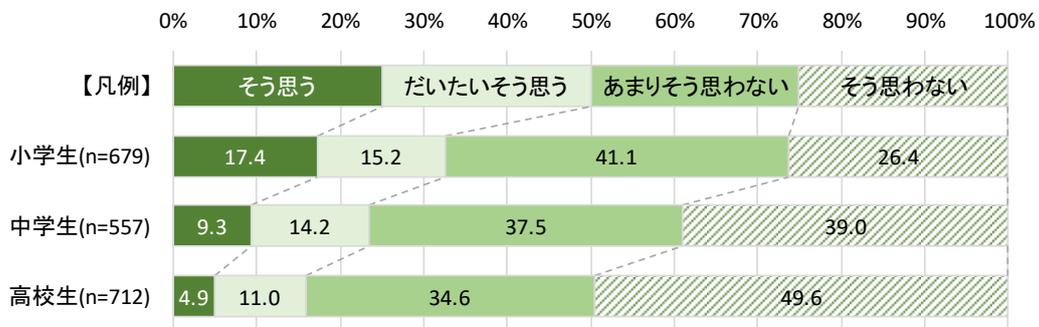
⑤ 地域で、あなたの考えや思っていることを聞いてもらっていると思いますか

- 平成 30 年度調査結果では、「そう思わない」の割合が 38.4%となっており、過去調査結果と同様の傾向である。
- 学年別に見ると、「そう思う」の割合は「小学生」で最も大きく 17.4%であり、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「地域で考えを聞いてもらっていると思うか」に対して「そう思う」または「だいたいそう思う」の回答が多くなっている。

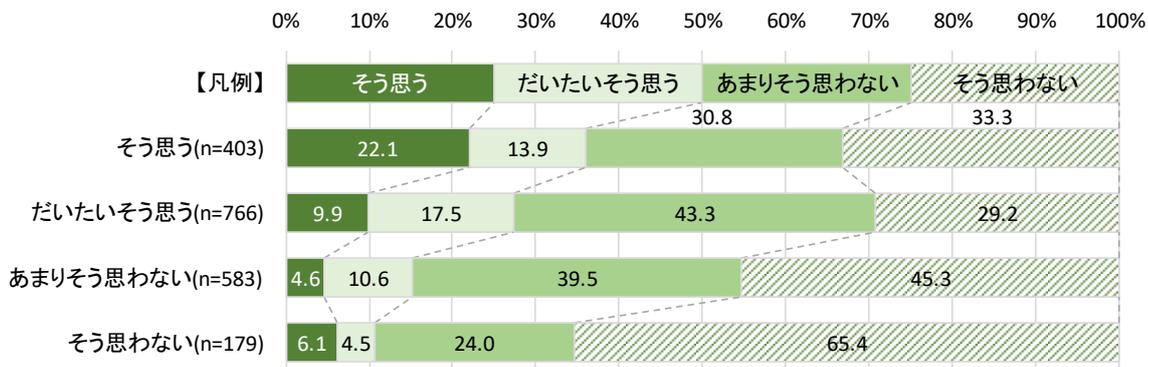
図表 59 地域で考えを聞いてもらっていると思うか(経年比較)



図表 60 地域で考えを聞いてもらっていると思うか(学年とのクロス集計)



図表 61 地域で考えを聞いてもらっていると思うか(「自分のことが好きか」とのクロス集計)

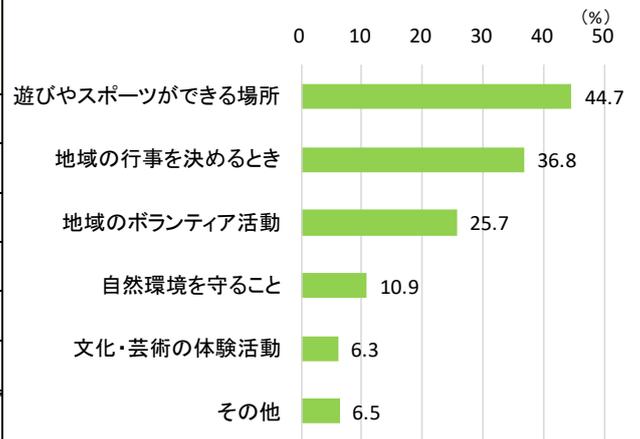


⑥ 地域で聞いてもらっている内容(複数回答)

- 「地域で聞いてもらった内容」では、「遊びやスポーツができる場所」が最も多く回答者の44.7%となっている。ついで、「地域の行事を決めるとき」が多い。
- 学年別に見ると、学年に関わらず「遊びやスポーツができる場所」が多くなっている。「地域の行事を決めるとき」は小学生が多く、「地域のボランティア活動」では中学生・高校生が多い。

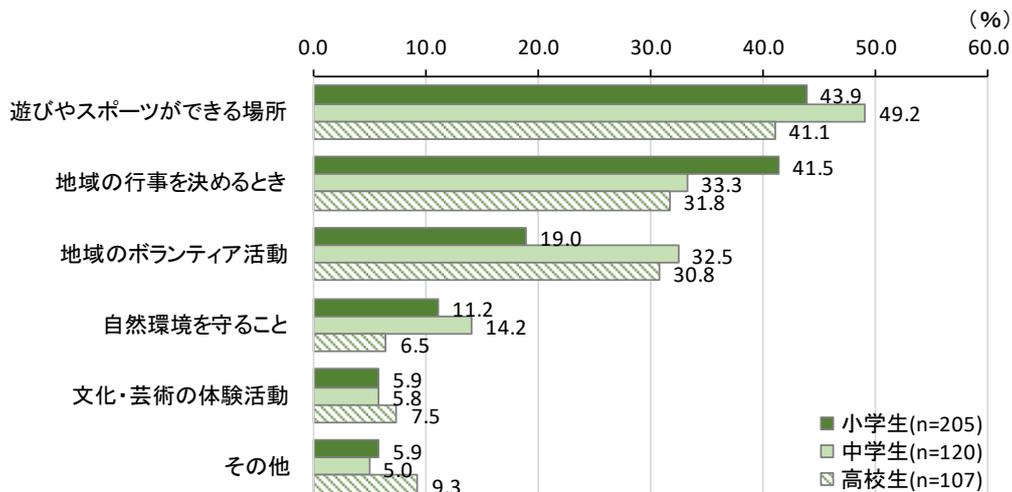
問 26 地域で聞いてもらっている内容(複数回答)

	度数(人)	回答者数に対する割合(%)
遊びやスポーツができる場所	193	44.7
地域の行事を決めるとき	159	36.8
地域のボランティア活動	111	25.7
自然環境を守ること	47	10.9
文化・芸術の体験活動	27	6.3
その他	28	6.5
回答者数	432	



その他の内容	
学校の特別活動	家であったこと
クラブのこと	通学路での危ないところ
習い事について	

図表 62 学校で聞いてもらった内容(学年とのクロス集計)

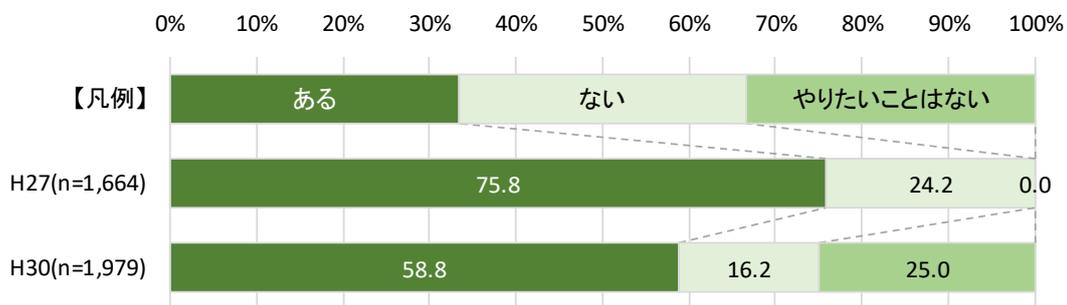


(7) 生活について

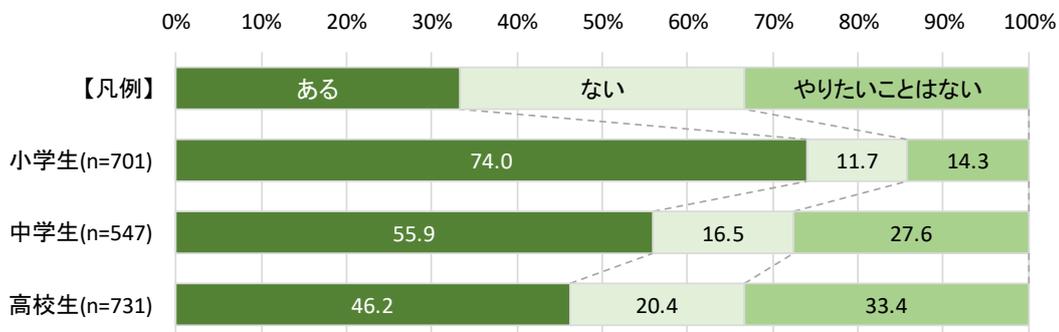
① 地域の中で、遊んだりスポーツをしたり、やりたいことができる場所がありますか

- 平成 30 年度調査では、地域の中でやりたいことが「ある」と回答した割合は 58.8%で、平成 27 年度調査から 17.0 ポイント減少している。
- 学年別に見ると、「ある」の割合は小学生が最も高く 74.0%で、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「地域の中でやりたいことがあるか」に対して「ある」の回答が多くなっている。

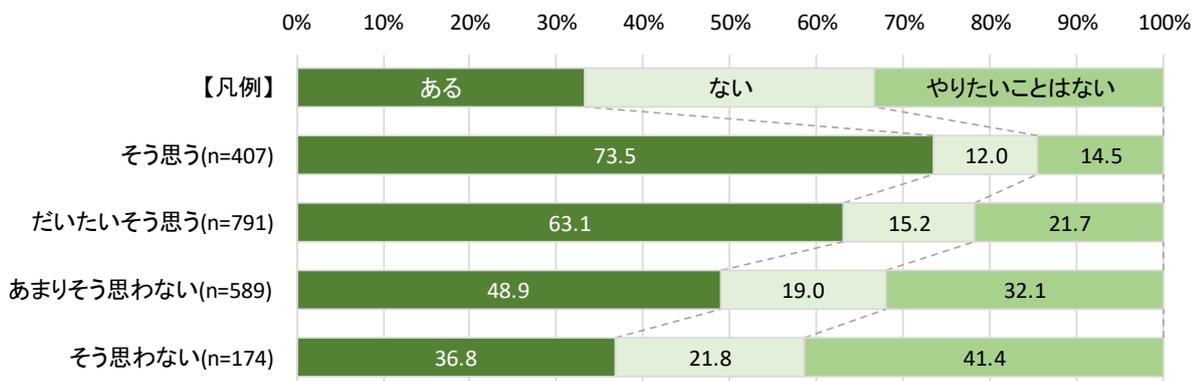
図表 63 地域の中でやりたいことが出来る場所があるか（経年比較）



図表 64 地域の中でやりたいことが出来る場所があるか（学年とのクロス集計）



図表 65 地域の中でやりたいことが出来る場所があるか（「自分のことが好きか」とのクロス集計）



② 地域の中で、やりたいことができる場所は、どこですか

- 「地域の中でやりたいことができる場所」は学年性別で大きな差はなく、「公園」「公民館」「スポーツ広場」「習いごと」「イオンモール」等が挙げられている。

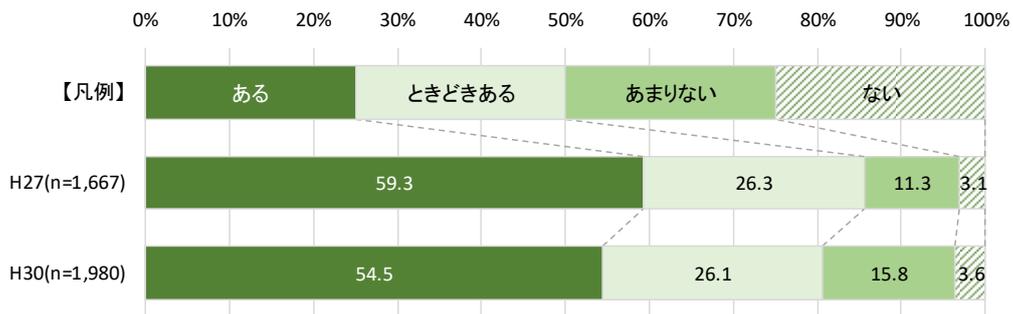
図表 66 地域の中でやりたいことができる場所はどこか

男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
ゲートボール場	ゲートボール場	公園	公園	公民館	公園
公園	運動公園	スカイパーク	公民館	公園	公民館
校庭	公園	学校の校庭	学校の校庭	運動場	体育館
公民館	山、川	図書館	神社	ショッピングモール	図書館
家の畑	学校のグラウンド	体育館、グラウンド	グラウンド	図書館	M ウイング
児童センター	駐車場	本郷小学校校庭	図書館	校庭、グラウンド	イオンモール
ゲームセンター	神社	公民館	児童館	駐車場	スカイパーク
スポーツ広場、運動公園	児童館	イオンモール	体育館	習い事	ライブハウス
習い事の教室	スカイパーク	プール	空き地	スカイパーク	習い事
駐車場、空き地	イオン	スタジオ	習い事	やまびこドーム	あがたの森
あがたの森	アルウィン	カラオケ、ゲームセンター		あがたの森	
スカイパーク		カードショップ			
		山や川			
		本屋			

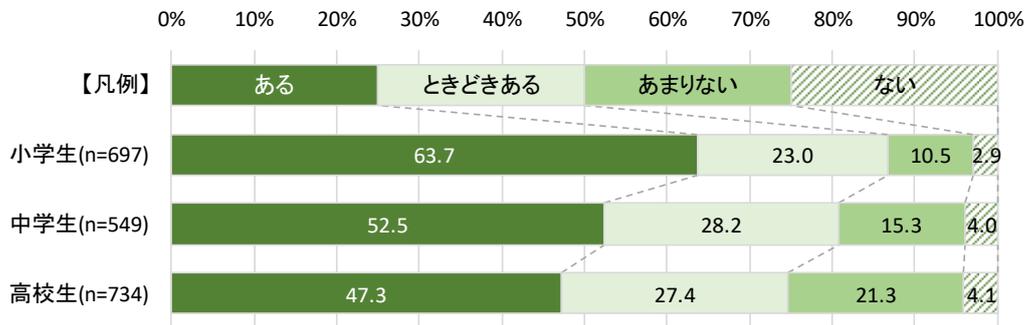
③ あなたには、遊んだり休んだり、自分の好きなことをする時間が十分にありますか

- 平成 30 年度調査では、自分の好きな事をする時間が「ある」と回答した割合は 54.5%で、平成 27 年度調査から 4.8 ポイント減少している。
- 学年別に見ると、「ある」の割合は小学生が最も高く 63.7%で、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「自分の好きな事をする時間があるか」に対して「ある」の回答が多くなっている。

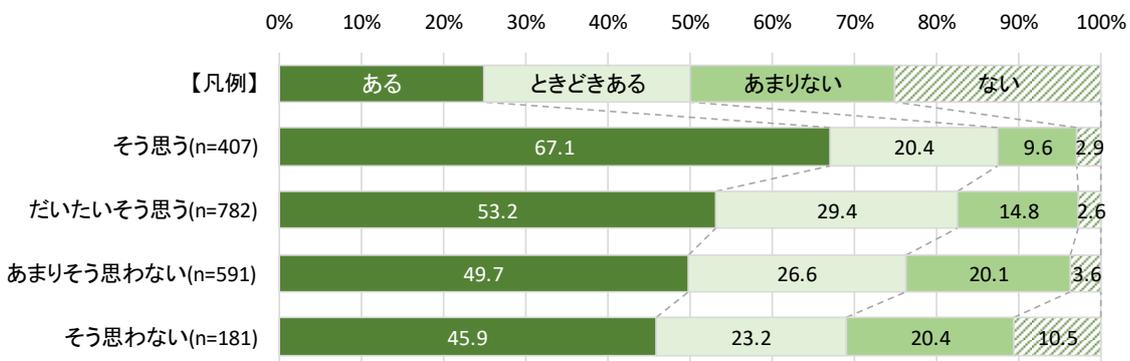
図表 65 自分の好きなことをする時間が十分にあるか（経年比較）



図表 65 自分の好きなことをする時間が十分にあるか（学年とのクロス集計）



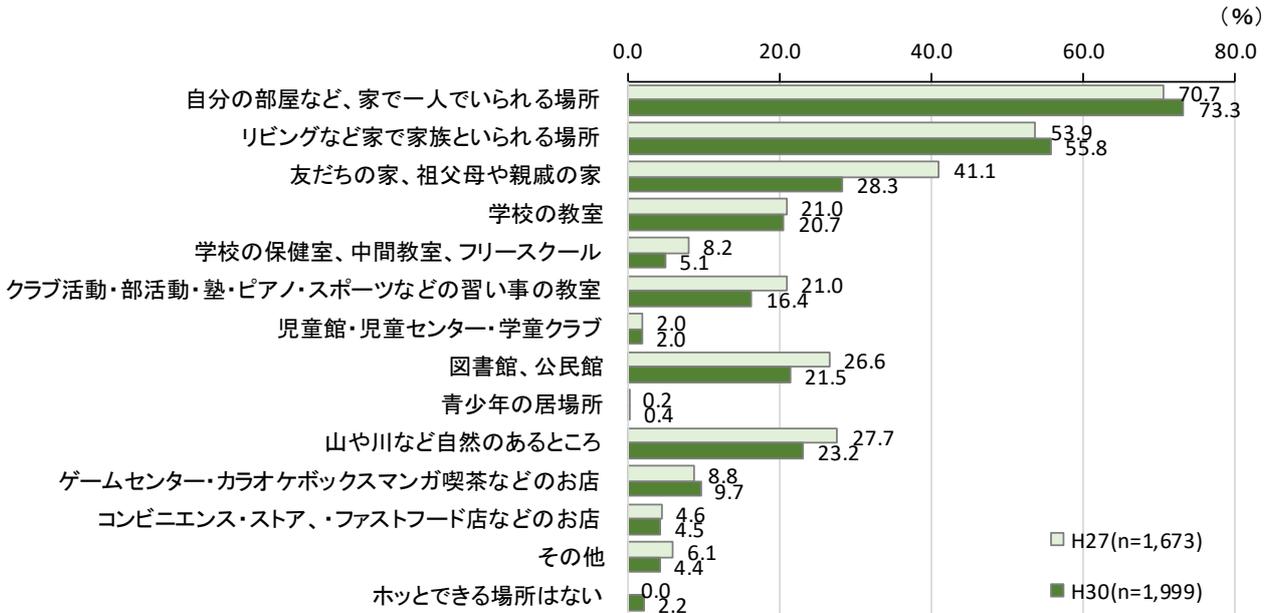
図表 65 自分の好きなことをする時間が十分にあるか（「自分のことが好きか」とのクロス集計）



④ あなたにとって、ホッとできる場所はどこですか

- 「ホッとできる場所」は平成 30 年度調査では平成 27 年度調査と同様、「自分の部屋など、家で一人でいられる場所」が最も多く、73.3%が回答している。ついで、「リビングなど家で家族といられる場所」が多くなっている。
- 平成 27 年度調査と比較すると、「友だちの家、祖父母や親戚の家」の回答が少なくなっている。

図表 65 ホッとできる場所はどこか（経年比較）

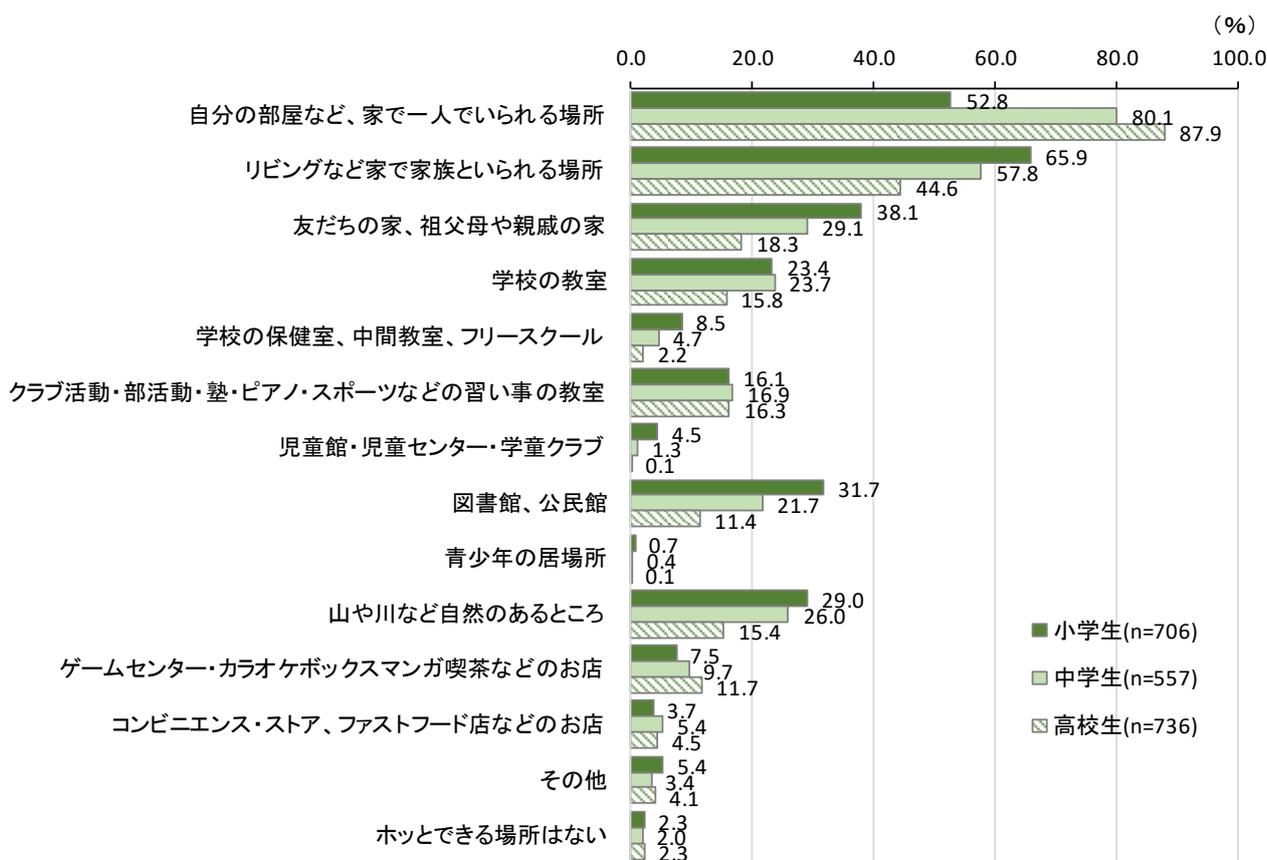


■その他の内容

男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
お風呂、布団の中	映画館	お風呂	家のベッド	一人の時	お風呂
狭い場所、暗い場所	ふとんの上	屋外	友達といる時	ショッピングモール	駅
公園	一人になれる所	プール	本屋	温泉等	布団の中
仲のいい友達といる時	電車の中	部室	プール	布団の中	トイレの個室
1人でいられる場所	友達とフードコートで勉強すること		くらくてしずかで、せまくて、ひとりであたたかい所	外で1人で歩いているとき	一人でいられるところ
遊んでいるとき	家の外に1人でいる時		お風呂	友だちのそば	模型店
おもちゃ屋さん	トイレ		動物園		部室
ホテル			和室		バンドのスタジオ
			スタバ		
			秘密基地		
			楽器庫		
			野球の練習場		
			本屋		

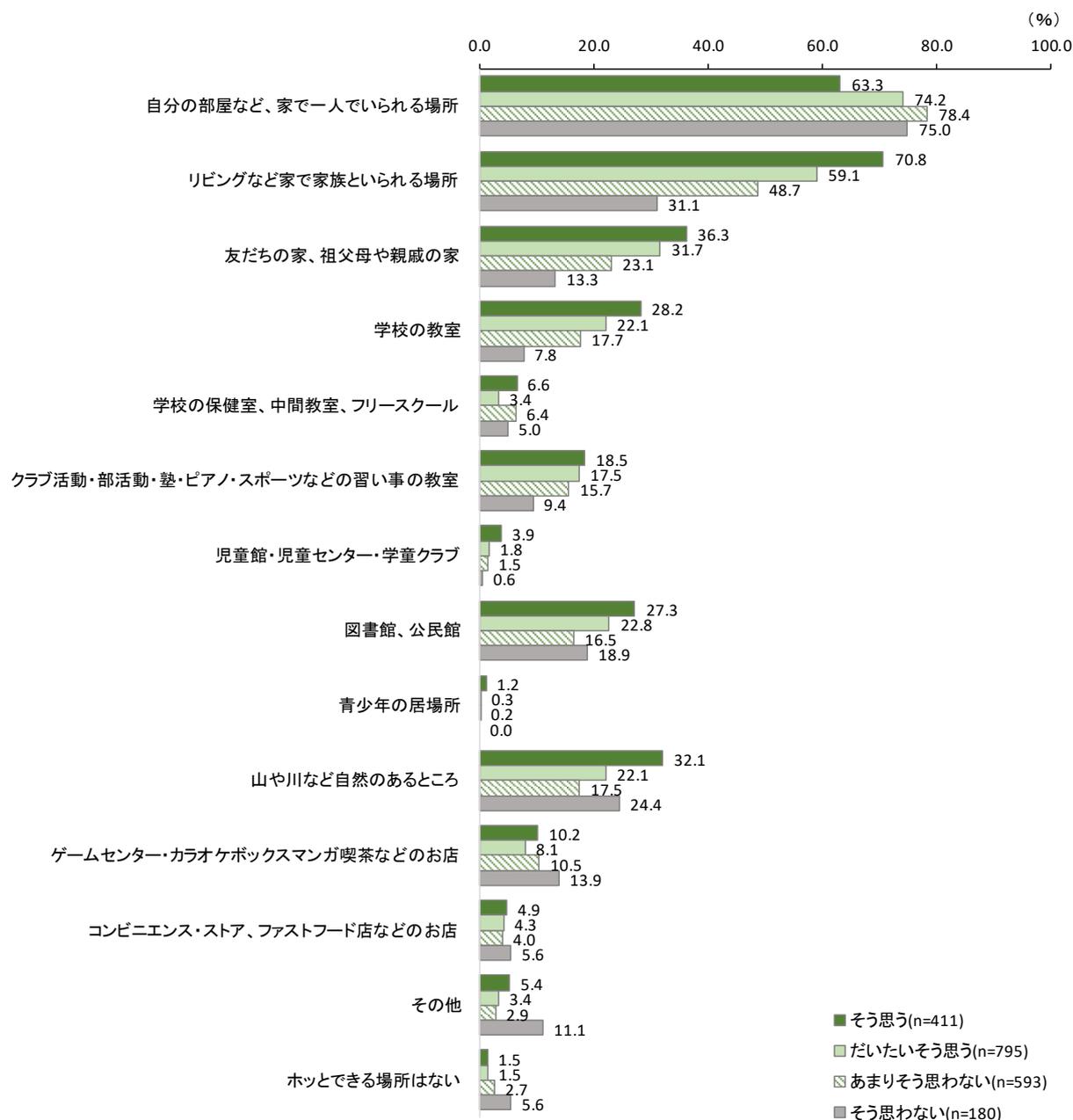
- 学年別に見ると、小学生では「リビングなど家で家族といられる場所」が最も多く、中学生・高校生では、「自分の部屋など、家で一人でいられる場所」が最も多くなっている。
- 学年が低いほど回答が多い傾向にあるのは、「リビングなど家で家族といられる場所」「友だちの家、祖父母や親戚の家」「学校の教室」「図書館、公民館」「山や川など自然のあるところ」の項目となっている。
- 学年が高いほど回答が多い傾向にあるのは、「自分の部屋など、家で一人でいられる場所」となっている。

図表 65 ホットとできる場所はどこか（学年とのクロス集計）



- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「そう思う」と回答した人は「リビングなど家で家族といられる場所」が最も多く、それ以外の回答（「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」）では、「自分の部屋など、家で一人でいられる場所」が最も多くなっている。
- 「自分のことが好きか」の回答が肯定的な人に多い傾向にあるのは、「リビングなど家で家族といられる場所」「友だちの家、祖父母や親戚の家」「学校の教室」などの項目となっている。
- 「自分のことが好きか」の回答が否定的な人に多い傾向にあるのは、「自分の部屋など、家で一人でいられる場所」「ホッとできる場所はない」となっている。

図表 65 ホッとできる場所はどこか（「自分のことが好きか」とのクロス集計）

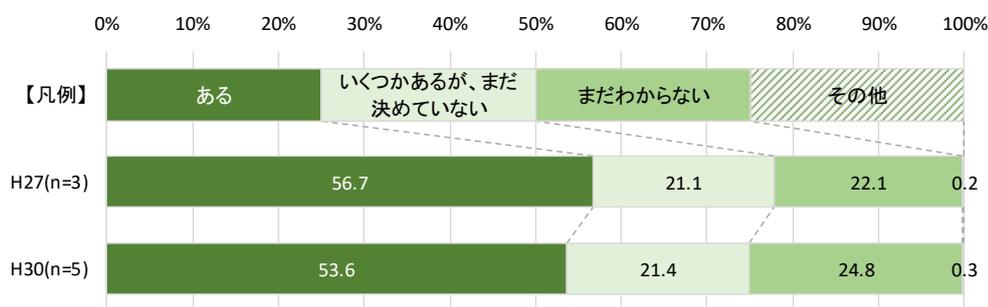


(8) 将来の仕事について

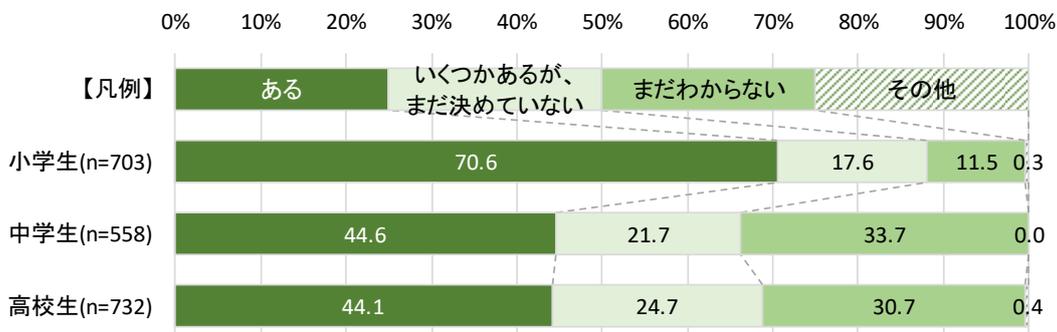
① あなたは、将来、つきたい仕事はありますか

- 平成30年度調査では、将来つきたい仕事があるか「ある」と回答した割合は53.6%で、平成27年度調査から3.1ポイント微減している。
- 学年別に見ると、「ある」の割合は小学生が最も高く70.6%で、中学生・高校生では45%程度に減少する傾向がある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「将来つきたい仕事があるか」に対して「ある」または「いくつかあるが、まだ決めていない」の回答が多くなっている。

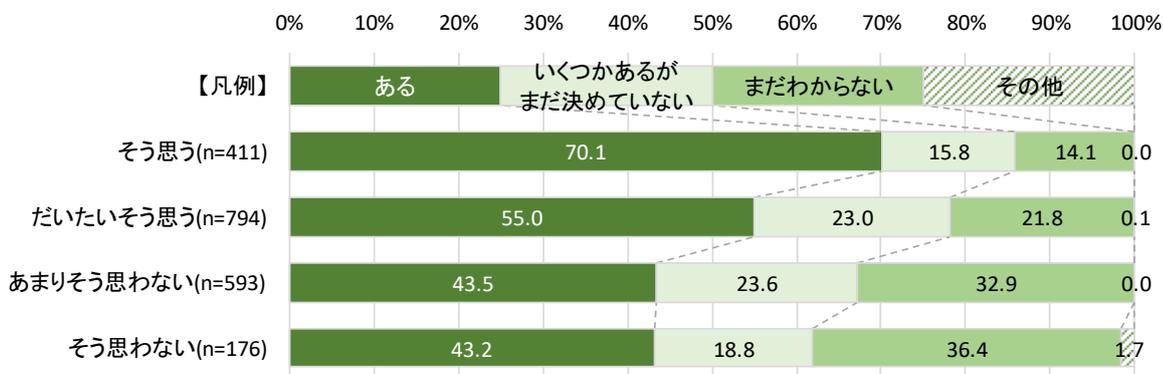
図表 65 将来つきたい仕事はあるか（経年比較）



図表 65 将来つきたい仕事はあるか（学年とのクロス集計）



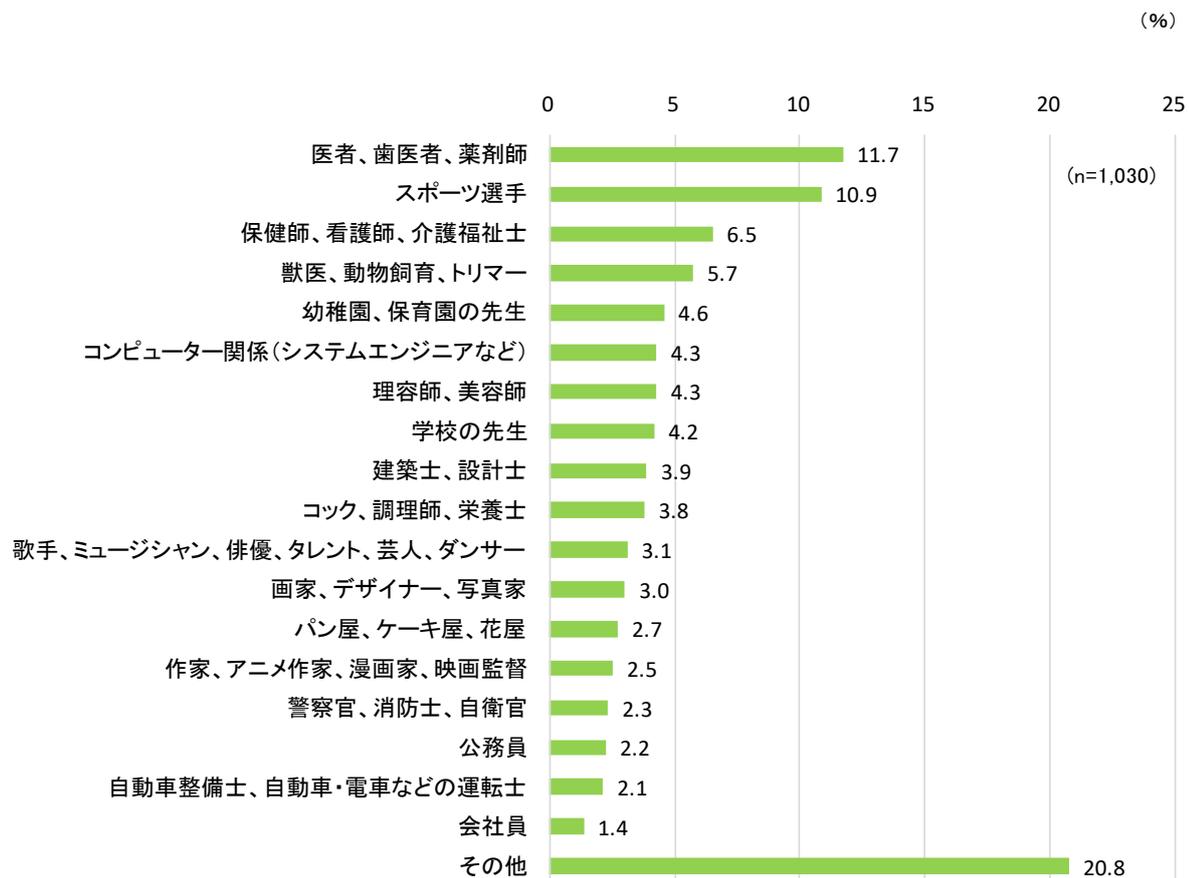
図表 65 将来つきたい仕事はあるか（「自分のことが好きか」とのクロス集計）



② 今、一番なりたいと思っている仕事

- 「今、一番なりたいと思っている仕事」は選択肢に含まれない「その他」の項目が最も多くなっており、なりたい職業が多様化している状況が伺える。
- 「その他」の次に多いのは「医者、歯医者、薬剤師」で、ついで「スポーツ選手が多くなっている。」

図表 65 今、一番なりたいと思っている仕事

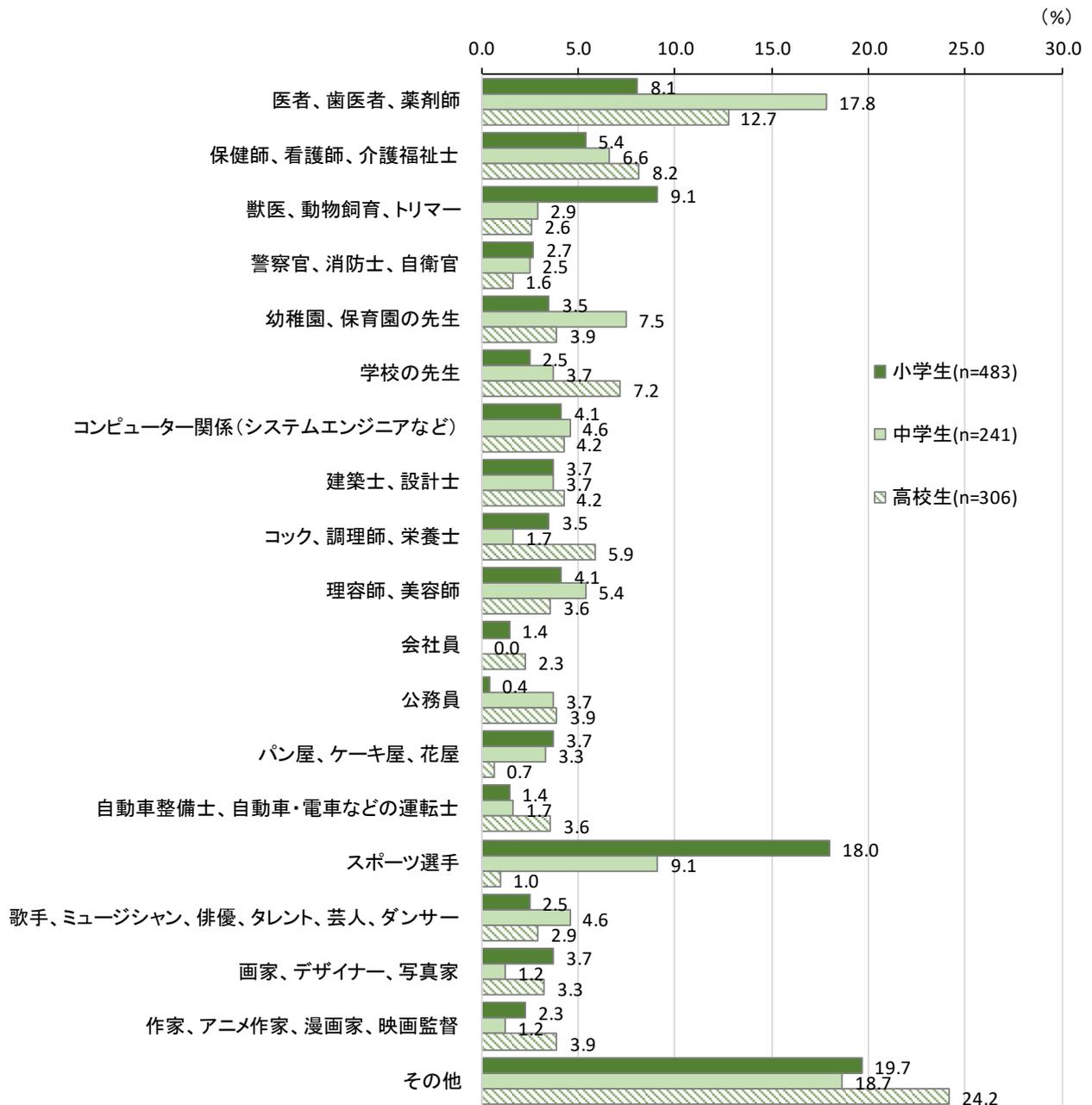


■「今、一番なりたいと思っている仕事」 その他の内容

男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
発明家	考古学者・物理学者	柔道整復師	イラストレーター	動物看護師	アパレル
農業	大学教授・研究者	鍼灸師	アパレル	声優	ウエディングプランナー
生物学者・科学者	プロゲーマー	救急救命士	助産師	ウエディングプランナー	国連スタッフ
ゲームクリエイター	山岳ガイド・パークレンジャー	ゲームクリエイター	客室乗務員	国連スタッフ	会計士
イラストレーター	ゲームクリエイター	大学教授・研究者	農業	スタイリスト	税理士
レゴクリエイター	ベンチャー企業	ジャーナリスト	ゲームクリエイター	職人さん	放射線技師
航空整備士	農業	製薬会社	ならいごとの先生	弁護士、検事	管制官
YouTuber	NASA で働く	弁護士、検事	テレビスタッフ	作曲、編曲家	学芸員
旅館のオーナー	声優	繊維関係の職業	アナウンサー	タカラジェンヌ	水泳のコーチ
水族館スタッフ	YouTuber	レコーディングエンジニア	動物保護	校閲	ホテルマン
パイロット			歯科衛生士	助産師	歯科技工士
義肢装具士		ウエディングプランナー	ディズニーキャスト	雑誌を作る人	照明スタッフ
ピアニスト		銀行員	検査技師	言語聴覚士	法関係
科学者		社会福祉士	内閣総理大臣	ディズニーキャスト	ホテルマン
ゲームクリエイター		電気工事士	カウンセラー	企画運営	国際関係
裁判官		内閣総理大臣	本屋	編集者	イラストレーター
お坊さん		塾講師	水族館スタッフ	企画運営	声優
漁師		農林漁業	司書	翻訳	心理カウンセラー
壁はり		ホテルマン		動物保護	アニメーター
大工		パリスト	サービス業	和裁	日本語教師
自動車のメカニック		スーパーの店員	犬の調教師	ネイリスト	臨床心理士
解体業		お店の店員	書道家	司法関係	外交官
弁護士、検事		製造業	司書	図書館司書	メディア関係の企画、広報
プロゲーマー		ホテルの清掃	文房具を作る人		作業療法士
YouTuber		就労移行支援	キャンディー屋さん		編集者
プロ野球の監督			YouTuber		客室乗務員
			モデル		国際関係
			通訳		客室乗務員
					動物看護師
					医療事務

- 学年別に「今、一番なりたいと思っている仕事」を見ると、どの学年でも「その他」の項目が最も大きくなっている。将来の職業選択が多様化している状況がうかがえる。
- 「その他」を除くと、小学生では「スポーツ選手」が最も多く、中学生・高校生では「医者、歯医者、薬剤師」が最も多くなっている。

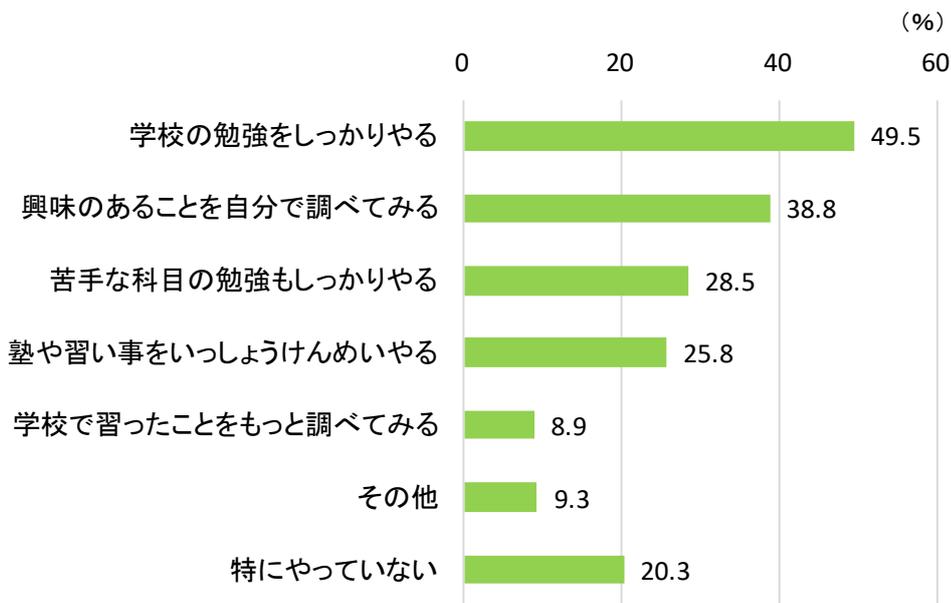
図表 65 今、一番なりたいと思っている仕事(学年とのクロス集計)



③ 今、一番なりたいと思っているに就くためにやっていることはなんですか(複数回答)

- 「今、一番なりたいと思っているに就くためにやっていること」は、「学校の勉強」が最も多く49.5%となっている。ついで、「興味のあることを自分で調べてみる」が多い。
- 学年別に見ると、どの学年でも「学校の勉強」が最も多くなっている。
- 学年が低い方が回答の多い傾向にある項目は「苦手な科目の勉強」「塾やならいごと」であり、学年の高い方が回答の多い傾向にある項目は、「学校の勉強」「特になにもやっていない」となっている。

図表 65 今、一番なりたいと思っている仕事につくためにやっていること

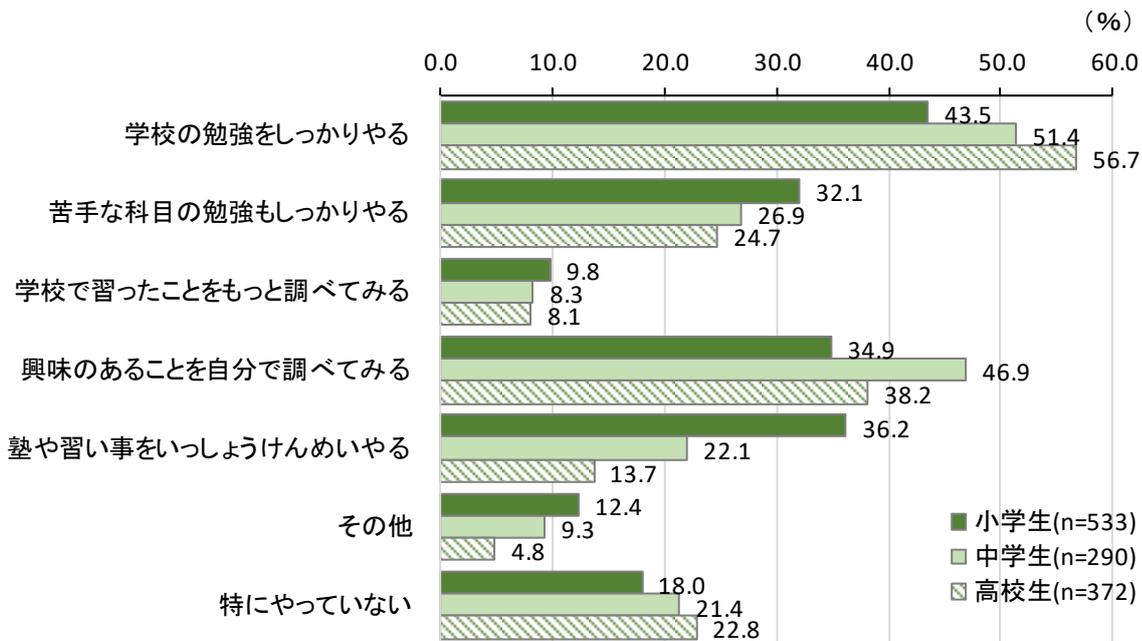


■その他の内容（抜粋）

男性			女性		
小学生	中学生	高校生	小学生	中学生	高校生
筋トレ	自主練習	留学	体力をつけている	イメージトレーニング	学校で習う以外の語学勉強
自分でものを作る	機械の分解、解体	絵の練習	ペットの世話	自分から積極的に話かける	先輩に相談する
自主練習	山登り	学校の先生の悪いところといいところをしっかりと見ている	裁縫	それになれるような高校や大学への進学	自主練習
画力を高める	プログラミング	ニュースを見る	自主練習	髪の毛のアレンジ	
ユーチューバーを見習う	父の職場に行く	ビルの清掃	友だちの相談を受ける	毎日歌っている。	部活に一生懸命取り組む
大会に出る		働くための勉強	絵をたくさん描く	進路を考える。	漫画投稿
動物の写真を撮る			小さい子に接する	部活	料理をする
犬にご飯をあげる			服のデザインを考える		
たくさん辞書を使う			ケーキを作る		
			小説を書く		

- 学年別に見ると、どの学年でも「学校の勉強」が最も多くなっている。
- 学年が低い方が回答の多い傾向にある項目は「苦手な科目の勉強」「塾やならいごと」であり、学年の高い方が回答の多い傾向にある項目は、「学校の勉強」「特になにもやっていない」となっている。

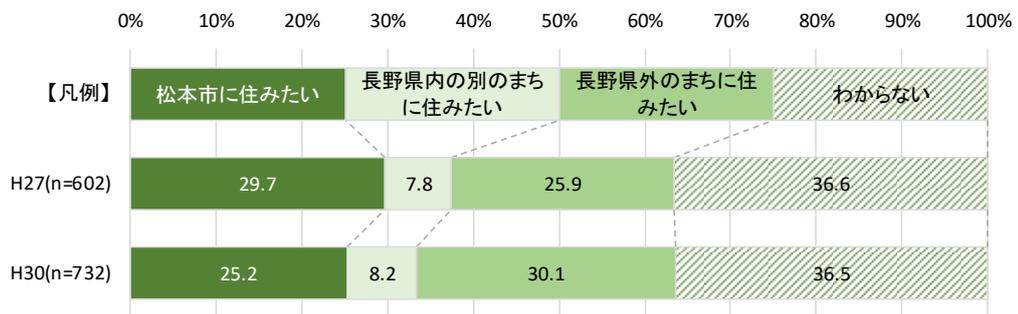
図表 65 今、一番なりたいたいと思っている仕事につくためにやっていること



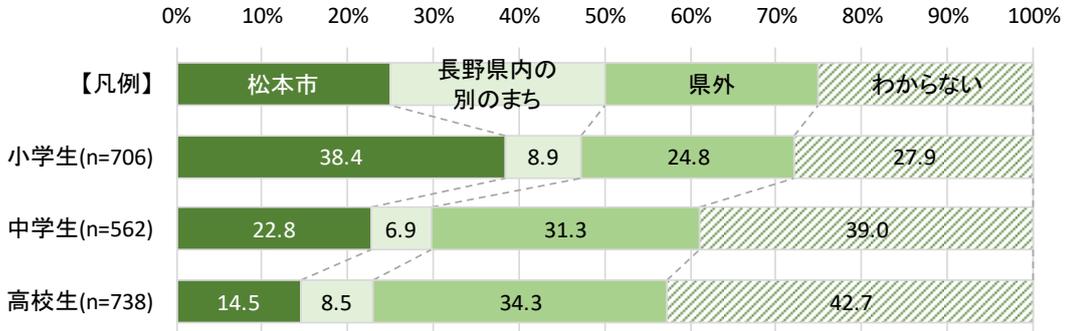
④ おとなになって住みたいまちはどこですか

- 平成 30 年度調査では、おとなになっても「松本市に住みたい」と回答した割合は 25.2%で、平成 27 年度調査から 4.5 ポイント減少している。
- 学年別に見ると、「松本市に住みたい」の割合は小学生が最も高く 38.4%で、学年が上がるに連れて減少する傾向にある。
- 「自分のことが好きか」の回答別に見ると、「自分のことが好きか」に肯定的な回答をしている人ほど、「おとなになって住みたいまちはどこか」に対して「松本市に住みたい」とする回答が多くなっている。

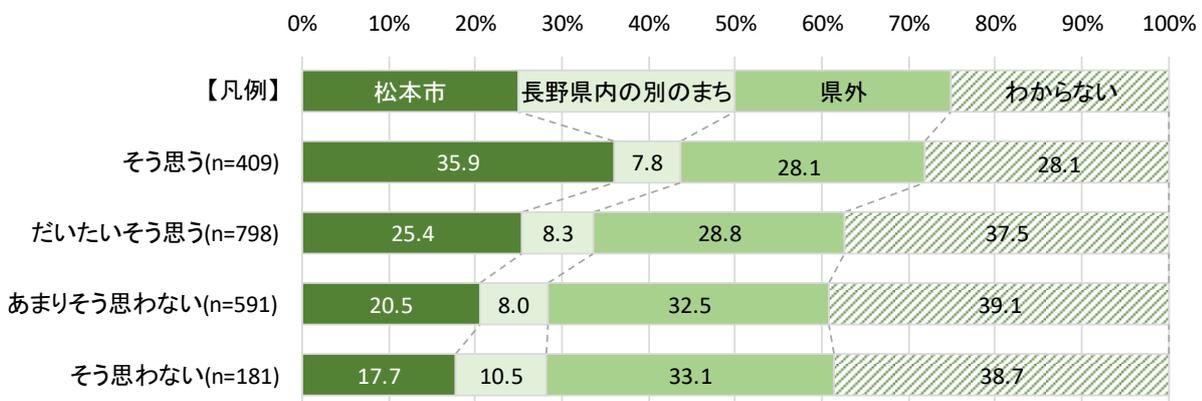
図表 65 おとなになって住みたいまちはどこか(経年比較)



図表 65 おとなになって住みたいまちはどこか(学年とのクロス集計)



図表 65 おとなになって住みたいまちはどこか(「自分のことが好きか」とのクロス集計)



⑤ 「おとなになって住みたいまちはどこか」の回答の理由

- 「松本市に住みたい」と回答した人の理由として、「ふるさとだから」「松本市自体が好きだから」「親、友だちがいるから」が挙げられている。
- 松本市以外に住みたい理由として、「別のところに住んでみたい」「やりたいことがある」「都会に住んでみたい」等が挙げられている。

図表 65 「おとなになって住みたいまちはどこか」の回答の理由

松本市に住みたい
ふるさとだから、親しみがあり、落ち着くから
松本市自体が好き、便利、文化財がある
自然が豊かだから、災害がくて安心
親がいるから
友だちがいるから
周りの人がいい人が多いから
他がわからない、他にいきたくないから
長野県内の別のまちに住みたい
長野県がふるさとだから、長野県がよいから
別のところに住んでみたい
他の市町村でやりたいことがあるから
自然が豊か、静かな場所
親から離れすぎないから
友だちの近くに住みたいから
県外に住みたい
別のところに住んでみたい
他でやりたいことがある、大学がある、将来の夢を実現するため
松本ではできる仕事が少ないから
もっと都会で、にぎやかなところで住みたいから
もっと田舎にいきたい
人生をやり直したいから
わからない
将来のことはまだ分からないから
進路が決まっていないから
まだ子どもだから

⑥ あなたが、松本市やおとなに「やってほしいこと」や「こんなことができたらいいな」ということ

- 松本市や大人にやってほしいこととしては、「子どもの権利に関すること」や「自然環境の保全」「公園や図書館等の整備」「学校設備や教育内容の改善」「地域との関わり」「安全・生活環境・交通」についての意見が挙げられた。
- 子どもの権利に関することとしては、「いじめをなくすこと」「子どもの話をきくこと」「相談できる場所の確保」等が挙げられた。

図表 65 松本市やおとなに「やってほしいこと」や「こんなことができたらいいな」ということ
抜粋(小学生)

子どもの権利に関すること
いじめのないようにしてほしい。
子どもの事もしっかり考えて、大切にしてほしい。大人、子ども関係なく意見が言える場所をもっと作ってほしい。
こころのすずの相談員が学校にきて1人1人話し合いたい。学校を休みたいと思ったときに相談したい。
ストレスを発散したり、思いをうちあけられるような市になるといいです。
ママは、自分の意見だけ言って僕の話は聞かない、というのをやめてほしい。
お母さんと1日でもいいから2人でいっしょにいたい。もっと話したい。
親が傷つく言葉を言ってるのが嫌だから言葉を優しくしてほしい。
学校のアンケートで先生の事を書きたくても先生が見るので書けないから校長先生や教頭先生が見て欲しい。
もう少し親がやさしくなって欲しい。怖くてやりたくなくなる。
「こころの鈴」に電話しづらい人もいると思うので紙などに「安心して相談できます」など書いたほうが良いと思う。
もっと大人が優しくしてほしい。嫌なことがあって聞いてくれるとき話をできる場所できてほしい。
小学生だって長野県民だから長野県の県知事の選挙に投票したい。
友達ではないけどクラスの人がやなことをしてくるから親にちゃんとしてほしい。
自然環境の保全
松本市の自然をもっと豊かにしてほしい。
松本市は自然を守る市であってほしい
高速道路とかをたくさん作らないでもらいたいです。松本市は自然豊かな町なので壊さないで欲しい。
僕は入山辺に住んでいて、松が枯れたら土砂崩れで死ぬかもしれないのでマツクイムシの駆除剤散布をやって欲しいです。
ポイ捨てを絶対禁止にして生き物たちの住みやすい町にして欲しい。
子供も山や川、自然を守るために山や川のお掃除などをしたいです。もっと大人と子供と一緒に参加できるようにしてもらいたいです。私は山や川が大好きです。
公園等遊べる環境の整備
もう少し公園などの遊べる場所を増やしてほしい。
おもいきり遊べて、いろんな遊具をたのしめる「みんなの公園」を作ってほしい。
もっとアトラクションがある遊園地のようなものがほしい。
公園のフェンスを高くして、自由にサッカーをしてあそびたい。
公共のグラウンドをもっと増やしてほしい。
雨が降った時に遊べる所が近くに少ないから欲しい。
放課後や土曜日日曜日に時間はあるけど近くにスポーツのできる場所や遊ぶところがないから、もしできるのであればそのようなところを作って欲しい
水族館や動物園を作って欲しい
図書館を増やしてほしい
学校設備・教育内容等の改善
学校にもクーラーをつけてほしい。
市長といっしょにご飯を食べたい。
1学校に1つプールをつくってほしい。
図書館をもっと充実させてほしい。自由に勉強できるスペースを作ってほしい。
春休み、夏休み、冬休みをたくさん増やしてほしいです。
授業をノートじゃなくてタブレットで受けられるようにしてほしい。黒板じゃなくてホワイトボードにほしい。

サッカーをやりたいので校庭を芝生にして欲しい(人工芝でも可)
学校にエレベーターを作ってほしい
教科書などをなくして電子式にしてほしい
他の学校の子どもや地域の人との交流の機会を増やしてほしい。
無料や安く使える塾を作ってほしい
市内の図書館の本を増やしてほしいです。
仕事体験をやってみたい。看護師になりたいので病院での仕事をやりたい。
スウェーデンなど、60代以上、18歳以下の人は物が半がく、または無料のようにしてほしい。社会見学をふやしてほしい。しんかんせんを通してほしい。ロング休みを10分ふやしてほしい。国道を大きくしてほしい。子どもにやさしくしてほしい。
プログラミング教室をやしてほしい
授業を午前中のみにして欲しい。学校改革として生徒の自主性を尊重するように教師の指導法を検討して欲しい。その一つとして宿題があると自由な時間が削られてしまうから宿題をなくして欲しい。
病気の時とか親に本を借りてきてもいい様にして欲しい。今は自分の図書カードで本人しか借りれない。
夏休みなどを長くとってほしい
高校や大学ではどのような勉強を何が楽しいか楽に聞ける会を開いて欲しい
手芸や料理の講座、松本の文化の体験・工作体験の教室を開いてほしい
地域との関わり
もっと行事を多くしてほしい。ミニ運動会ができればいい。
もっと地区行事を増やしてほしい。
おとなと、サッカーやスポーツをみんなでやってほしい。
大人と子供の行事を長野県や松本市で多くする。
ハロウィンなどの行事があるとき、地域の人々とハロウィン会などの会をやり、もっと仲良くなりたい。
野球教室をたくさんやって欲しい
高齢者が安心していろいろなことができるものや場所。赤ちゃん～おじいさんおばあさんまでの世代の人たちがみんなと思いついて活動できる場所。
地域との協力を深めこれからも地域の協力やゴミを捨てないきれいな町にして欲しいと思います。
安全・交通・生活環境
電車の数をふやしてほしい
こまっていたら助けてもらえる。悪い人がいなくなるようにして、安心してくらしたいです。
学校に行くときに、不審者など子供を襲う人がいるので嫌です。
松本市に住んでいる人がみんな安心して暮らせるようになって欲しい。
土、日に防災訓練があればいいと思う。
交通ルールが悪い大人が多い
子供が安心して帰るように授業時間を早くし帰り道にガードマン、警官を立たせる。・家で一人にさせない。・一人で帰らない。
通学路は狭くて一人になることが多いから大人に立っていてもらいたい。
市内でみんなで遊べるレクリエーション、市内でたくさんの人とふれあえる場所。
交通量が多い交差点のまだ信号がついていないところに信号をつけてほしいです。歩道をもっと整備してほしいです。い
中山線を復活させて欲しい。中山にお店が欲しい。
附属小のスクールバスが欲しい
イオンモールの渋滞をなくして欲しい
交通などのルールをしっかり守ってほしい。(自転車など)
学校に自転車で登校ができるようにして欲しい
外のごみ箱を作ってほしい。
タバコを捨てないで欲しい
ゴミ拾いなどの行事をたくさん増やして松本市をきれいにして欲しい
私は松本のゴミを0にしたい(おちたりしてる)
たばこは自分だけでなく歩いている人などにも被害を与えてしまうからタバコの吸っていいところを決めてほしい。・ゴミをしっかりとゴミ捨て場に捨てて欲しい。・犬の散歩の時ウンチをしっかりとって欲しい。
学区外にも自由に行けるようにしてほしい。

図表 65 松本市やおとなに「やってほしいこと」や「こんなことができたらいいな」ということ
抜粋(中学生)

子どもの人権に関すること
いじめのないように企画やポスターをつくってほしいです
学校の古すぎる施設をなおすというような要望を中学生から言えたり、中学生の意見を取り入れてくれる市であるようにしてほしい。なんらかの形で中学生の意見を言える窓口があったら便利だと思う。
長時間固い床に座らせないでほしい・子供の意見をもっと取り入れてほしい
いじめ等で学校に来られない人がいなくなるような学校をつくってほしい
昔の価値観にしばられず、子供の考えを聞いてほしい。もっと今の世の中を知って欲しい。
中学生の行動範囲をもっと広げて欲しい・行事の自由度を上げてほしい
中学校から起こりうる可能性の高い暴行やいじめについての対策にもっと徹底的に対策したほうがいいと思う
身近に話ができる人がいるといい。(明るく話してくれる人)
これから育つ子ども達が世間体を気にせず生きれるようにしてほしい。障害者と健常者の共存 学校の種類を増やして。誰にも邪魔されない空間が欲しい。何も言わせてくれないくせに、だまっていると怒るのはやめてほしい。
生徒会とかもっと生徒だけでやるようにしたい。(先生がいちいち口出して決めないでほしい。)
子どもを守る安心、安全の家を増やしてほしい。居場所のない子が行くような、子どもが誰でも行く事の出来る場所をつくってほしい。
家族と一緒にいたくない人のために、別の建物に住みたい。相談できるようにラインを作って欲しい。
観光・環境
松本城の堀の再建など、観光にもっと力を入れてほしい。
自然いっぱい公園があったらいいと思う。そうすれば嫌なこととかを忘れられると思うから。
自然環境のことについて、市民の意見も取り入れてほしい
公園・図書館等の施設の整備
図書館の本をもっと充実してほしい
みんなで遊べるスペースみたいなのが欲しい
市役所などに気軽に使える自習スペースがほしい
遊び場、また図書館など市民の憩いの場になる場所が欲しい
広い和室を自由に使いたい。子供でも使えるような和室がほしい
松本に住んでいる人が自由に使えるPC室
大きな公園がほしい。落ち着いて勉強ができる場所がほしい。
無料で、いつでも誰でも使えるテニスコートをつくってほしい。
サッカーゴールがある公園がほしい。
学校以外の場所でもスポーツがしたい。
コンサートや劇団をホールで見たい。
もっと市の体育館を借りやすくしてほしい。
もっと子供だけで集まれる場所。
松本市内の小中学校と公立高校にエアコンをつけてほしい
学校設備・教育内容の改善
早急な学校へのクーラー設置
ブロック塀をなくしてほしい・パソコンなどの機械にもっとふれておくべきだから、タブレット学習をしたい
学校の耐震を強化してほしい。
学校にソーラーパネルを設置。
学校の施設をきれいにしてほしい。
教室にエアコンをつけてほしい。
宿題をなくしてほしい。
学校のテストをバラバラにやってほしい
かばんをリュックにしてほしい・冬はもう少しあたたかい格好をさせてほしい
学校の先生の「意識の差」をなくしてほしい
子供の働き方改革を授業に取り入れてほしい
教師の質が悪い。教え方が上手ではなくみんな塾に行かないといけなくなっている。教師はもう少し自分の授業に責任をもってください
部活動の時間を増やして欲しい。

週 1 回か月 1 回のペースで個別授業をしてほしい
職場体験でやりたい職をやるようにする
外国人との交流の場をもっとつってほしい
部活動という形ではなく、生徒と保護者だけのスポーツができる活動
自由に生きて、自分に好きな事をするためには、遠い所へ行く必要もあるし、国を越える必要があるので、お金がすごくかかります。お金の使い方、お金の稼ぎ方について、まず大人達が勉強し、それを僕達、小人達に教えてくれればいいなと思います。
冬は女子は制服じゃなくてもよくしてほしい。
中学生、高校生が海外に学びに行くことへのハードルをもう少し下げてほしい。
休日の部活も、土日どっちもやるのではなく、どっちかだけにしてほしい。休み時間や勉強する時間があまりとれないです。
勉強と部活が両立できるように考えてほしい。部活の大会が、テスト前の直前の土日によくあるので、テスト勉強ができない土日どっちかは、部活をなしにしてほしい。他に学校以外の体育館を平日に使わないでほしい。部活以外で強くなりたくはない。そして家族の時間が失われる。
顧問には子どもの事を考えて行動や発言してほしい。もっと部活動にきまりを作って守ってほしい。
議会の傍聴などをもっとみじかなものにしてほしい。また、行われたことを、色々な手段で発信してほしい。
学校の教育の中で、LGBTQ などについて、もっと知ってもらえるようにしてほしいです。無知ゆえの心無い言葉が聞こえることがあります、傷つく人がいると思います、いるんです。私の通う学校だけでなく、国や世界中でそういう活動が広がればいいなと思います。ただ教えるだけでなく、当事者の方々に学校におまねきしてもよいかと思います。おねがいします。
宿題の他にも進学先、就職先の事を踏まえてパンフレットやインターネットでどうい所か一緒に見ること。学校でも模試みたいなテストを宿題として出して欲しい。もっと楽しいことをしたい。
地域との関わり
旧安曇村地域などの活性化になる行事
年齢関係なくかかわれる行事
地域全員が全員あいさつするようにしてほしい
運動が好きだから運動のできる行事が楽しそう
料理を学べる教室(気軽に参加できる)
ボランティア活動を多くしてほしい
祭りなどのイベントを、もっと積極的に行ってほしい。子育てパスポートの使い道を増やしてほしい。
他学年と交流してみたい。・他校と交流してみたい。
松本ぼんぼん以外にも市の行事をつってほしい。
対象の学年の子が集まって勉強できる場所を作り、ボランティアの人を集めて勉強会を開いてほしい。
山雅の選手との交流。・バスケやスポーツなどの交流の場。
市全体での大きなイベント。マラソンとかの運動じゃないやつ。
松本市に限らずですが、動物の殺処分をゼロにする、ペット業界で動物が悪質なめにあわないように、ペットを飼うしくみ、ペットになる動物を育て販売するしくみを 1 から考え直して、改善してほしいと思っています。
教育、農業に人材をもっと使ってほしい。又、農林業を行う人間を誘い、高齢過疎地域に活気を出してほしい。
安全・交通・生活環境
冬の日没時間は早いのに家が遠くて歩きの人は暗くなってしまうから早く帰らせてほしい・街頭を増やしてほしい
道路の拡張・交通渋滞の回避
夜とかによく走っているうさいバイクの取り締まりを行ってほしい
自転車に乗っていると転ぶので、道路のデコボコを少なくしてほしいです。
横断歩道を渡ろうとする人がいたら、しっかり止まってほしい。
道で死角のある所にカーブミラーを付けてもらいたい。街灯などをもっと設置してほしい。
大人の人には「ポイ捨て」をやめてほしいので、やめることができるように工夫してほしいです
松本市の中心街以外の場所にも 100 円バスをつってほしい。
もっと公共の交通手段を充実させてほしい。バスの本数を増やしたり。
もう少し近くに便利な交通機関ができてほしい。
自転車用道路をつってほしい。
冬の通学路の雪かきをしてほしい

図表 65 松本市やおとなに「やってほしいこと」や「こんなことができたらいいな」ということ
抜粋(高校生)

子どもの人権に関すること
先生の介入なしで「学校の実態アンケート」のようなものをしてほしい
11時以降未成年が出歩いちゃいけないやつやめて欲しい(単独キャンプができない)
もっと子供のことを考えてほしい
真実を話せる場が欲しい
学校の先生の対応や言葉遣いがひどいので直してほしい
親ならちゃんと自分のことを見てから色々言ってほしい。なんにも見てないのに色々縛ってくるのはやめてほしい。
一人になりたい時は一人にさせて欲しい。
相談ができる場所がたくさんあるといい。
親から離れたい。
障害者でも受け入れる仕事とクラブをたくさん作って欲しい。
同じ悩みを持つ人同士が集まれる場所や同じ趣味を持つ人が集まる広場が欲しい。
毎日不安などで押しつぶされそうなのをわかってもらって責めないで欲しい。安心できる居場所を少し増やして欲しい。
自習室・図書館・体育館等の整備
8時ごろまで使える自習室・フリースペースの増設(Mウイングの図書室的な)。
休憩する場所を松本駅前に設けてほしい。
楽器を吹ける場所を学校以外にも作っていただけるとありがたいです。
自由に運動できる場所がたくさん欲しい。(体育館等気軽に借りられる)
野外音楽フェスができるような大きな運動公園を作って欲しいです。モリコロパークみたいな。
スポーツができる施設がほしい。図書館がほしい。
図書館以外のお金がかからない学習できる場所を作してほしい(音楽が流れていて話もできて飲食OK)
バスケットコートをもっと作ってほしい(コンクリートの所が波田や飛行場あたりまで行かないとない)。
障がい者でもスポーツのできる所を作って欲しい
教育施設の充実
学校設備・教育内容等の整備
松本市内すべての高校にもエアコンを設置してください
公立高校のトイレ改修
学校が始まるのを遅くして欲しい
私立高校授業軽減してほしい
私立の授業料を半額にするなどの保証をつくってください。
児童手当を確実に子供のために使えるようにして欲しい。
長期休暇(夏休みなど)をもう少し長くして、短期留学などが可能になるようにしてほしい。
「県外の大学に行くけど必ず県内に戻る人」向けの奨学金をもっと出して欲しい。
美術系の専門学校が少ない。
就職したときのこととか、進路進学についてもっと情報が欲しい。
国際交流を盛んにしてほしい。留学の姉妹都市、観光客などが増えたらうれしいです。
もっと高校でも親子レクなどで親と子どもの仲を深められたりすると良いかなと思います。
長野県高校生会議をつくってほしい。
部活終了時間についてもう少し遠距離通学の生徒のことも考えてほしい。
工業の勉強ができる場所
学校の行事で演劇鑑賞がもう1回ぐらいあっても良い。
職場体験実習の機会をもっとほしいです
地域との関わり
浅間温泉の松明祭りを盛り上げる努力をして欲しい。
学校の近隣住民から多くの苦情が来るのがなくなるあたたかい街作り。
高校生が参加できるボランティアの機会を増やして欲しいです。できれば児童保護施設や家庭に複雑な事情を抱え、心を閉ざしてしまった人々、又は行く場所がなくて困っている人々などに関わるものが良いです。
学校と地域との関りを増やした方が良い。地域の方とコミュニケーションを取る事で生徒も地域の方もお互いに大切に思う気持ちができると思う。(小、中、高校)
他の高校との交流の機会を増やして欲しい

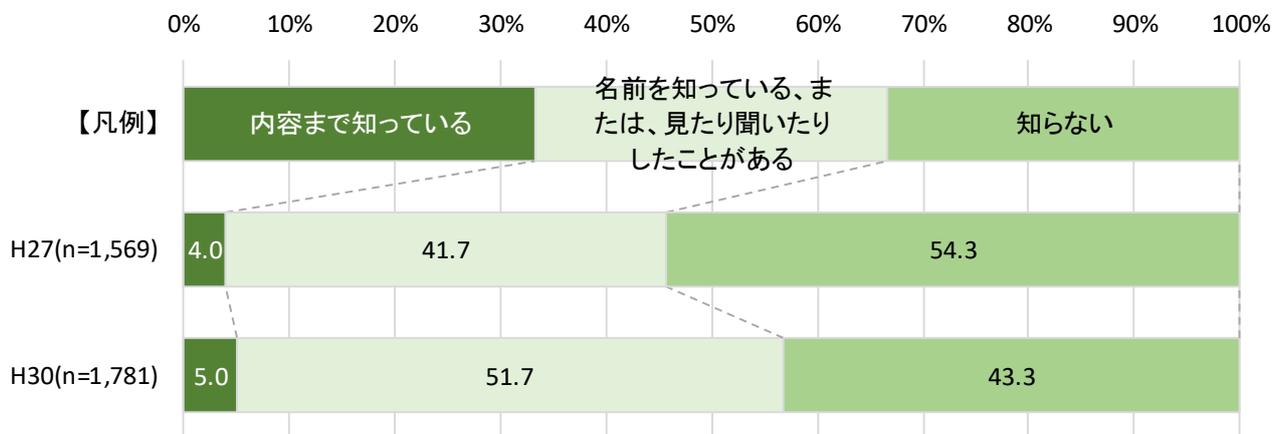
地元のスポーツクラブへの経済的支援の強化
地域でバレーボール等ができるスポーツ大会があるといい
午前中でも盛り上がるお祭りなどを作って欲しい。夜にやると帰りが怖いので午前中がいいです。
安全・生活環境・交通
曲がり角が多いのに、ミラーとかがついてなくて、ぶつかりそうになるから、ミラーなどを付けてほしい。
通学中で自転車を使っているのですが、電柱にぶつかりそうで怖いので、電柱を地下にうめてほしいです。
運転手に交通ルールを守らせてほしい。外灯をつけてほしい。
自転車に乗って松本駅前付近に行くとき、駅前以外に自転車をとめることができる場所が少なくて、不便を感じます。
自転車のレーン・歩道をもっと整備してほしい
雪の日の歩道の整備をしてほしい
街中にゴミ箱を設置して欲しい
タバコのポイ捨てをやめてほしい
バス路線、時刻の見直しをして使い易くしてほしい
電車の本数を増やして欲しい(大糸線)
自転車を止められる施設、スペースがもっとあったら良いと思います。
バス代がもう少し安いといいなと思う。
松本から東京、名古屋までの交通機関を良くして欲しい(電車)
車の渋滞を起さない様にして欲しい。

4. 保護者用アンケート調査結果

(1) 松本市子どもの権利条例について

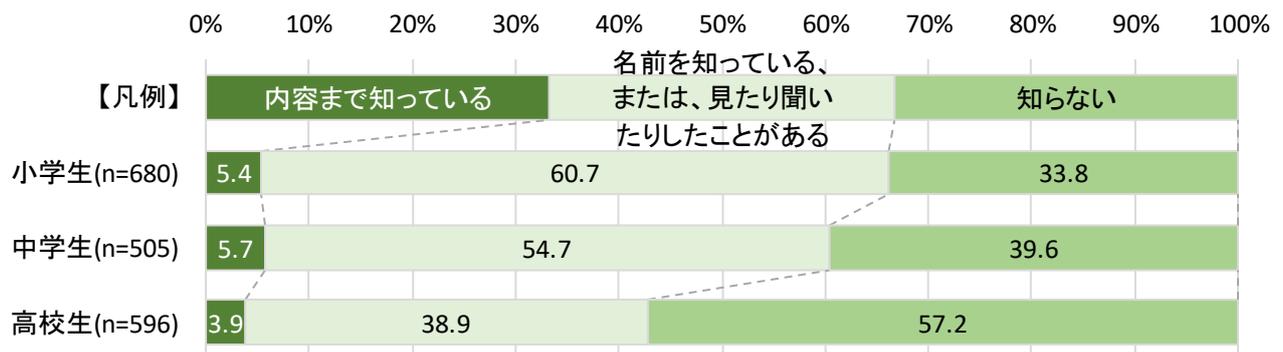
- 平成 30 年度調査では、「内容まで知っている」または「名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある」と回答した割合は 56.7%で、平成 27 年度調査から 11.0 ポイント増加している。
- 子どもの学年別に見ると、「内容まで知っている」または「名前を知っている、または、見たり聞いたりしたことがある」の割合は小学生の保護者で最も高く 66.1%で、学年が上がるに連れて減少する傾向にある。

図表 65 「松本市子どもの権利条例」を知っているか（経年比較）



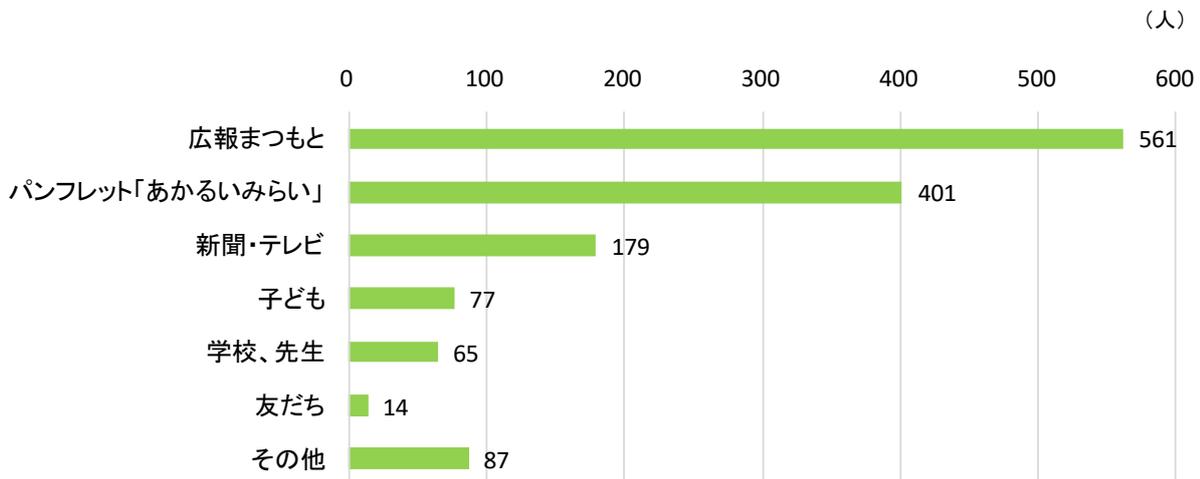
※H27は「名前だけ知っている」

図表 65 「松本市子どもの権利条例」を知っているか（子どもの学年とのクロス集計）



- 保護者が「松本市子どもの権利条例」知った方法は「広報まつもと」が最も多く、ついで「パンフレット」が多くなっている。
- 「松本市子どもの権利条例」ができてよかったと「思う」とする回答は37.9%で、平成27年度調査から8.0ポイント増加した。一方で、「わからない」とする回答は9.6ポイント増加している。
- 子どもの学年別に見ると、小学生の保護者ほど良かったと「思う」の回答が多くなっている。

図表 65 「松本市子どもの権利条例」をどのような方法で知ったか



■その他の内容

学校からのお便り	町会の集まりで
松本市のホームページ	子ども未来委員会に参加したことがある
知人が「こころの鈴」を利用した	子ども TEL110 番
ラジオ	児童館
こころの鈴の連絡先が書いてあるカード	松本市 PTA 連合会の研修会
インターネット	町会で紹介していた講演会を見に行った。
PTA	ファミリーサポート
妹、弟の検診で。	学童クラブ
松本市 PTA の講演会	あがたの森でのイベントに参加したことあり

- 「松本市子どもの権利条例」ができてよかったと「思う」とする回答は37.9%で、平成27年度調査から8.0ポイント増加した。一方で、「わからない」とする回答は9.6ポイント増加している。
- 子どもの学年別に見ると、小学生の保護者ほど良かったと「思う」の回答が多くなっている。

図表 65 「『松本市子どもの権利条例』ができて良かった」と思う理由（抜粋）

一般的に弱い立場にある子どもが守られるから、子どもは大事に育てた方がよいから
条例として明確な指摘になるものがあるのは、よい事だと思う。
親に相談できないことを相談できる場所が無料であると安心する
どの子ども自分が思ったことを言えるべきだと思うので。
基準となるものが文章で表現されて、子ども自身もおかしいと気が付けるきっかけになると思う。
子どもたちは、学校にいた時間がとても長いと思います。先生方から言われたことが、全て正しいというわけではないようです。この条例があることで、一人の人間として子どもが守られていると思っています。
「こころの鈴」市教育委員会、等公的機関に相談した仲間が出て、外部の目が入ったことで、開かれた競技団体、クラブに変わってきていると実感しています。この件に関して「こころの鈴」の方々が非常に丁寧な対応してくれたと聞いています。
子どもにやさしいまちになれば高齢者、生活弱者の方にもやさしい町になると考えています。必然的に住みやすい町となるのではないのでしょうか
高学年になると子ども自身の意志がしっかりとしてくるを感じています。子ども自身の意志をもっとしっかりとまずは聞き入れて、その上で間違えていることは指導してということが大人が未来のある子どもたちにしてあげることだと思います。
息子が小学二年生のとき、こころの鈴のカードを大量にポケットに入れて下校してきました。その頃息子は友人からのいじめに悩んでいました。何かあったらこへ電話相談すると自らいっていたのを覚えています。実際に電話したことはないですが、彼の中では大切な場所のひとつだったと思うからです。
子どもは弱い立場にいて親(うちの場合は父親)が一人の人間として扱わないときがある。当たり散らしたり、怒鳴ったりする。それが当たり前と思っている主人に私もいろいろ言うが変わらない。市の条例ができたことで今は変化はないが、主人がいつか自分がしていることはいけないことだと気付くときが来るのではと希望を持てるようになった
地域として子どもを守り、子どもの成長を支援してくれる姿勢にありがたいと感じたから。家庭内、学校内だけでは、不十分な面もあるので、市としてそういった環境づくりを行ってもらおうと家庭内でも補いやすい。
学校、家、どこにも居場所がないと感じてしまう子の相談できる数少ない場だと思う。
外国から来られた子どもも条例に基づいて、いろんな形で守ってもらえるから。
息子の中学校では、子どもの権利について、どう考えているのだろうか、と心配になる話を聞きます。親はそんなとき、子どもの権利パンフレットを見て、慰められるような気分になり、家庭内ではしっかり子どもを見て守っていこうと気持ちを持つことができました。
自分は子どもの頃、周りの人に言えない悩みがあったので、こういうものがあつたら、きっと相談していた。
家庭環境が良くないケースが多々あり、ある意味子どもが自分の親の被害者になっているのではないかと感じる子がいるので、そういう子どもたちが自分の気持ちを親以外で打ち明けられる場所ができるかも知れないから。
子ども達の相談ができる窓口で、1人で悩んで苦しなくてもよいのかな?とと思った。でも実際、子どもが勇気を出して相談できるかは少し疑問ですが。保護者も相談できる場所も良いと思う。(こころの鈴)
条例にするとその内容に大人も子どもも少なからず触れる機会があるので、意識するし、実現しやすい環境になる。子どもを大切にすることは、世の中をよくすることにもつながるので、とても良い条例だと思います。私たちの住んでいる松本市に、この条例があることは、誇りだと思います。この条例に関しての発信も盛んにされているので、松本市のがんばりを大いに評価したいと思います。全国にももっと広がってほしいです。
「子どもの権利」日々の子育ての中で、考えたことはありませんでした。核家族なので、家庭でしつけないといけない。子どもには自由はないと思っていました。なので上の子は厳しめに、私も力が入りすぎていたかなと反省したのは、下の子が言うことを聞かない子だったからです。上の子の成長と下の子の存在で、個性がいろいろでそれを大切にしなければいけないと。そして「子どもの権利」を知ってから、さらに子どもの考えを尊重することを第一に考え、そのためにどうするかを親子で話すようになりました。

図表 65 「『松本市子どもの権利条例』ができて良かった』と思わない理由

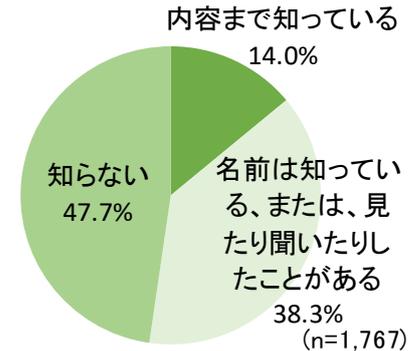
「いのちと健康が守られ」とありますが、親にそれなりの収入がないと食事面、生活面、進学など人並みにできないと思います。本来にすべての子供達に約束ができるでしょうか。
相談しても聞いてくれるだけで、解決の導きにはならないのではないかと
条例ができて何も変わっていないと感じる
知られていなかったら意味がないから。
条例ができることが大切なわけではなく、各専門機関がどれだけ子供のためにうまく連携するかが大切と思う。

(2) 子どもの権利相談室「こころの鈴」について

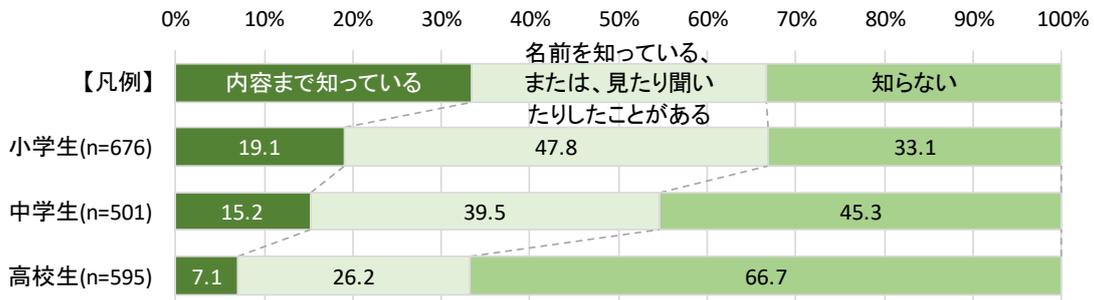
- 「こころの鈴」を「内容まで知っている」という回答は 14.0%に留まっている一方で、「知らない」という回答は 47.7%となっている。
- 子どもの学年別に見ると、学年が上がるほど「知らない」という回答が多くなっている。
- 「こころの鈴」を知った方法としては、「チラシ・パンフレット・カード」が最も多く、ついで「学校、先生」が多くなっている。

図表 65 「こころの鈴」を知っていますか

	度数(人)	割合(%)
内容まで知っている	247	14.0
名前は知っている、または、 見たり聞いたりしたことがある	677	38.3
知らない	843	47.7
合計	1,767	100.0

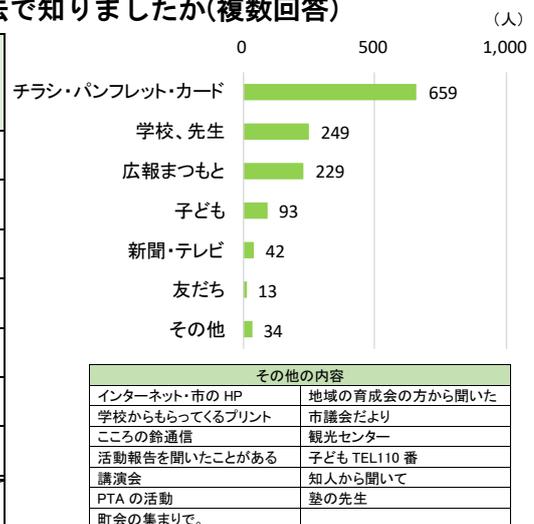


図表 65 「こころの鈴」を知っていますか(子どもの学年とのクロス)



図表 65 「こころの鈴」をどのような方法で知りましたか(複数回答)

	度数(人)	回答者数に対する割合(%)
チラシ・パンフレット・カード	659	71.8
学校、先生	249	27.1
広報まつもと	229	24.9
子ども	93	10.1
新聞・テレビ	42	4.6
友だち	13	1.4
その他	34	3.7
回答者数	918	

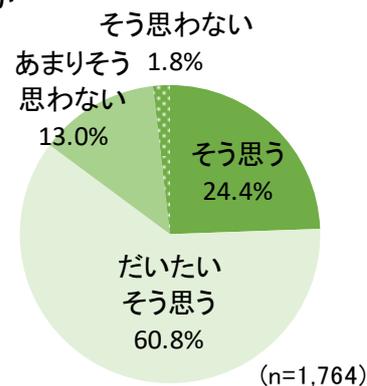


(3) お子さんの自己評価について

- 「お子さんは自分のことが好きだと思っているか」 対して、「そう思う」または「大体そう思う」と回答した保護者は 85.2%となっている。
- 「お子さんは自分には良い所があると思っているか」 対して、「そう思う」または「大体そう思う」と回答した保護者は 89.4%となっている。
- 「お子さんは周りの人から大切にされていると思っているか」 対して、「そう思う」または「大体そう思う」と回答した保護者は 93.9%となっている。

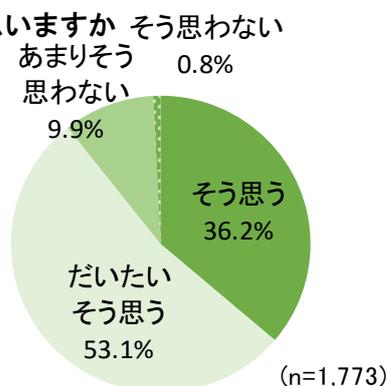
図表 65 お子さんは、「自分のことが好き」と思っていると思いますか

	度数(人)	割合(%)
そう思う	431	24.4
だいたいそう思う	1,072	60.8
あまりそう思わない	229	13.0
そう思わない	32	1.8
合計	1,764	100.0



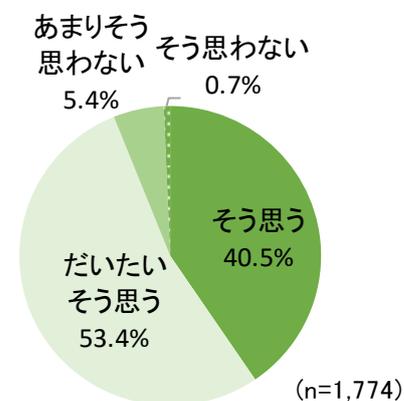
図表 65 お子さんは、「自分には良いところがある」と思っていると思いますか

	度数(人)	割合(%)
そう思う	640	36.2
だいたいそう思う	941	53.2
あまりそう思わない	174	9.8
そう思わない	13	0.7
合計	1,768	100.0



問9 お子さんは、「まわりの人から大切にされている」と思っていると思いますか

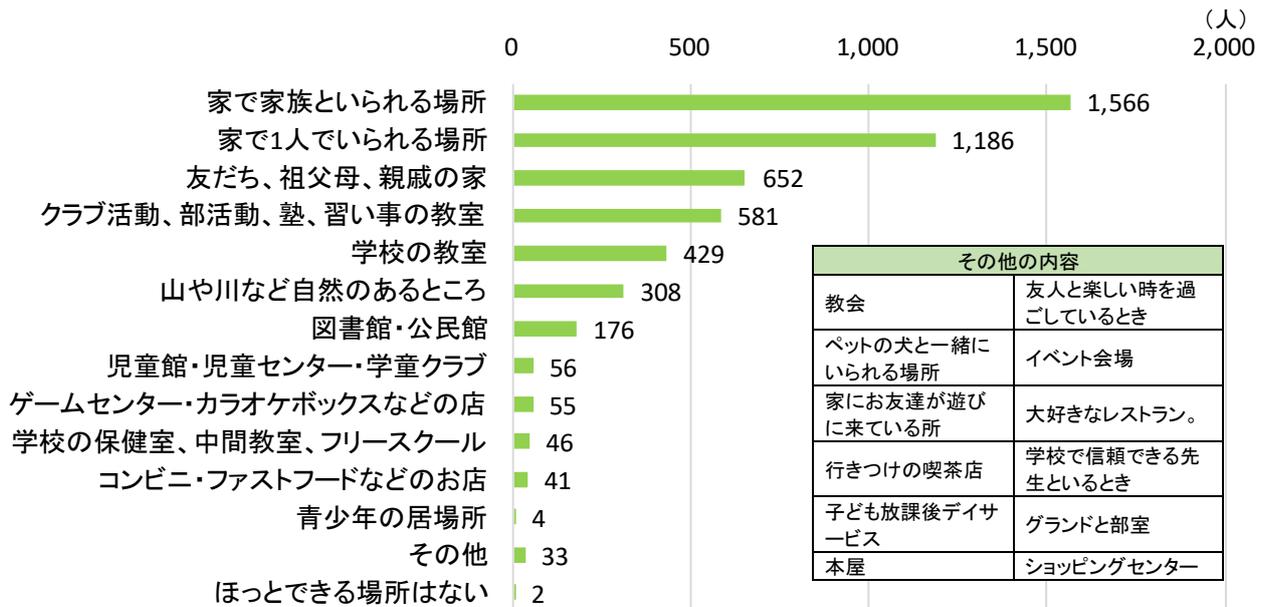
	度数(人)	割合(%)
そう思う	718	40.5
だいたいそう思う	948	53.4
あまりそう思わない	96	5.4
そう思わない	12	0.7
合計	1,774	100.0



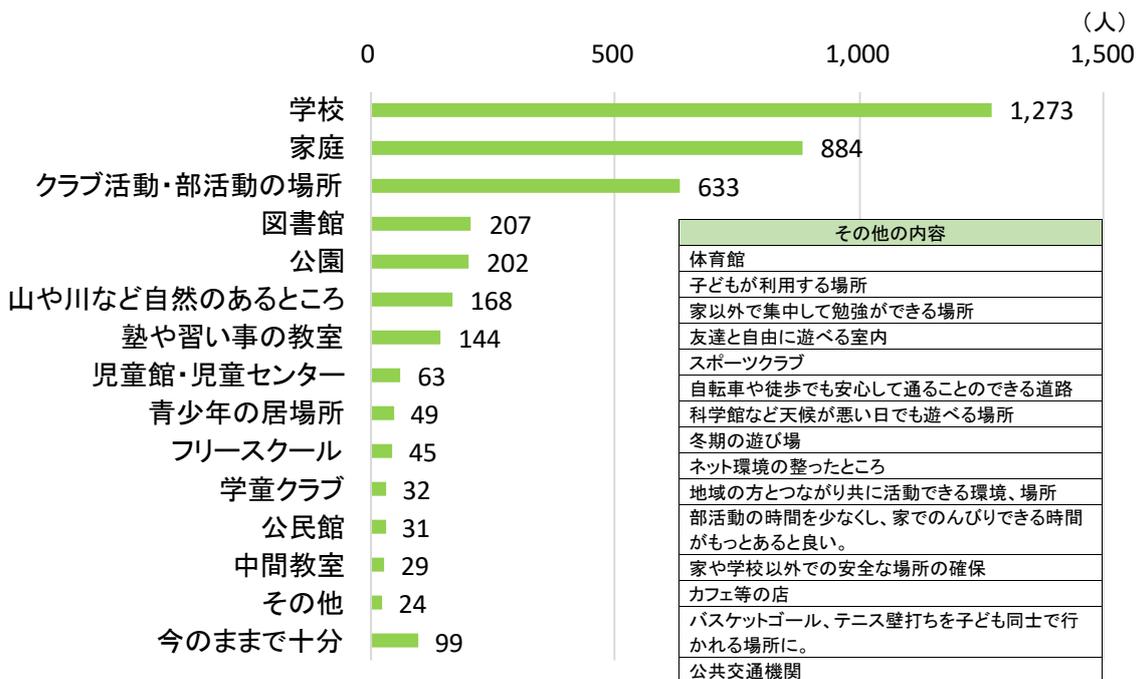
(4) お子さんにとって必要なことや場所について

- お子さんのホッとできる場所として、「家で家族といられる場所」が最も多く回答されている。ついで、「家で一人でいられる場所」が多い。
- お子さんにとって充実するとより場所として、「学校」が最も多く回答されている。ついで、「家庭」「クラブ活動・部活動の場所」となっている。

図表 65 お子さんがホッとできる場所はどこだと思いますか(複数回答)

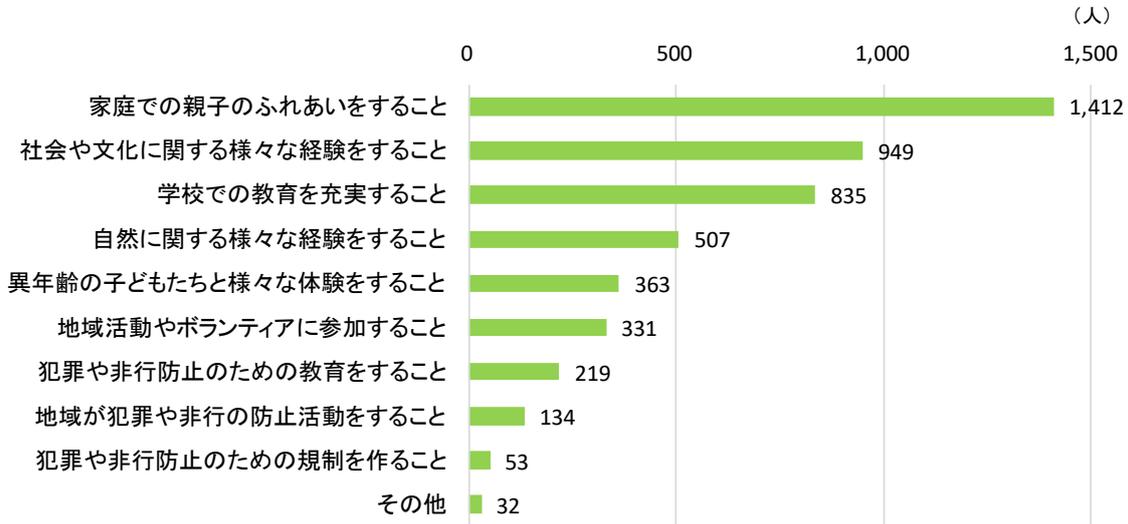


図表 65 お子さんにとってどんな場所が充実すると良いと思いますか(複数回答)



- お子さんが健やかに育つために必要なこととして、「家庭での親子のふれあいをする事」が最も多く回答されており、ついで「社会や文化に関する様々な経験をする事」「学校での教育を充実すること」が多くなっている。

図表 65 お子さんが健やかに育つためにどんなことが必要だと思いますか(複数回答)



その他の内容
スポーツをすること、体を思いっきり動かす事
大人の都合で振りまわさないこと。自己決定できる権利が守られること。
手本となる大人の教育、大人のストレスケア、夫婦が仲良くいること。
いじめ、モラルの教育、小学校から心の仕組みについて学ぶこと。
「大事にされているんだ」と言う自覚があること。
大人がきちんと子どもを見てあげること、過干渉をせずに。
多様な子どもに対応した授業や活動ができること。
夢や希望を持った魅力的な大人の存在、関わり
自分の興味を持てる事柄、場所を見つけること。
会社の理解(子育て中の援助、(休みを取りやすくする)を深める。
自営業の人でも支援を受けられる社会作り。
学校での学習方法の充実、個別、少人数などの対応。
福祉サービスの充実

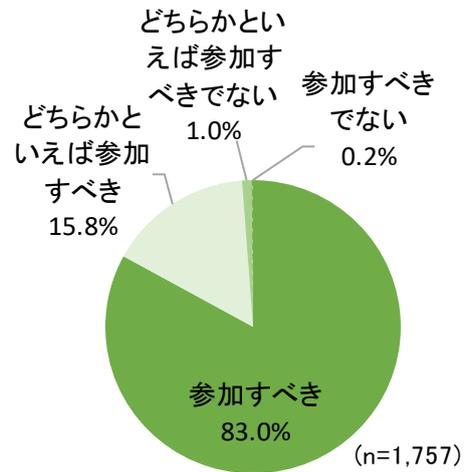
(5) お子さんが自分の意見を言ったりすることについて

- お子さんが意見を言うことに関して、「家庭で大事な物事やルールを決めるときに意見を言うこと」「学校の行事や部活動の企画運営に参加すること」「学校の決まりごとに意見を言うこと」「地域の行事の企画運営に参加すること」は「参加すべき」「どちらかといえば参加すべき」が9割以上を占めている。

図表 65 次の事柄にお子さんが意見を言ったりすることについてどのように思いますか

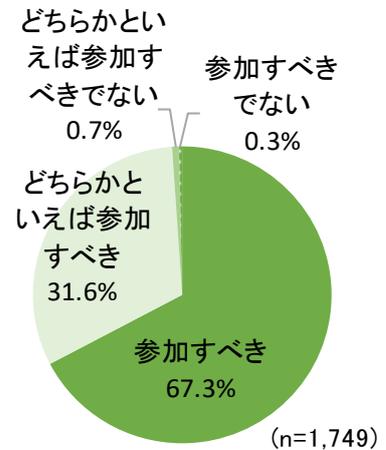
①家庭で大事な物事やルールを決めるときに意見を言うこと

	度数(人)	割合(%)
参加すべき	1,458	83.0
どちらかといえば参加すべき	278	15.8
どちらかといえば参加すべきでない	18	1.0
参加すべきでない	3	0.2
合計	1,757	100.0



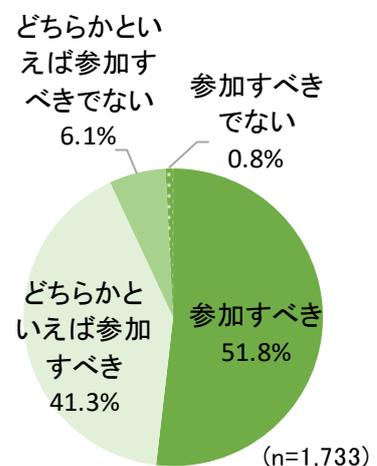
②学校の行事や部活動の企画運営に参加すること

	度数(人)	割合(%)
参加すべき	1,177	67.3
どちらかといえば参加すべき	553	31.6
どちらかといえば参加すべきでない	13	0.7
参加すべきでない	6	0.3
合計	1,749	100.0



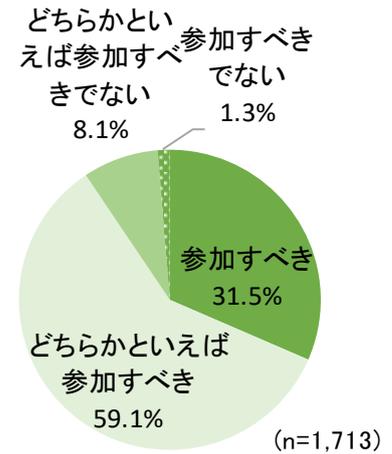
③学校の決まりごとに意見を言うこと

	度数(人)	割合(%)
参加すべき	898	51.8
どちらかといえば参加すべき	715	41.3
どちらかといえば参加すべきでない	106	6.1
参加すべきでない	14	0.8
合計	1,733	100.0



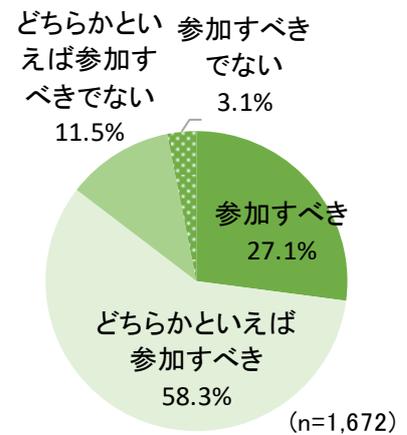
④地域の行事の企画運営に参加すること

	度数(人)	割合(%)
参加すべき	540	31.5
どちらかといえば参加すべき	1,012	59.1
どちらかといえば参加すべきでない	139	8.1
参加すべきでない	22	1.3
合計	1,713	100.0



⑤松本市政に意見を言うこと

	度数(人)	割合(%)
参加すべき	453	27.1
どちらかといえば参加すべき	975	58.3
どちらかといえば参加すべきでない	192	11.5
参加すべきでない	52	3.1
合計	1,672	100.0



(6) 子どもの権利を実現するために必要な取組み

- 子どもの権利を実現するために必要な取組みとして、子ども・大人双方に対して「子どもの権利」についてより一層周知をすること、子どものやりたいことができるような環境を整備すること、学校教育において平等に学ぶ権利を確保しながら多様性を認めあう教育をすること、子どもが相談できる場所を確保することなどが挙げられた。

図表 65 子どもの権利を実現するために必要な取組み自由記述抜粋

子どもの権利の周知
子どもはどうしても社会的に、弱い立場に立たされるため、子ども達自身にも、「自分達には人権(権利)がある」とか教育が必要のちと健康はどうしたら大切にできるかを親子ともに学習できる場所や時間をつくれる取組みがあったらと思います。
こころの鈴については、学校からのお便りで読みやすいので、取組みを知っているが、条例については、長文なのでなかなか読む機会もなく、条例の周知の仕方でもう少し読みやすいものがあれば良いかなと思います。
このようなアンケートをすることで、子どもの権利について無意識で理解している現実から、意識できる気がする。
みんなに条例を知ってもらい、役割をそれぞれがしっかり果たす。
子どもの権利という言葉を使える場所がもっとあればいいと思います。
この言葉はまだ子どもたちには難しいようで、今回のアンケートも意味が分からず回答に困っていました。もう少し、子どもたちが身近に感じられるように、かみ砕いた表現をしてもらえたらよいと思います。
他の地域ではどのような活動があるのかを知ること。全国ではどうか。
保護者に対する周知、啓発等
親や大人がめんどくさがらずに、子ども達の活動に参加すること。地域の活動など
大人に対しても(これから大人になる)子どもに対しても、他人の権利について理解してもらおうような活動をする必要がある。
大人達の意識を変えること。
大人の働き方などにもっと余裕が生まれるような工夫できるといいと思う。
大人の感情のコントロール(子供の話をよく聞いて怒らないようにする)の方法を教える
早期から、親が集まる場所で何度もくり返し意識できる機会があるといいと思います。
父親の学校行事、地区行事の参加(母親の気持ちを理解したり、子供とのふれあい)又、父親が子供の権利を知るための講座の参加。(父親だけが参観する日をつくる)・母親が育児相談を気軽にできる場所の提供。・子供(又は親も)が友だちを作れる場所の提供。(体験教室、バザーや学芸会などの学校行事、公園を増やす。)
子どもに関わる大人の人権意識の向上や啓発・活動子どもも1人の人間として対応。妊娠中から意識できるような講話等
共働きで子供の事ばかり考えるわけにいかず、子供がなやんでいても気付かなかつたりする。もう少し親の時間がほしい。
一般の松本市民に広く知らせられる方法で少しずつ伝わっていくといいと思います。
働いている親が多いので、保育園を増やしたり、子どもを預けるところが増えたりしている気がします。働く親(母親)を増やさないとどうするかをもっと考えたほうが良いと思います。子どもは親と過ごす時間が大切だと思います。
子どもを育てる親の生活を安定させること。貧困の連鎖、暴力の連鎖を断つこと。行政や民間の援助や支援があることを周知させること。教育に関する費用の公費負担。
大人用子どもの権利学習パンフレットなどで4つの権利の具体的例を挙げながら、広く周知する。子育てしていると目に留まることも多いですが、そうでないとあまり条例に関心を持つ人も少ないのではないかと思います。
子どもの自己肯定感、自主性を高める取組、やりたいことを出来る環境の整備
いついかなる場でも、子どもが自己の内面を否定することなく、自由に感じたことを表現できるような空気・空間を作り出していく努力を続けていくことが、必要だと思う。
自分が必要とされていると思える体験ができるいいと思います。
子どもたちだけで何かを作ったりキャンプ?などの体験できる行事があればと思います
広く世の中を見ていく上で、子供自身が興味を持って参加できるような取組みがあればと思う。親としては、安全な環境で様々な体験ができるようになってもらいたい
自らの言葉で自由に意見を表せる場所づくりを多く体験できるようにしてほしい
子どもが自由に遊べる場として、公園をたくさん作ってほしい。今住んでいる地区には、歩いてすぐに行ける所に公園がない。
子どもがバドミントンをやっているが、中学校ではバドミントン部がある中学がこの地域では1校しかないので中学になったら、部活動しか出られない大会などの出場が出来なくなる。
先生たちの仕事の大変さが増している中、行事が減少し、子ども達の体験する機会が減少。先生の仕事をバックアップしたり→シルバー、支援員(アルバイト)補充するしくみをつくり子ども達の体験する権利を守る。

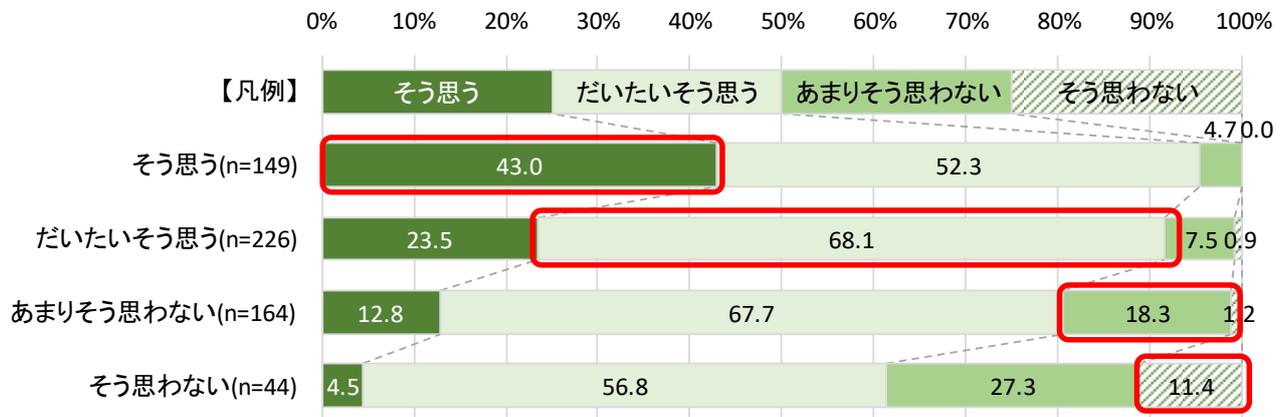
市役所、支所等、身近な行政を子ども達に学校行事で見学して見てほしい。(数年前は県庁見学があったが、なくなりました。)行政が身近なものであることがわからないと、実際子ども達が意見を出しにくいと思う。
学校での授業も1コマでも各々が自ら学ぶ目標や内容を決定して実行していくなど。受け身ではなく能動的な、学校生活を営めるような取組みが必要だと思います。
PTA や地域の行事などもう一度見直し、必要ないものは解体させる。子どもは本当は嫌で、参加したくないものは無理にさせたい。「良い子」のふりをしているいじめっ子の中には、親が原因の家庭が多く見られるので、親の考えが変わらないと、権利を奪われる子どもは減らないと思います。
子どもは学ぶ権利があると思う。ただ教わるだけでなく、大人が好きなこと、得意なことを、楽しいよ、興味を持って欲しいなという気持ちで子どもたちに伝えてくれる人から学ばせたい。地域の工場に見学させてもらえて、とてもありがたい。高校や大学なども子どものうちから見る機会や、授業が受けられたら、もっと子どもの世界が広がると思う。
子どもの学習意欲、興味を高める博物館や施設の無償化。
習い事をしていると親の勝手とも思える理由で、習わせてもらえない子どもをよく見かける。そういった子もなにかしらやりがいを見つけれられるものがあると良いと思う。
学校教育の充実、改善、障がいのある子どもなどの居場所の確保
学校は子ども的人数も多く活気もありますが、学校では先生の日も行き届きづらく、寂しい思いをしたり辛い思いをする子もいると思います。大人のボランティアをもう少し充実させた方がよいと思います。
学校の授業について。これが権利ということになるのかよくわからないけれど、子どものクラスは37名いてクラス全体がとても騒がしい。まじめな子はうるさくても我慢し続けるしかなく、次第にやる気がなくなっていく。教育をきちんと受ける権利があると思う。できるなら先生、市、一緒になって「手のかかる子」を別の特別クラスにしてほしい。
平等に教育の機会を与えるために、塾や通信教育などなくても良いように、教員を増やすのは無理ですか？先生ひとりではフォローできないと思います。エアコンの設置など、学校の環境の改善も急務だと思います。
通学区の変更等(規則の見直し等)実際に学校生活を送ることもたちの意見をまったく聞くことなく、限られた大人の意見に偏って決定していくべきではないと思います。地域の関わりや行事も大事とは思いますが、それ以前に子どもたち自身の心の安定があるべきではないでしょうか。高学年もしくは5、6年生には意見を求められる機会を設けるべきだと思います。
様々な障害や病気を学び、お互いの特性が理解できるような場を提供してほしい
差別、偏見にとらわれず、多様性を尊重するためのイベントや啓発活動が必要だと思う。
子どもの教育の充実。・少数クラス・支援の必要な子、家庭への配慮・多様性を認める道徳観の形成 特に道徳については、今後、教科になることを踏まえ、同一の価値観が形成されないよう、いろいろな価値観、考え方があり、1人1人違って、みんなが認められ、大切にされるべきであることをしっかり、伝えていってほしいと思います
不登校や障害児などの子どもへの支援はもちろんの事。軽度の発達障害(障害認定に至らない子も含む)や情緒不安定な子どもの学校や地域などでの支援や放課後や休日の子どもの居場所作り。
様々な障害や病気を学び、お互いの特性が理解できるような場を提供してほしい
不登校の子どもたちの居場所づくり。フリースクールなど松本市は少ないと思う。
小学校では個別に勉強を教えてもらえるが、中学に行くと個別教室はなく、勉強の面の障害を感じていて、全部一緒にやらなければならない。
子どもたちが教育を受ける権利について。今、集団の中では過ごせない子が増えていると思います。そのようなお子さんは、集団に入ることが苦しく、不登校になりがちです。特別支援学級の1つにそのような集団の苦手な子が通えるような場所ができること良いのでは。
障がいを持っていることもたちの学びの場を柔軟に考えてほしい。支援級の状況がわからないが、個々が学びやすい環境になると良いと思う。学ぶ権利もあるのだから。
相談できる場所の確保
学校や家に言えなかったり、自分の意見があれば書いたり、つたえられるアンケートや、意見表など、子供達の中で何かの問題に対して考え、思いを文にしたり、自分なりの気持ちが出せたら、いいと思う。
子供が相談できる場所があることは子供自身もわかっているようですが、気軽に相談できる場所という風に思っていないようです。「家族や友達に相談できないようなことも話せるから、もし何かあったら一人で悩まず相談してみたら良いかも」と伝えてありますが実際にはむずかしいかと…。
実際に話を聞ける場所をもうけるなど(学校へ行くなど)大切だと思う。
働いていて留守しがちな家庭の子どもが安心して気軽に行けたり相談できる場所をたくさんつくること
いろんな大人の方々と行動を共にしたり話をできる場が増えたらと思います。保健室のような体調の悪いとき、優しく話を聞いてくれたり休ませてくれる場を例えば学校の図書室のような、そこに行くだけで先生を話すとはっとする場(今がそうになっています)が増えたらと思います。
小中学校の保健室登校の子どもや不登校の子の悩みを聞いてあげられる人。子の不安感を少しでも取り除いてあげられる人が親以外にも必要だと思う。どんな親も子育ての悩みを多かれ少なかれ抱えている。ママ友達に聞いてもらえる人はよいが、そうでない人が気軽に外向ける場所もあったらいいと思う

5. 親子ペア分析

(1) 「自分のことが好きか」に関する親子の認識のずれ

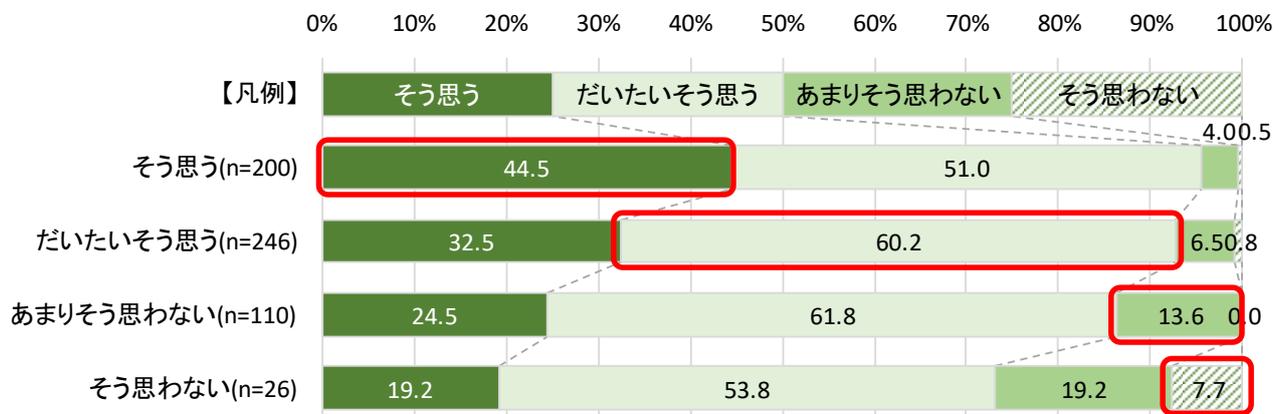
- 親子セットで回収ができた調査票で、親子で同様の設問についてクロス集計を行うことで、親子の認識のずれについて分析を行った。
- 子どもの自己肯定感に関する設問では、子どもの自己肯定感が高い親子の方が認識が一致している割合が高い傾向にある。「自分のことが好きか」では、「そう思う」の項目では43.0%が、「だいたいそう思う」の項目では68.1%が一致している。一方で、自己肯定感が低い子どもの親子では、子どもの自己肯定感を親が過大に評価している傾向がある。

図表 65 縦軸【こども】自分のことが好きか
×横軸【保護者】お子さんは「自分のことが好き」と思っていると思うか



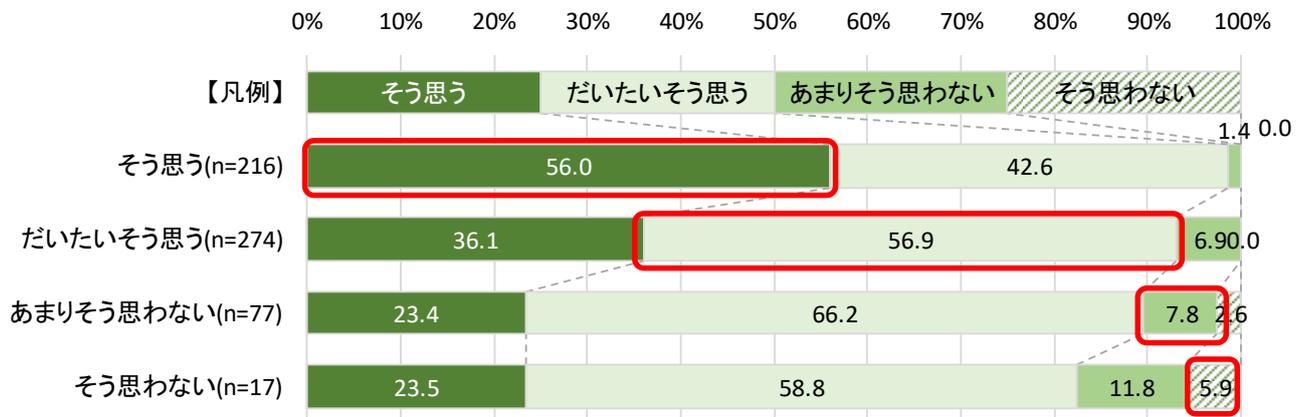
※枠：親子で一致している項目の割合

図表 65 縦軸【こども】自分には良い所があると思うか
×横軸【保護者】お子さんは「自分には良い所がある」と思っていると思うか



※枠：親子で一致している項目の割合

図表 65 縦軸【子ども】周りの人に大切にされていると思うか
 ×横軸【保護者】お子さんは「周りの人に大切にされている」と思うか



※枠：親子で一致している項目の割合

(2) 「ホッとできる場所の認識」のずれ

- ホットできる場所について、親子の認識の差を見ると、保護者が思うほど「家族といられる場所」や「友だちの家、祖父母や親戚の家」「部活動やクラブ活動の場」が子どもにとってホットできる場所とはなっていないという認識のずれが見られる。特に「リビングなど家で家族といられる場所」は親子の間で28.5ポイントの差がある。

